

2026年度

SYLLABUS

(授業科目の紹介)



Oita University of Nursing and Health Sciences

大分県立看護科学大学

目次

授業科目（2026年度） 表 開講科目一覧（令和4年度改正カリキュラム）

1年次開講科目	1学期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p1
	2学期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p27
	3学期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p62
2年次開講科目	1学期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p65
	2学期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p92
	3学期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p115
3年次開講科目	1学期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p126
	2学期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p153
	3学期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p163
4年次開講科目	1学期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p181
	2学期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p194

開講科目一覧

この表は、令和4年度以降の入学者に適用されるものです。
 詳細な開講期間は時間割を参照してください。

表 開講科目（令和4年度改正カリキュラム）

科目・単位・年次配置等					1年次			2年次			3年次			4年次			掲載頁	備考		
区分	担当科目群	科目名称	形態	単位		1st	2nd	3rd	1st	2nd	3rd	1st	2nd	3rd	1st	2nd			3rd	
				必修	選択												必修回数	必修		選択
人間科学領域	こころの理解	人間関係学	コミュニケーション論	講義	1	8	■											1		
		人のこころの働き	講義	1	8														2	
		人間関係学	講義	1	8														27	
		カウンセリング論	講義	1	8														29	
		◎発達心理学	講義		1	8													92	
		◎行動療法論	講義		1	8													115	
		◎音楽とこころ	講義		1	8													93	
	◎美術とこころ	講義		1	8													94		
	社会生活の理解	言語学	大学ナビ講座	講義	1	8													4	
			英語Ⅰ-A1	講義	1	10														5
			英語Ⅰ-A2	講義	1	10														30
			英語Ⅱ-A1	講義	1	10														65
			英語Ⅱ-A2	講義	1	10														95
			英語Ⅰ-B1	講義	1	10														6
			英語Ⅰ-B2	講義	1	10														31
			英語Ⅱ-B1	講義	1	10														67
		英語Ⅱ-B2	講義	1	10														96	
		◎英語Ⅲ	講義		1	10													163	
		人文社会科目	言語表現法	講義	1	8														33
			◎韓国語	講義		1	8													34
			◎哲学入門	講義		1	8													62
	◎社会学入門		講義		1	8													35	
	◎法学入門（日本国憲法）		講義		2	15													36	
	◎文化人類学入門		講義		1	8													98	
	◎保健ボランティア※	演習		1	15															
	◎「自由科目」 本学であらかじめ指定した本学と他大学の開講科目の中から2単位を上限に本学の人間科学科目・社会生活の理解の選択科目単位として認定する。																			
	環境と情報の理解	環境保健学	環境保健学概論	講義	1	10													8	
			環境保健学詳論	講義	1	10													126	
			放射線健康科学	講義	1	10													69	
			環境疫学・生物学演習	演習	1	15													165	
健康情報科学		健康情報学	講義	1	10														38	
		生物統計学	講義	1	10														39	
		健康情報処理演習Ⅰ	演習	1	15													9		
		健康情報処理演習Ⅱ	演習	1	15													40		
生体科学		生体構造・機能論Ⅰ	講義	2	20														11	
		生体構造・機能論Ⅱ	講義	2	20														13	
		生体代謝論	講義	2	20														42	
		応用生体機能病態論	講義	1	10														194	
からだの理解		生体反応学	病理学総論	講義	1	10													44	
			病理学各論	講義	1	10													45	
			微生物免疫論	講義	1	10													47	
		健康運動学	薬理学Ⅰ	講義	1	10														70
			薬理学Ⅱ	講義	1	10														127
			◎健康運動学演習	演習		1	15													99
統合科目		健康スポーツ	実技	1	15														48	
		健康運動学	講義	1	10														71	
	健康運動ボランティア演習	演習	1	15														15		
	◎スポーツ救護（救急法含む）	講義		1	10													16		
小計	生命科学入門	講義	1	8														18		
	◎看護サイエンス入門	講義		1	8													19		
	健康科学実験	実験	2	30														100		
小計			40	15	421	137														

※2026年度は開講なし。

◎印の選択科目は「選択科目の履修に関する表」を確認し修得すること
 ※養護教諭1種免許取得を目指す場合、法学入門（日本国憲法）を要履修

表 開講科目（令和4年度改正カリキュラム）

科目・単位・年次配置等					1年次			2年次			3年次			4年次			掲載頁	備考	
区分	担当科目群	科目名称	形態	単位		1st	2nd	3rd	1st	2nd	3rd	1st	2nd	3rd	1st	2nd			3rd
				必修	選択														
基礎看護科学科目	基礎看護学	看護学概論	講義	1	10													20	
		看護理論入門	講義	1	8														50
		身体観察技術論	演習	1	15														21
		身体安楽援助論	講義	1	8														52
		生活援助技術論	演習	1	15														53
		診療補助技術論（基礎編）	演習	1	15														72
		基礎看護学実習	実習	2	40														63
	看護アセスメント学	看護疾病病態論Ⅰ	講義	2	20														55
		看護疾病病態論Ⅱ	講義	1	10														57
		ヘルスアセスメント	演習	1	15														74
		看護アセスメント学概論	講義	1	10														76
		看護アセスメント学演習	演習	1	15														102
		看護アセスメント学実習	実習	2	40														116
小計		小計	16	221															
専門看護学科目	成人看護学	成人看護学概論	講義	1	8													78	
		成人看護援助論Ⅰ（急性期）	講義	1	8													79	
		成人看護援助論Ⅱ（回復期）	講義	1	8													80	
		成人看護援助論Ⅲ（慢性期）	講義	1	8														118
		成人看護援助論Ⅳ（終末期）	講義	1	8														166
		成人看護学演習	演習	1	15														128
		成人看護学実習Ⅰ	実習	2	40														153
		成人看護学実習Ⅱ	実習	2	40														154
	老年看護学	老年看護学概論	講義	1	8														82
		老年看護援助論Ⅰ	講義	1	8														104
		老年看護援助論Ⅱ	講義	1	8														120
		老年看護学演習	演習	1	15														130
		老年看護学実習	実習	1	20														155
	小児看護学	小児看護学概論	講義	1	10														83
		小児看護援助論Ⅰ	講義	1	10														132
		小児看護援助論Ⅱ	講義	1	10														133
		小児看護学演習	演習	1	15														135
		小児看護学実習	実習	2	40														156
	母性看護学	母性看護学概論	講義	1	8														84
		母性看護援助論Ⅰ	講義	1	10														121
		母性看護援助論Ⅱ	講義	1	10														137
		母性看護学演習	演習	1	15														138
		母性看護学実習	実習	2	40														158
	精神看護学	精神看護学概論	講義	1	8														105
精神看護援助論Ⅰ		講義	1	8														122	
精神看護援助論Ⅱ		講義	1	8														140	
精神看護学演習		演習	1	15														141	
精神看護学実習		実習	2	40														159	
小計		小計	33	0	441	0													
広域看護学科目	看護管理学	看護管理学概論Ⅰ	講義	1	8													106	
		看護管理学概論Ⅱ	講義	1	8													168	
		看護政策論	講義	1	8													181	
		家族看護学概論	講義	1	8													107	
		在宅看護学概論	講義	1	8													143	
		在宅看護援助論	講義	1	8													169	
		在宅看護学実習	実習	1	20													182	
	地域看護学	健康支援概論	講義	1	8														59
		地域看護学概論	講義	1	8														123
		地域生活支援論	講義	1	8														145
		地域看護学実習	実習	1	20														161, 184
	国際看護学	国際看護学概論	講義	1	8														23, 85
		国際看護比較論	講義	1	8														171
		◎国際看護学演習	演習	1	15														86
社会看護学	社会保障システム論Ⅰ	講義	1	8														108	
	社会保障システム論Ⅱ	講義	1	8														186	
小計		小計	15	1	144	15													
統合科目	予防的家庭訪問実習Ⅰ	実習	1	20														25	
	予防的家庭訪問実習Ⅱ	実習	1	20														88	
	予防的家庭訪問実習Ⅲ	実習	1	20														146	
	予防的家庭訪問実習Ⅳ	実習	1	20														188	
	災害看護学	講義	1	10														173	
	◎基礎看護援助技術演習	演習	1	15														124	
	臨床看護援助技術演習	演習	1	15														147	
	◎応用看護援助技術演習	演習	1	15														195	
	総合看護学実習	実習	2	40														190	
	看護科学研究	講義	1	8														175	
	卒業研究	演習	4	60														192	
原著講読	演習	1	15														193		
小計		小計	14	2	228	30													
合計		合計	118	18	1455	182													

◎印の選択科目は、「選択科目の履修に関する表」の基準単位以上修得すること

表 開講科目（令和4年度改正カリキュラム）

科目・単位・年次配置等					1年次			2年次			3年次			4年次			掲載頁	備考	
授業科目				形態	単位		授業回数		1st	2nd	3rd	1st	2nd	3rd	1st	2nd			3rd
区分	担当科目群	科目名称			必修	選択	必修	選択											
養護教諭科目（選択）		教職概論	講義	2		15												60	・養護教諭免許を取得するには左記25単位に加えて、人文社会科学目の「法学入門（日本国憲法）」の単位を取得する必要があります。 ・養護教諭科目は、卒業要件の選択科目の単位数に含められません。
		養護概論Ⅰ	講義	1		8												109	
		教育学概論	講義	1		8												90	
		生徒指導	講義	2		15												91	
		教育相談	講義	2		15												110	
		学校教育心理学	講義	2		15												112	
		教育課程論	講義	1		8												113	
		学校保健学	講義	2		15												176	
		教育方法論	講義	1		8												149	
		特別支援教育論	講義	1		8												150	
		養護概論Ⅱ	講義	1		8												151	
		道德、総合的な学習及び特別活動	講義	1		8												152	
		教育制度論	講義	1		8												178	
		養護実習事前事後指導	講義	1		8												179	
		養護実習Ⅰ	実習	1		20												180	
		養護実習Ⅱ	実習	3		60												197	
	教職実践演習（養護教諭）	演習	2		30												199		
小計					25														

選択科目の履修に関する表

	領域	授業科目	配当年次	単位	要件
選択科目A	人間科学	韓国語	1	1	4単位以上
		哲学入門	1	1	
		社会学入門	1	1	
		法学入門（日本国憲法）	1	2	
		音楽とこころ	2	1	
		美術とこころ	2	1	
		文化人類学入門	2	1	
		自由科目（上限2単位）	1~4		
選択科目B	人間科学	看護サイエンス入門	1	1	6単位以上
		スポーツ救護（救急法含む）	1~4	1	
		発達心理学	2、4	1	
		行動療法論	2~4	1	
		健康運動学演習	2	1	
		英語Ⅲ	3	1	
	看護学	国際看護学演習	2~3	1	
		保健ボランティア※	3	1	
	統合科目	基礎看護援助技術演習	2	1	
		応用看護援助技術演習	4	1	

（自由科目除く） 合計 18

※2026年度は開講なし。

1 年次開講科目

1 学期開講

開講科目名 / Course	コミュニケーション論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	秋本 慶子	
担当教員名 / Instructor	秋本 慶子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	情報を「受信し」「理解し」「発信する」という視点からコミュニケーションを理解することを目的とする。前半では、文化や個人の傾向が、コミュニケーションを規定していることを知り、認識を客観視する「メタ認知」の視点を考える。中盤では、人間特有の受信の限界を認め、情報を届けるための配慮を学ぶ。後半では、個人の情報処理が「集団」と言う場において受ける影響を学び、集団との関わり方について模索する。	
到達目標	1. コミュニケーションが受信、理解、発信で成り立つことを説明できる。 2. 文化や知識が情報解釈に与える影響について、具体的な事例を挙げて記述できる。 3. 自分と異なる他者の価値観や知識、考え方の違いを踏まえ、自分の考えを効果的に伝える方法を列挙できる。 4. 「集団」と言う場がコミュニケーションに与える影響を説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性	
授業計画	01. 文化とコミュニケーション：異なる価値観に関わる 02. 自己理解とスキーマ 03. 情報を処理する 04. 情報を受信する 05. 情報を発信する 06. 集団における情報受信 07. 集団における情報処理 08. 集団で考えることの意味	
その他の授業の工夫	・学習の構えの形成促進のため、毎時「めあて」を提示する。 ・話し合いを通じて、他者との違いに気づき、それを共有する機会を持つ。 ・理論の理解で終わらず、実生活での実践につなげて考えられる機会とする。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容に関する予習（7h）。 事後学修：小テストや講義内容に関する事後課題を課す（15h）。	
評価方法と評価割合	数回の課題レポートまたは小テスト（70%）と受講態度（発言の積極性、コメント、質問、グループワークへの貢献度等：30%）により行う。	
テキスト	テキストは使用せず、毎回、ハンドアウトを配布する。	
参考書	対人援助の現場で使える 聴く・伝える・共感する技術 便利帖（翔泳社）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	人のこころの働き
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First
開講区分 / semester offered	1 学期 / First
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	8
科目の目的と概要	人が外の世界を認識する働き、外の世界との相互作用を通して自分自身や他者の行動パターンが変化していくメカニズムを学ぶ。可能な範囲で、受講者自身が簡単な実験の被験者となる機会を提供する。講義は、時間外課題に取り組むために必要な情報を収集する「時間、空間」として位置づけられる。参加した、楽しかったで終わらないように、授業中にメモを残すなど、各自が時間外課題を意識しながら、工夫して講義に参加することが求められる。講義内容をまとめるのは、あくまでも受講者の役割となる。この点をしっかりと認識して講義に臨むことが必要となる。
到達目標	1. 講義中に理解した内容を、パラグラフライティングの手法に沿って簡潔に要約できる。 2. 要約の理解を促す、適切な具体例をあげることができる。 3. 講義中に提示される課題に取り組む、自分で考えて自分なりの答えを出す。 4. 講義内容に基づき、日常生活の諸事象を解釈する。 5. 周囲の学習者と課題の解決に向けて話し合う。 6. 自分自身の学習の進捗状況を把握したうえで、適切な学習行動をとる。
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、6.探究心と創造力
授業計画	01. 外の世界の認識（1）：「みる」とはどのような活動なのか？ 02. 外の世界の認識（2）：「きく」とはどのような活動なのか？ 03. 外の世界の認識（3）：記憶の仕組み、はたらきについて 04. 外の世界の認識（4）：非合理的な問題解決者としてのヒト 05. 学習の基礎理論（1）：古典的（レスポンド）条件付けの基本原則 06. 学習の基礎理論（2）：古典的（レスポンド）条件付けによる諸現象の理解 07. 学習の基礎理論（3）：道具的（オペラント）条件付けの基本原則（自発的行動） 08. 学習の基礎理論（4）：道具的（オペラント）条件付け（強化と弱化的基本原則）
その他の授業の工夫	・ 毎回、抽選で座席を指定する。 ・ 挙手による発言行動、掲示板への投稿が強化されるよう、学習環境を調整する。 ・ 授業終了後に、受講者がお互いの課題作成をサポートできるような環境を構成する。 ・ 毎時、講義前、終了後に取り組む時間外課題を課す。 ・ 各自の学習状況が確認できるよう、累積平常得点を確認できるようにする。
時間外学修	・ 毎時、講義終了後に、講義内容の要約、コメント（日常の振り返り）をメインとした事後課題（ショートレポート）を課す（12h）。 ・ 事前に視聴する動画（5分前後）を指定し、講義冒頭で理解状況を確認するための小テストを実施するので準備をすること（6h）。 ・ 授業後に、受講者が質問をあげたり、意見を述べ、学生が相互に交流できる掲示板を提供する（4h）。
評価方法と評価割合	期末の試験は実施しない。事前課題の小テスト（4点/回）、講義内容の要約課題（5点/回）、授業を受けてのコメント（3点/回）、授業での発表（1点/回）、web掲示板への投稿（1点/回）、時間外の掲示板への投稿（3点/回）の得点を8回分集計して評価する。評価の基準は初回講義時に説明資料を配布する。講義を欠席した場合、その回に課された全ての課題を提出することができない。単位認定方法について、初回にプリントを配布し説明するので、出席すること。8回目の講義終了時点で、合計得点が合格ラインに達しなかったものが希望した場合（のみ）、再試験を実施する。
テキスト	特になし。毎時、ハンドアウトを配布する。ハンドアウトに加えて、自分が作成したレポート、webに投稿された他学生のレポートを参照することで、講義内容の理解が深まるように自分なりの講義ポートフォリオを作成することを推奨する。
参考書	基礎から学ぶ認知心理学--人間の認識の不思議(有斐閣ストゥディア)

履修する上で必要な要件		
その他	世の中に出ると、色々な人とそれなりにかかわるスキルが求められます。付き合う相手を選び好みできるのは、学生の間までです。今から、少しずつで良いので慣れていきましょう。幸い、人には環境に順化するという素晴らしい能力があります。みんなともいることができるし、一人でもいることができる。どちらも愉しめる。こんな感じです。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：公認心理師、学校心理士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	学校で頻繁に観察される事象を用いて、課題を構成したり、例示を行う。例えば、不登校を、弱化的メカニズムで説明するなど。学校での当たり前が、心理学の知見から解釈すると必ずしも合理的とはいえない例なども併せて紹介する。	

開講科目名 / Course	大学ナビ講座	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	定金 香里、吉村 匠平、品川 佳満、福田 広美、杉本 圭以子、石丸 智子、川南 公代、堀裕子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	大学教育のカリキュラムをはじめ、大学で学ぶうえで基本となる、読む、書く、話す、伝える技術を身に付け、自らの将来ビジョンを描き目標を明確にする。	
到達目標	1. 本を読むこと、考えること、伝えること、文章を書くことなど大学リテラシーの基本を学び実施できる。 2. 大学で何を学ぶのか、大学での学習が円滑にできるための知見を得ることで大学における学習を行うことができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力	
授業計画	01. 大学で学ぶということ/大学カリキュラムの方針、考え方 02. メモ・ノートの取り方/大学の授業と試験の受け方 03. 図書館の利用法 04. 伝える技術：アサーション（さわやかな自己主張） 05. 伝える技術：文を書く、レポートを書く 06. ネットリテラシー/心の健康の維持増進 07. 大学生活の送り方 08. 看護と将来の進路と多様な看護の現場	
その他の授業の工夫	大学リテラシーを早く身に付け大学生活に活かせるよう、初期に授業を組み込んでいる。	
時間外学修	担当教員の課題レポートなどの指示に従う。 事前学修：事前課題やレポートにより講義に関する予習を行う（7h）。 事後学修：事後課題やレポートにより講義に関する復習を行う（15h）。	
評価方法と評価割合	すべて出席することが評価の前提である。欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席2回にて成績評価レベルを一段階下げる。また欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席4回にて最終レポート提出の資格を失う。提出物20%、最終レポート80%。	
テキスト	必要に応じて、プリントを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	附属図書館に勤務する司書
実務経験をいかした教育内容	病院の看護師として実務経験をもとに本学において看護学を学ぶ方法を教授する。附属図書館に勤務する司書としての実務経験を活かし、本学で学生が図書館を有効活用しながら効果的に学習する方法を教育する。	

開講科目名 / Course	英語 - A 1	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	宮内 信治	
担当教員名 / Instructor	宮内 信治	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	文法に基づいて英文の内容を理解しながら、スムーズに音読できる力を養う。また、平易な英文で書かれた本を多読することにより英文処理能力を高める。発音記号と調音法を教授する。エッセイや文学作品から英文を精選し、その英文を書写、音読、暗唱することにより、英語の定着を図る。	
到達目標	1. 英文をスムーズに音読できる。 2. 講義期間中に実施される複数回の英文暗唱Reviewにすべて合格する。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、5.地域性・国際性	
授業計画	01. 概説：教材紹介、講義の流れ、取り組み方 02. Dale Carnegie 1：話法、現在分詞付帯状況 03. Dale Carnegie 2：分詞構文、接続詞 if 04. Anne Morrow Lindbergh 1：並置、neither nor 05. Anne Morrow Lindbergh 2：倒置、分詞形容詞的用法 06. Mitch Albom 1：動名詞、間接疑問 07. Mitch Albom 2：関係代名詞目的格 08. Bertrand Russell 1：仮定法未来、前置詞付き関係代名詞、談話標識 09. Bertrand Russell 2：挿入、コロン、無生物主語、接続詞 provided 10. 学習内容の振り返り	
その他の授業の工夫	課題英文の暗唱または聞き取りの確認として、講義開始時にペアワークを行う。	
時間外学修	事前学修：学習予定の章全体を通して3回読む。不明な語句を調べる（5h）。 事後学修：指定された課題英文について以下の作業を行う（14h）。 1) CDリスニング1日1回以上 2) 音読1日5回以上 3) 書写1日1回以上 1)、2)、3)を1セットとして5日分行い、指定された課題英文を暗唱できるようにする。	
評価方法と評価割合	期末筆記試験（70%）、英文暗唱Reviewまたは聞き取りDictation（30%）で評価する。講義終了までの期間に、教員により指定された英文暗唱ReviewまたはDictationすべてに合格していること、および授業中に教員により適宜出される課題にすべて合格していることを期末筆記試験受験要件とする。欠席・遅刻（早退）は減点する。欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席3回にて成績評価レベルを一段階下げる。また欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席4回にて期末筆記試験の受験資格を失う。授業に積極的に参加していない態度、授業に対する敬意を欠く態度、授業進行妨害行為などは、教員の判断により減点対象扱いとする場合がある。授業への出席状況などは学生が自らの責任において把握管理すること。	
テキスト	こころの音読（講談社）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	英語 - B 1
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First
開講区分 / semester offered	1 学期 / First
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	G.T. Shirley
担当教員名 / Instructor	G.T. Shirley
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	10
科目の目的と概要	English language ability is important for nurses. English I-B 1 is an English communication course. The course goal is for students to improve their basic English speaking and listening skills. A wide variety of relevant and meaningful speaking and listening activities are used in class to maximize student interaction. This is a learner-centered class, so students must participate actively in every class.
到達目標	1. Students can practice speaking English. 2. Students can practice listening to English. 3. Students can practice their overall English communication skills. 4. Students can actively participate in English group work. 5. Students can actively support and help partners during English pair work and group work.
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、5.地域性・国際性
授業計画	01. Introduction, People (1) interview 02. People (2) conversation 03. Food (1) interview 04. Food (2) conversation 05. Group work communication project 06. Home (1) interview 07. Home (2) conversation 08. Shopping (1) interview 09. Shopping (2) conversation 10. Review speaking & listening
その他の授業の工夫	This is a student-centered class that uses active learning. The teacher does not call on students to answer questions or recite dialogues during class. Students do speaking and listening activities together in pairs and small groups to maximize student interaction. Such interaction teaches students the importance of mutual support in language learning. The teacher monitors student practice and offers support and encouragement when necessary.
時間外学修	In the week before each class, students should prepare by reading all materials and looking up words and phrases that they do not understand (7h). In the week after class, they should review all materials and practice the pronunciation of difficult words and phrases so they can use these smoothly and effectively during the next class (12h).
評価方法と評価割合	Active Class Participation, Effort and Attitude During Each Class: 50% Test: 50% (注) Important Information 1: Absence (regardless of reason) or non-participation in two classes results in a reduction of the final class grade down one level; in three classes it results in a reduction of the final class grade down two levels; in four classes it results in a failing grade. (注) Important Information 2: Students, not the instructor, are responsible for being aware of the number of their absences.
テキスト	No textbook will be used. The instructor will provide students with materials for classroom use in each class.
参考書	
履修する上で必要な要件	

その他	Let's have fun practicing and improving our English!	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	環境保健学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名 / Instructor	小嶋 光明、恵谷 玲央	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	環境汚染が人の健康に及ぼす影響を、公衆衛生・環境保健学の枠組みで理解し、科学的根拠に基づいて健康リスクを評価し、社会で実装される対策（リスク管理・リスクコミュニケーション）まで説明できる力を養う。大気・室内環境などの身近な生活環境から、化学物質・粒子・放射線などの物理・化学的要因に起因する曝露に伴う健康影響、さらに地球規模の環境変化に伴う健康影響まで、具体例を通して環境リスクについて説明できるようになる。あわせて、環境要因が関与する代表的な健康影響の一つとしてがんを取り上げ、発がんの基本的な仕組みと、疫学・毒性学的根拠にもとづく評価とリスクの成り立ちや意思決定の考え方について説明できるようになる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちの健康と環境との関係を説明できる。 2. 環境汚染による曝露の特徴（曝露経路、曝露量・頻度、感受性、体内動態）を説明できる。 3. 環境要因が関与する健康影響の代表例として、がんとは何かを説明できる。 4. 健康影響を評価する基本的方法（疫学研究、毒性試験、エビデンスの読み方）を説明できる。 5. 健康リスク評価の流れ（有害性確認、量 反応評価、曝露評価、リスク判定）を説明できる。 6. 環境リスクの概念を説明できる。 	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 環境と健康に関する社会問題 02. 環境保健の基礎概念 03. 健康影響の考え方 04. 身近な生活環境と健康リスク（1）室内環境と健康の関係 05. 身近な生活環境と健康リスク（2）食品と健康課題 06. 身近な生活環境と健康リスク（3）感染症と健康影響 07. 物理・化学的要因による曝露と健康影響（1）大気汚染と健康影響 08. 物理・化学的要因による曝露と健康影響（2）化学物質ばく露と健康影響 09. 物理・化学的要因による曝露と健康影響（3）放射線ばく露と健康影響 10. リスク評価・リスク管理とリスクコミュニケーション 	
その他の授業の工夫	毎回、講義のポイントを問う小テストを行う。	
時間外学修	<p>事前学修:次回の学習内容について調べ、配布資料等を用いて予習する（6h）。</p> <p>事後学修:小テストや配布資料を用いて復習する（13h）。</p>	
評価方法と評価割合	小テスト（40%）と筆記試験（60%）	
テキスト	事例で読み解く 環境汚染と健康リスク：大気汚染から気候変動,マイクロプラスチックまで（朝倉書店）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	健康情報処理演習
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First
開講区分 / semester offered	1 学期 / First
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	品川 佳満
担当教員名 / Instructor	品川 佳満、野津 昭文、岡田 悠希
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	演習
授業回数	15
科目の目的と概要	学習や業務に必要なICT（情報通信技術）のスキルを高めるために、データ管理、ネットワーク・クラウド利用、文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトの活用、データベース検索、AIの活用等について、演習形式で学習する。
到達目標	1. サーバやクラウドサービス（生成AIを含む）の利用ができる。 2. ワードプロソフトを用いて基本的な文書作成ができる。 3. 静止画像・動画の作成、編集ができる。 4. マルチメディアを活用したプレゼンテーション資料の作成ができる。 5. 表計算ソフトを用いて基本的なデータ処理が行える。 6. インターネットや文献データベースを利用し、必要とする情報を高い精度で検索できる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力
授業計画	01. ネットワークの利用(1) サーバ、クラウドサービスの利用 02. ネットワークの利用(2) データ管理 03. 文書作成の基礎 04. 画像処理の基礎 05. 動画処理・プレゼンテーション 06. 表計算(1) 基礎 07. 表計算(2) 計算・関数 08. 表計算(3) ソート、抽出、関数を使った集計 09. 表計算(4) ピボットテーブルを使った集計 10. 表計算(5) グラフ 11. 表計算 習熟度の確認(1) 計算・関数を中心とした総合課題 12. 表計算 習熟度の確認(2) データ集計・グラフ化を中心とした総合課題 13. データベースの利用(1) 情報検索の基礎 14. データベースの利用(2) 文献・図書DB 15. 生成AIの学習・研究への活用
その他の授業の工夫	クラウドサービスの活用により、インターネットにつながる環境であれば、どこからでも講義資料の閲覧や演習課題に取り組むことができる。
時間外学修	事前学修：Classroomにアップロードした資料や事前学修用の動画等を閲覧しておく（4h）。 事後学修：毎回練習問題・課題を提示する。その問題を解くことで、知識・技術が身についているか確認を行う（8h）。
評価方法と評価割合	練習問題・課題：60% コンピュータを利用した実技試験：40% 練習問題・課題は、毎回出題する予定であり、情報技術・知識の修得状況を評価する。なお、期限後に提出された課題や欠席した回の課題は、減点または評価対象外とする。 欠席が5回を超えた場合、不合格となる（20分までの遅刻は2/3の出席、それを超えると欠席として取り扱う）。また、他人のファイルをコピーして提出したことが発覚した場合、試験を正当な理由なく欠席した場合は、不合格となる。
テキスト	特に指定しない。 毎回ハンドアウトを配布する。参考図書は適宜紹介する。
参考書	系統看護学講座 別巻 看護情報学（医学書院）
履修する上で必要な要件	

その他	年度始めに開催されるオリエンテーションで、看科大IDや情報処理教室の利用法の講習を受けること。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	生体構造・機能論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	濱中 良志	
担当教員名 / Instructor	濱中 良志	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	20	
科目の目的と概要	高度に統合された生命体である人体の構造と機能を学ぶことにより看護の現場における患者の抱える疾患を理解し、質の高いケアを提供できる能力を養うことを目的とする。人体を構成する各々の臓器を構造的・機能的な視点から肉眼的な視点に至るまで学習し、各臓器の相互関係についても理解を深める。	
到達目標	1. 呼吸器・循環器・血液・腎臓・泌尿器を中心に人体のホメオスタシスについて説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	01. ホメオスタシス 02. 循環器 (1) 心臓の構造 03. 循環器 (2) 心臓の興奮 04. 循環器 (3) 心電図 05. 循環器 (4) 心周期 06. 循環器 (5) 血圧の調節 07. 循環器 (6) リンパとリンパ管 08. 循環器 (7) 循環器系の病態生理 09. 循環器の習熟度チェックと総括 10. 呼吸器 (1) 呼吸器の構造 11. 呼吸器 (2) 呼吸運動の調節 12. 呼吸器 (3) ガス交換 13. 呼吸器 (4) 呼吸器系の病態生理 14. 血液 (1) 血液の組成と機能 15. 血液 (2) 血液凝固 16. 血液 (3) 血液疾患の病態生理 17. 腎・泌尿器 (1) 尿生成と排泄の概要、尿の性状 18. 腎・泌尿器 (2) 尿生成過程：糸球体の構造と機能 19. 腎・泌尿器 (3) 排尿路と排尿調節、体液調節機構 20. 腎・泌尿器 (4) 腎臓から分泌される生理活性物質 実施する順番については、変更する場合がある。	
その他の授業の工夫	配信動画による事前学習を前提として授業を組み立てる。	
時間外学修	YouTube の配信動画 (HAMANA+K+チャンネル；心電図：暗記からの卒業シリーズ、国試対策：暗記からの卒業シリーズ https://www.youtube.com/channel/UCTSwGFAu2uGIfaCVi6zSwcQ) の授業の該当箇所を視聴して事前学修 (18h) 及び授業後の復習 (20h) とする。	
評価方法と評価割合	筆記試験による評価：80% 動画での予習・復習における学習評価：20%	
テキスト	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] (第10版) (医学書院) 2) 病気がみえるvol.1～8 (メディックメディア) 3) 病気がみえるvol.11 (メディックメディア)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	濱中良志：臨床医 (外来と当直業務)

教員以外で指導に関わる者の実務 経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	臨床の場で体験した事例を基にして授業を行う。	

開講科目名 / Course	生体構造・機能論
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First
開講区分 / semester offered	1 学期、2 学期 / First, Second
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	濱中 良志
担当教員名 / Instructor	濱中 良志、坪内 優太
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	20
科目の目的と概要	高度に統合された生命体である人体の構造と機能を学ぶことにより看護の現場における患者の抱える疾患を理解し、質の高いケアを提供できる能力を養うことを目的とする。人体を構成する各々の臓器を構造的・機能的な視点から肉眼的な視点に至るまで学習し、各臓器の相互関係についても理解を深める。
到達目標	1. 神経系・感覚器・消化器・内分泌を中心に人体のホメオスタシスについて説明できる。
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力
授業計画	01. 神経 (1) 神経系の構造と機能 02. 神経 (2) 運動神経と感覚神経 03. 神経 (3) 脊髄神経と脳神経 04. 神経 (4) 神経系の病態生理 05. 感覚器の構造と機能 06. 疼痛の病態生理 07. 骨・筋肉の構造と機能 08. 骨・筋肉の病態生理 09. 神経系・感覚器・骨・骨格筋の習熟度チェックと総括 10. 生体防御 (1) 生体バリア、体温調節、自然免疫に関わる細胞と機能 11. 生体防御 (2) 抗原提示、獲得免疫に関わる細胞と機能 12. 消化器 (1) 口・咽頭・食道の構造と機能 13. 消化器 (2) 消化器 腹部消化器の構造と機能 14. 消化器 (3) 肝臓・胆のうの構造と機能 15. 消化器 (4) 膵臓の構造と機能 16. 内分泌 (1) ホルモンの特徴、視床下部、下垂体から分泌されるホルモンと分泌調節 17. 内分泌 (2) 副甲状腺、甲状腺から分泌されるホルモンと分泌調節 18. 内分泌 (3) 副腎から分泌されるホルモンと分泌調節 19. 生殖 生殖器の構造と機能 20. 生体防御・消化器・内分泌・生殖器の習熟度チェックと総括 実施する順番については、変更する場合がある。
その他の授業の工夫	配信動画による事前学習を前提として授業を組み立てる。
時間外学修	YouTube の配信動画 (HAMANA+K+チャンネル; 心電図: 暗記からの卒業シリーズ、国試対策: 暗記からの卒業シリーズ https://www.youtube.com/channel/UCTSwGFAu2uGIfaCVi6zSwcQ) の授業の該当箇所を視聴して事前学修 (18h) 及び授業後の復習 (20h) とする。
評価方法と評価割合	筆記試験による評価: 80% 動画での予習・復習における学習評価: 20%
テキスト	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] (第10版) (医学書院) 2) 病気がみえる vol.1~8 (メディックメディア) 3) 病気がみえる vol.11 (メディックメディア)
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	・本科目は、「生体構造・機能論I」の学習と連携している。「生体構造・機能論I」で学んだ内容も重複して含まれているので、関連性をその都度確認しながら学習を進める。 ・本科目で扱う内容を十分理解するには、予習、復習が必要である。予習、復習の仕方については1回目の講義のなかで説明する。

教員の実務経験	有・無	有
	内容	濱中良志：臨床医（外来と当直業務） 坪内優太：理学療法士としての臨床系経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	臨床の場で体験した事例を基にして授業を行う。	

開講科目名 / Course	健康運動ボランティア演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	稲垣 敦	
担当教員名 / Instructor	稲垣 敦	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	人、社会、自然と直接かかわるボランティアを通して、他者や社会に役立つことで喜びを感じ、人間としてごく自然な温かい感情を育む。地域や社会の構成員としての自覚を確認し、相互に支え合うという意識を醸成する。学習意欲を高め、就職を含め将来の人生設計に役立てる。	
到達目標	1. ボランティア活動の意義を説明できる。 2. ボランティアをする上で大切なことを説明できる。 3. 地域に愛着をもつ。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性	
授業計画	01. オリエンテーション、レクリエーション 02. 希望調査 03-15. 各種ボランティア活動（週末等）	
その他の授業の工夫	ボランティアの希望調査を行い、受講者が主体的に複数の異種のボランティアに参加できるようにする。 本学の教員の協力を得て、また県や市町村、その他、多くの学外の団体等と連携する。	
時間外学修	各ボランティア終了後、レポートを作成して提出する（12h）。	
評価方法と評価割合	レポート(100%)	
テキスト	必要に応じて資料を配付。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	ボランティアを通して、人にとって、社会にとって、そして、これからのあなたの人生において重要なことに気づきます。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	スポーツ救護（救急法含む）	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1,2,3,4	
主担当教員 / Main Instructor	稲垣 敦	
担当教員名 / Instructor	稲垣 敦	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	一般社団法人大分県スポーツ学会、または日本スポーツ救護看護学会（以下、学会）主催のスポーツ救護講習会を一般の受講者といっしょに受講し、スポーツ大会やトレーニング場面で選手や観客を救護するための知識や技術を身につける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ救護における基本的なケアを説明できる。 2. 日本赤十字社による救護法の「赤十字ベーシックライフサポーター認定証」を得る。 3. スポーツ救護認定試験に合格して、「スポーツ救護員」に認定され、看護師国家試験合格後に「スポーツ救護ナース」に認定される。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 健康スポーツ学総論（講義） 02. スポーツ救護・小処置（講義） 03. スポーツ救命救急講習（講義・実技） 04. スポーツ頭部外傷（講義・実技） 05. スポーツ栄養学（講義）、スポーツ薬学（講義） 06. スポーツと内科疾患（講義） 07. スポーツ歯科学（講義） 08. スポーツと運動器疾患・テーピング（講義・実技） 09. スポーツ熱中症（講義・事例検討）、小児救急概論（講義） 10. スポーツ障害・スポーツ外傷（講義・実技） <p>年度によって内容は若干異なります。</p>	
その他の授業の工夫	<p>経験豊富な多彩な講師陣による（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、健康運動指導士、トレーナーほか）。</p> <p>講義だけではなく、実技も含まれる。</p> <p>日本赤十字社の基礎講習を受講でき、手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AED（自動体外式除細動器）を用いた電気ショックなどを習得できる。</p>	
時間外学修	テキストを使って復習したり、スポーツ救護の事例検討会やスポーツ救護活動に参加する（19h）。	
評価方法と評価割合	スポーツ救護認定試験（100%）	
テキスト	当日配付。	
参考書		
履修する上で必要な要件	別途受講料が必要。	
その他	<p>大分県スポーツ学会のHPから、各自で受講を申し込んでください。募集定員を超えた場合は抽選等となりますので、早めに応募してください。講義は週末の2日間で、別途、参加費がかかります。基本的に受講のキャンセルはできません。日程や会場は未定です。日本赤十字社による救護法の基礎講習が含まれており、手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた電気ショックなどを習得でき、「赤十字ベーシックライフサポーター認定証」が得られます。認定試験に合格すると「スポーツ救護員」に認定され、学会が毎年開催する医師等によるスポーツ救護の事例検討会に参加できます。また、本学卒業時に看護師国家試験の合格を学会に連絡すれば「スポーツ救護ナース」に認定されます。認定後は、学会から県内スポーツ大会の開催情報がメールで送られてきますので、応募して救護班として活動できます（有償）。</p>	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、健康運動指導士、トレーナー。
実務経験をいかした教育内容	それぞれの分野の専門家による講義だけではなく、スポーツ救護の現場で遭遇しやすい状況や救護者が迷う状況の実技指導を行う。	

開講科目名 / Course	生命科学入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名 / Instructor	定金 香里、小嶋 光明、坪内 優太	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	生命科学の領域は、ヒトのゲノム解読を筆頭に、近年大きな発展を遂げ、診断、治療に反映されつつある。その基本概念を理解することは看護学を専攻する学生に必要不可欠である。本講義はその一助として生命科学の基礎知識を教授する。また、高校までに生物を十分に習得できなかった学生にも配慮して、入門的講義内容としている。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の構造と機能が説明できる。 2. DNAと遺伝子の違いが説明できる。 3. 代謝の仕組みを説明できる。 4. 生物の増殖と成長の仕組みを説明できる。 5. 私たちの生活の中で生物学が何に活用されているか説明できる。 	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 生物の特徴とその種類 02. 細胞の構造と機能 03. 遺伝とDNA 04. 遺伝子の発現 05. 物質と代謝 06. 生物の増殖と成長 07. 動物の組織と器官 08. 生物学の応用 	
その他の授業の工夫	毎回講義で小テストを行うことで講義内容の理解を深めるようにしている。	
時間外学修	<p>事前学修:次回の学習内容をテキストを用いて予習する(7h)。</p> <p>事後学修:小テストや配布資料を用いて復習する(15h)。</p>	
評価方法と評価割合	筆記試験100%	
テキスト	大学1年生のなっとく!生物学(講談社)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	看護サイエンス入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	吉田 成一	
担当教員名 / Instructor	吉田 成一、恵谷 玲央、岡田 悠希	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	高校までに「数学」、「物理学」、「化学」を十分に習得できなかった学生が看護学を専攻する学生として専門分野の知識を修得する上で必要となる各領域の基本的事項を学ぶとともに、看護学と各領域の関連について学ぶ。	
到達目標	1. 看護活動で用いる物質の特性について「化学」的な内容を説明できる。 2. 保健統計資料の理解や分析に「数学」の基礎知識を応用できる。 3. 看護活動における様々な現象や行動について「物理学」の基礎知識を応用できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力	
授業計画	01. 化学の基礎 02. 有機化学 03. 高分子化学 04. 指数・対数、微分・積分 05. 場合の数、確率 06. 力学 07. 熱力学と波動 08. 電磁気	
その他の授業の工夫	毎回講義で小テストを行うことで講義内容の理解を深めるようにしている。 また、各回の事後学修についてGoogle Classroomを活用し、担当教員が適宜助言を行っている。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について配布資料や教科書を用いて予習する（6h）。 事後学修：小テストや自主学習課題（学習ノートの提出を含む）を用いて復習するとともに、理解できない内容については、次回の講義までに担当教員等に確認する（16h）。 各回講義後に、「1. 講義内容のまとめ・整理」を行い、さらに提示された「2. 事後学修課題」に取り組むこと。	
評価方法と評価割合	試験（100％）	
テキスト		
参考書	化学：大人のための高校化学復習帳（ブルーバックス 講談社） 数学：統計学のための数学入門 30講（朝倉書店） 物理：[完全版]ベッドサイドを科学する：看護に生かす物理学（学研メディカル秀潤社）	
履修する上で必要な要件		
その他	化学で指定している参考書は、講義に用いる配付資料とリンクしているため、購入することが望ましい。 数学で指定している参考書は、数学が苦手かつ高校の時の教科書が手元にない人は購入することが望ましい。 物理で指定している参考書は、より発展的に学びたい受講生に推奨するものである。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	秦 さと子	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	本講義では、看護を原理的・本質的に理解し、看護を探究し創造する基盤を養うことを目的とする。看護の基盤となる主な概念を学び、看護の対象となる人とその生活を理解するとともに、看護提供のしくみ及び看護専門職の役割・機能について学習する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何かについて自分の言葉で述べるができる。 2. 看護の役割や機能について説明できる。 3. 看護の対象にとっての健康と生活との関係について述べるができる。 4. 看護提供のしくみについて説明できる。 5. 看護専門職としての基本的な態度について説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 看護とは (1) 看護の本質、看護の役割と機能 02. 看護の提供者 (1) 看護の変遷 03. 看護の提供者 (2) 現在社会における看護、継続教育とキャリア開発 04. 看護の対象の理解 (1) 統合体としての人間、生活者としての人間 05. 看護の対象の理解 (2) 健康と生活 06. 看護提供のしくみ (1) 看護実践と質保証；看護技術 07. 看護提供のしくみ (2) 看護実践と質保証；看護記録、看護研究 08. 看護提供のしくみ (3) 医療安全と医療の質保証 09. 看護提供のしくみ (4) 看護サービスの提供の場と管理 10. 看護における倫理 	
その他の授業の工夫	自分で考え、創造していく力を養うため学生間で話し合ったり、発表する機会を設定する。前回の授業での学びを授業開始時に反復する機会を持つ。さらに当該授業での終わりには、学びを振り返ることで、自分の考えをまとめたり深めることを目的にミニレポートを課す。	
時間外学修	事前学修：授業計画に基づき、テキストや副読本等による事前学習を行うことを推奨する（5h）。事後学修：指示されたテーマに基づいて、参考書等を用いて記述し提出する（ミニレポート）（14h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験（50％）、提出物（50％）で評価する。筆記試験は1回実施する。提出物には、ミニレポートを含み、ミニレポートの内容や提出状況も評価に含まれる。無断欠席や遅刻、途中退席（理由に応じて）、居眠り、授業の妨げになるようなおしゃべりは減点とし、発言などの積極性を加点とする。	
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論（医学書院） 2. 看護覚え書（現代社） 	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	秦さと子：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の対象となる多様な人々との関りや看護現場での具体例を示すことで学生の興味を引き、イメージしにくい抽象的学習内容や臨床現場を理解しやすいように工夫する。	

開講科目名 / Course	身体観察技術論
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First
開講区分 / semester offered	1 学期 / First
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	石丸 智子
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、石丸 智子、田中 佳子、神矢 恵美、後藤 壮登
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	演習
授業回数	15
科目の目的と概要	解剖生理に基づき、看護の展開につながる身体的な情報を収集する方法を学び、身体観察技術を身につけることを目的とする。人が生きていくために必要な「恒常性の維持」と「日常生活行動」を枠組みとし、各技術の背景にある原理や科学性を理解しながら技術演習を行う。
到達目標	1. 身体観察の意義と基礎的手技（問診・視診・聴診・触診・打診）について説明ができる。 2. 正確な情報を得るために、身体観察技術を正しく実施することができる。
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能
授業計画	授業は原則2コマ続きを8回実施する（計15回） 01. オリエンテーション、身体観察の基本的な手技の手順 02-03. 消化器系：「食べる」「排泄する」に必要な口腔内、腹部の観察、食事介助、口腔ケア 04-05. 恒常性の維持（体温・呼吸）：体温測定、呼吸器の観察 06-07. 恒常性の維持（体液循環(1)）：脈拍測定、経皮的酸素飽和度の測定、末梢循環の観察 08-09. 恒常性の維持（体液循環(2)）：血圧測定、心音の聴取 10-11. バイタルサイン測定のまとめ 12-13. 恒常性の維持（脳神経）：意識レベルの観察（JCS/GCS）、瞳孔の観察 14-15. 筋・骨格系：座位・立位・歩行や日常生活動作に必要な筋力と可動域 * 詳細は別途資料を配布する
その他の授業の工夫	・ 教員による講義はオンデマンド配信とし、科目開講期間中、視聴したいときに繰り返し視聴できる。 ・ 自己学習力の育成、限られた時間を効率よく活用するために「事前課題」を課す。 ・ 事前課題は演習で使用する課題事例に関する個人ワークとe-learning（Nursing-Skills）とする。 ・ 演習時間内はグループ演習とし、学生同士で協力しながら課題事例に取り組むことで理解を深める。 ・ いろいろな考えや視点に伴う方法の多様性を理解するために、他のグループの事例展開を共有する。 ・ グループ演習の成果については、ICT（SIM System、Google Workspace）を活用して、客観的な評価と課題を明確化する。また、その内容をもとに事前課題レポートを修正し、技術の習得につなげる。 ・ 人が生きていくために必要な「恒常性の維持」と「日常生活行動」を観察の枠組みとし、看護を学び始めた1年次生にも理解しやすい構成としている。
時間外学修	・ 事前課題：該当授業に関するNursing-Skillsの小テストを授業前日までに個人学習する。担当教員が事前に提示する課題事例に関するレポートを作成し提出する（8h）。 ・ 事後学習：グループ演習の成果をもとにレポートを提出する。また、授業時間内での学習では技術修得は困難であり時間外に反復学習が必要である。方法としてNursing-Skillsを用いて自己学習する他、事前のアポイントメントにより教員による技術指導も可能である（4h）。
評価方法と評価割合	事前・事後課題、授業態度、技術試験を総合して評価を判定する。 配点は事前課題：20%、事後課題10%、授業態度：10%、実技試験：60%とする。 実技試験6割未満、あるいは事前課題、事後課題、授業態度、実技試験の総合点が6割未満である場合は、単位認定不可とする。授業態度はグループ演習での授業参加度や学生デモンストレーションへの参加度を評価する。 原則100%出席とし、欠席・遅刻は減点対象となる。 20分までの遅れを遅刻とし、それを超えると欠席として取り扱う。 また、遅刻3回で欠席1回とみなす。 * 詳細は別途資料配布

テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] (医学書院)	
参考書	フィジカルアセスメント完全攻略Book (慧文社) 日常生活行動からみるヘルスアセスメント 看護形態学の枠組みを用いて (日本看護協会出版会)	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	秦さと子：病院の看護師 石丸智子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 神矢恵美：病院の看護師 後藤壮登：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の臨床経験を活かし、身体観察技術の原理や科学性の理解、技術の習得を促進する。	

開講科目名 / Course	国際看護学概論（1年次開講）	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子	
担当教員名 / Instructor	桑野 紀子、篠原 彩	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	<p>本講義は、看護職が国際的な専門職であることを理解し、国際的な視座のもと看護職に求められる専門的・倫理的視点を培うことを目的とする。本講義では、世界の人々を看護の対象としてとらえ、国際保健および国際看護の主要概念、世界の保健医療に関する現状と課題について学び、その背景や対策について考察する。また、訪日外国人や日本国内の在留外国人への健康支援に関して、対象者の文化社会的多様性を考慮した看護について学ぶ。</p> <p>本講義を通して、国際看護学の概念をあらゆる看護実践に共通する基盤的視点として位置づけ、今後の専門的学修につなげる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職が国際的な専門職であることについて、講義で扱う内容をもとに、自分の言葉で述べることができる。 2. 国際看護（Global Nursing）の主要概念について述べるができる。 3. 世界の保健医療に関する課題と看護の役割を関連づけることができる。 4. 多様な文化社会的背景をもつ対象者の看護についての視点を述べるができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心豊かな人間性・倫理観、3. 看護の基盤となる専門知識・技能、4. 連携協働・リーダーシップ、5. 地域性・国際性、6. 探究心と創造力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 世界の中での看護、国際保健（Global Health）/ 国際看護（Global Nursing）の主要概念 02. 世界の人々の健康と暮らし 03. 世界の健康問題の全体像1：感染性疾患、非感染性疾患 04. 世界の健康問題の全体像2：傷害と暴力、貧困 05. 国際保健における国際協力のしくみ：日本の国際協力、国際組織、政府組織、非政府組織 06. 国際協力と看護の役割（国際協力の現場における看護の実際） 07. 日本に在留する外国人：多様な文化・社会・言語的背景を持つ対象者への看護 08. 多文化共生社会への取り組み：グループワークと発表 	
その他の授業の工夫	講義で得た知識をワークショップ/グループワークで事例に適用し、ディスカッションする機会がある。海外での看護実践者の講義を含む。	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：次回の学習内容について、テキストの該当範囲や配布資料を用いて予習する（7h）。 ・事後学修：小テストやレポートを用いて講義で扱った内容について復習するとともに、国際機関のホームページ等から周辺情報を収集して理解を深める（15h）。 	
評価方法と評価割合	<p>平常点（発言等の積極性、グループワーク等における貢献度）：10%</p> <p>数回の講義テーマに関する課題レポートまたは小テストの合計：40%</p> <p>定期試験：50%</p>	
テキスト	看護の統合と実践 国際看護学（メジカルフレンド社）	
参考書	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]（医学書院）</p> <p>系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3]（医学書院）</p> <p>看護テキスト NICE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために（南江堂）</p>	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	桑野紀子：看護師、助産師、保健師 篠原彩：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	看護師、助産師、保健師、海外での看護実践

実務経験をいかした教育内容

国内外での看護実践や研究活動等をふまえ、グローバル社会における看護の実際について学生に指導する。

開講科目名 / Course	予防的家庭訪問実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、福田 広美、佐藤 愛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	20	
科目の目的と概要	<p><実習目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に住む高齢者の生活・人生を長期的な視点で捉えることができる。 2. 地域に住む高齢者の健康と生活を維持するための支援について考えることができる。 3. 高齢者の在宅生活を支えるためのシステムや地域のあり方（自治体の取り組み等を含む）を考えることができる。 4. 世代や学年を超えた人とコミュニケーションをとることができる。 <p><1年次生実習目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で生活する協力者とコミュニケーションをとり、地域で生活する人の全体像を理解することができる。 2. チームメンバーとして協力し、メンバーを支えることができる。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者を地域で生活する人として「健康の視点から」捉え、全体像を説明することができる。 2. 協力者を理解するため、または相互理解を深めるためのコミュニケーションの重要性を述べることができる。 3. 自らのコミュニケーションの課題を述べることができる。 4. 予防的家庭訪問でチームメンバーとの話し合いを通して、今後の学習課題を述べることができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性	
授業計画	<p>実習期間：2026年4月～2027年2月</p> <p>実習場所：富士見が丘団地・下横瀬地区、野津原地区の70歳以上の協力者のご家庭等</p> <p>実習方法：学年の到達目標を考慮し、協力者の家庭を訪問する。学生は1～4年生の縦割りで編成されたチームのメンバーとともに、年間4回以上訪問する。</p>	
その他の授業の工夫	<p>1～4年生で構成されるチームで複数回の継続的な訪問を行い、学年間の学びの共有と協働的学修を促す。</p> <p>訪問計画の調整が必要な場合には、看護研究交流センターや担当教員に相談しながら進める。</p> <p>2月には訪問活動を振り返り、協力者の状況や活動内容、目標の達成度について共有し、学びを整理する。</p>	
時間外学修	<p>事前学修：カンファレンス、予習（1.5h）</p> <p>事後学修：カンファレンス、記録作成（2.5h）</p>	
評価方法と評価割合	<p>年4回以上訪問を行い、以下の～により総合的に評価する。</p> <p>訪問後のレポート・・・60%</p> <p>実習内容/実習態度・・・30%</p> <p>最終レポート・・・10%</p>	
テキスト	必要時、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：病院における看護活動 佐藤愛：病院・地域における看護活動 福田広美：病院における看護活動
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無

	内容	
実務経験をいかした教育内容	学生の相談に応じ、健康な在宅生活に必要な条件や健康教育の方法について助言する。	

1 年次開講科目

2 学期開講

開講科目名 / Course	人間関係学
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	8
科目の目的と概要	学問としての心理学が、性格をどのように理解しているのか、性格を実体化し再現可能な方法を用いて客観的な理解を目指す「科学的」アプローチと、性格の状況を超えた一貫性・安定性を前提としない「状況論的」アプローチについて学ぶ。人の悩みの少なからぬ部分は、自身や周囲の人間の性格に関するものである。講義での学びを通して、性格にまつわる悩みから、少しでも距離が取れるようになることを期待する。
到達目標	1. 人が人を理解するということがどのような営みなのか、心理学における2つの方向性を説明する。 2. 講義で理解したことを、パラグラフライティングの手法を用いて簡潔に要約する。 3. 要約の理解を促す、適切な具体例をあげることができる。 4. 個人が抱える人間関係上の問題に、学習した内容を適用する。 5. 学ぶことが個人の内側に閉じた活動ではなく、他者に開かれた活動であること具体例を挙げる。 6. 学習課題に取り組むために、周囲の学習者とのコミュニケーションをとる。 7. 自分自身の学習の進捗状況を把握したうえで、適切な学習行動をとる。
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、6.探究心と創造力
授業計画	01. 人格と性格、どのように違うのか？ 02. 性格を科学的に理解するとはどういうことか？ 03. 科学的な性格理解（1）（特性論的性格理解） 04. 科学的な性格理解（2）（類型論的性格理解） 05. プレグナンツの法則と性格理解（全体は部分の総和か？） 06. 状況論的な性格理解（システム論についての基本的な理解） 07. 状況論的な性格理解の方法（1）（観察：図と地、図地反転） 08. 状況論的な性格理解の方法（2）（拘束としてのコミュニケーション）
その他の授業の工夫	・ 毎回、授業開始時に抽選で座席を指定する。 ・ 挙手による発言行動が強化されるよう、学習環境を調整する。 ・ 時間外学習を促進するために、web上に掲示板を設ける。 ・ 毎時、講義終了後に時間外課題を課す。 ・ 各自の累積平常点を、毎時明示する。
時間外学修	・ 毎時、講義終了後に要約とコメントからなるショートレポートを課す（12h）。 ・ 毎時、講義開始までに視聴する5分程度の動画を指定する。講義冒頭に内容理解度に関する小テストを行うので、準備をしておくこと（6h）。 ・ 事後課題作成のために、学生が交流する掲示板への投稿（4h）。
評価方法と評価割合	期末の試験は実施しない。事前課題の小テスト（4点/回）、講義内容の要約課題（5点/回）、授業を受けてのコメント（2点/回）、授業での発表（1点/回）、web掲示板への投稿（1点/回）、時間外の掲示板への投稿（3点/回）の得点を8回分集計して評価する。評価の基準は初回講義時に説明資料を配布する。講義を欠席した場合、その回に課された全ての課題を提出することができない。単位認定方法について、初回にプリントを配布し説明するので、出席すること。8回目の講義終了時点で、合計得点が合格ラインに達しなかったものが希望した場合（のみ）、再試験を実施する。
テキスト	遠隔講義の場合は、毎時、講義動画を配信する。対面講義の場合は、ハンドアウトを配布する。
参考書	「モード性格」論（紀伊國屋書店）
履修する上で必要な要件	

その他	前期開講科目「人のこころの働き」の講義内容とあわせて考えると、そこから何らかの大きな生きていく上での指針を導き出せると思います。これからの自分の人生を、十二分に楽しめるよう、自分なりの指針を作ってもらえると嬉しいです。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：公認心理師、学校心理士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	全ての受講生の共通体験として、学校生活がある。学校で頻繁に観察される事象を例にとりながら、課題を構成したり、例示を行う。例：言いたいことがあったら、言いなさいと先生に言われて、言いたいことを言ったら怒られた ダブルバインド。	

開講科目名 / Course	カウンセリング論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	秋本 慶子	
担当教員名 / Instructor	秋本 慶子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	カウンセリングの基礎となる理論とカウンセリングスキルを学び、看護や保健室など、実際の場面で適切なコミュニケーションができる基礎を作ることを目的とする。前半では、具体的なカウンセリング・スキルを学ぶ。中盤のカウンセリング理論では、カウンセリングの主要な考え方と技法について理解する。後半は基本姿勢を学び、最終回では、患者や児童生徒、医療者や教職員自身の心を守る方法を知る。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの主要な理論と基礎技法の名称や意味を正確に説明できる。 2. 講義で示されたキーワードを用いながら、学んだ内容の要点と対人援助におけるその意義を、自身の言葉で論理的に要約できる。 3. 講義を通じて、自身のコミュニケーションの傾向や心理的反応を客観的に捉え、気づきや感想を記述することができる。 4. カウンセリングが看護や保健室などの場面、自分自身のメンタルヘルスにどのように役立つのか説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. カウンセリングの考え方：聴くことの意味 02. カウンセリング・スキル（1）：あいづち、繰り返し、質問 03. カウンセリング・スキル（2）：要約、言い換え 04. カウンセリング理論（1）：来談者中心療法 05. カウンセリング理論（2）：認知行動療法 06. カウンセリングの基本姿勢（1）：丁寧に聴く 07. カウンセリングの基本姿勢（2）：共感的に理解する 08. 患者・児童生徒と支援者自身の心を守る 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の構えの形成促進するために、毎時「めあて」を提示する。 ・視聴覚教材を用いて、体験的にカウンセリングを理解する。 ・理論の解説に終わらず、看護や実生活での実践につなげて考えられる機会とする。 ・話し合い活動や発言行動が強化されるよう、学習環境を調整する。 ・小テストや小レポートを通して、理解を深める。 	
時間外学修	<p>事前学修：適宜、次回の学習内容について関する小レポートを課す（7h）。</p> <p>事後学修：適宜、講義内容の要約、コメントをメインとした事後課題を課す（15h）。</p>	
評価方法と評価割合	数回の課題レポートまたは小テスト（70%）と受講態度（発言の積極性、コメント、質問、グループワークへの貢献度等：30%）により行う。	
テキスト	テキストは使用せず、毎回、ハンドアウトを配布する。	
参考書	プロカウンセラーの聞く技術（創元社）	
履修する上で必要な要件		
その他	講義では、体験的な学びにつながる機会を設けます。自らが行動して初めて理解を得られることも多いため、積極的に関わるようにしてみてください。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	英語 - A 2	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	宮内 信治	
担当教員名 / Instructor	宮内 信治	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	文法に基づいて英文の内容を理解しながら、スムーズに音読できる力を養う。また、平易な英文で書かれた本を多読することにより英文処理能力を高める。発音記号と調音法を教授する。エッセイや文学作品から英文を精選し、その英文を書写、音読、暗唱することにより、英語の定着を図る。	
到達目標	1. 英文をスムーズに音読できる。 2. 講義期間中に実施される複数回の英文暗唱Reviewにすべて合格する。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、5.地域性・国際性	
授業計画	01. Richard Feynman 1：間接疑問、名詞節 02. Richard Feynman 2：強調構文 03. Richard Feynman 3：仮・真主語 04. Albert Einstein 1：前置詞と動名詞、仮定法過去完了 05. Albert Einstein 2：意味上の主語 06. Albert Einstein 3：祈禱文 07. William Shakespeare: Sonnet No.18、韻律 08. Inazo Nitobe 1：修辭表現、仮定法過去 09. Inazo Nitobe 2：接続詞 for 10. Inazo Nitobe 3：命令文	
その他の授業の工夫	課題英文の暗唱または聞き取りの確認として、講義開始時にペアワークを行う。	
時間外学修	事前学修：学習予定の章全体を通して3回読む。不明な語句を調べる（5h）。 事後学修：指定された課題英文について以下の作業を行う（14h）。 1) CDリスニング1日1回以上 2) 音読1日5回以上 3) 書写1日1回以上 1)、2)、3)を1セットとして5日分行い、指定された課題英文を暗唱できるようにする。	
評価方法と評価割合	期末筆記試験（70%）、英文暗唱Reviewまたは聞き取りDictation（30%）で評価する。講義終了までの期間に、教員により指定された英文暗唱ReviewまたはDictationすべてに合格していること、および授業中に教員により適宜出される課題にすべて合格していることを期末筆記試験受験要件とする。欠席・遅刻（早退）は減点する。欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席3回にて成績評価レベルを一段階下げる。また欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席4回にて期末筆記試験の受験資格を失う。授業に積極的に参加していない態度、授業に対する敬意を欠く態度、授業進行妨害行為などは、教員の判断により減点対象扱いとする場合がある。授業への出席状況などは学生が自らの責任において把握管理すること。	
テキスト	こころの音読（講談社）、追加資料は別途指示。	
参考書		
履修する上で必要な要件	英語 A-1の単位を取得していること。	
その他	授業後半の多読については基本的に評価に含めないが、学習内容の習得・達成を何らかの形で自主的に表現し提出したもの（書評、書籍紹介、感想など）は、評価対象として加点する場合がある。	
教員の實務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の實務経験	有・無	無
	内容	
實務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	英語 - B 2
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	G.T. Shirley
担当教員名 / Instructor	G.T. Shirley
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	10
科目の目的と概要	English language ability is important for nurses. English I-B 2 is an English communication course and is a continuation of the trimester 1 course. The same textbook will be used as in the trimester 1 course. The course goal is for students to improve their basic English speaking and listening skills while learning Nursing English. A wide variety of relevant and meaningful speaking and listening activities are used in class to maximize student interaction. This is a learner-centered class, so students must participate actively in every class.
到達目標	1. Students can practice speaking Nursing English. 2. Students can practice listening to Nursing English. 3. Students can practice their overall English communication skills. 4. Students can actively participate in English group work. 5. Students can actively support and help partners during English pair work and group work.
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、5.地域性・国際性
授業計画	01. Introduction, Directions (1) interview 02. Directions (2) conversation 03. People 2 (1) interview 04. People 2 (2) conversation 05. Group work communication project 06. Work (1) interview 07. Work (2) conversation 08. Travel (1) interview 09. Travel (2) conversation 10. Review speaking & listening
その他の授業の工夫	This is a student-centered class that uses active learning. The teacher does not call on students to answer questions or recite dialogues during class. Students do speaking and listening activities together in pairs and small groups to maximize student interaction. Such interaction teaches students the importance of mutual support in language learning. The teacher monitors student practice and offers support and encouragement when necessary.
時間外学修	In the week before each class, students should prepare by reading all materials and looking up words and phrases that they do not understand (7h). In the week after class, they should review all materials and practice the pronunciation of difficult words and phrases so they can use these smoothly and effectively during the next class (12h).
評価方法と評価割合	Active Class Participation, Effort and Attitude during Each Class: 50% Final Examination: 50% (注) Important Information 1: Absence (regardless of reason) or non-participation in two classes results in a reduction of the final class grade down one level; in three classes it results in a reduction of the final class grade down two levels; in four classes it results in a failing grade. (注) Important Information 2: Students, not the instructor, are responsible for being aware of the number of their absences.
テキスト	No textbook will be used. The instructor will provide students with materials for classroom use in each class.
参考書	
履修する上で必要な要件	

その他	Let ' s have fun practicing and improving our English!	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	言語表現法	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	木村 淳也	
担当教員名 / Instructor	木村 淳也	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	大学生として論文やレポートが書ける文章力と、社会人として適切な言語表現を身につける。基礎的な日本語の理解から、論文・レポートにおける「問い」の設定・論文の構成などを実践的に学ぶ。学生同士で話し合い、添削等も行う。	
到達目標	1. 文章表現における正しいことば遣いを運用できる。 2. 身近なテーマについて、論文・レポートを書くことができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観	
授業計画	01. ガイダンス（論文・レポートとは何か？） 02. 論文を書く前に（日本語基礎・文法の再確認） 03. 論文の下準備（1）「問」を発し、「主張」を作る 04. 論文の下準備（2）「素材」を集め、「構想」を練る 05. 論文を書く（1）論文の基本構造、「論理」とは何か？ 06. 論文を書く（2）アウトラインを作る 07. 論文を書く（3）データの分析と考察 08. 論文をまとめる（注・引用のルール、参考文献表、提出前の確認）	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、より深く理解するために、グループ・ワークやアクティブラーニングを組み込んでいる。	
時間外学修	授業配布の資料を用いて次回の予習をする（5h）。 授業内容の復習を行い、期末レポート課題の作成を進める（17h）。	
評価方法と評価割合	平常点（発言や課題取り組みの積極性、グループワークにおける貢献度）：20% 授業内課題：30% 最終レポート課題：50%（レポート提出資格は、出席が2/3以上とする。）	
テキスト	特に指定しない。毎回、教員が作成した授業レジュメを配付する。	
参考書	最新版 論文の教室 レポートから卒論まで（NHK出版）	
履修する上で必要な要件		
その他	この授業では授業内課題が出されます。課題は毎回期限までに提出してください。また、普段から文章を読み、ことばを調べる習慣を身につけてください。なお、授業中の携帯電話の使用・私語は厳禁です。欠席が過多の場合は成績評価をいたしません。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	韓国語	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	黄 昞峻	
担当教員名 / Instructor	黄 昞峻	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	韓国語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国語に関する基礎知識を学ぶ科目である。	
到達目標	1. 韓国の文字であるハングルの読み書きができる。 2. 基本挨拶の正確な発音ができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観	
授業計画	01. 韓国語の概観、母音（1）（基本母音） 02. 子音（1）（初声） 03. 音節（1）（基本母音と子音の組み合わせによる文字） 04. 母音（2）（二重母音） 05. 音節（2）（二重母音と子音の組み合わせによる文字） 06. 子音（2）（終声＝パッチム） 07. 発音の変化（連音化・流音化・口蓋音化・激音化・濃音化・鼻音化） 08. 読む練習（授業時間に使う表現、基本挨拶）	
その他の授業の工夫	ハングルに慣れるまでは時間がかかるが、ハングル学習の他、簡単な会話や歌詞読みの練習も取り入れており、韓国語学習に対する興味を持たせるようにする。	
時間外学修	事後学修：毎回授業時間に書き残した部分と、テキストの第3部にある「ワークブック」を復習する（22h）。	
評価方法と評価割合	受講態度：20% 期末試験：80%	
テキスト	大学韓国語 - 基礎 - （博英社）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	社会学入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	大杉 至	
担当教員名 / Instructor	大杉 至	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	私たちは社会の中で生きているので、社会はいつてみれば空気のような存在である。しかし、社会は私たちが拘束しているし、私たちは社会に頼って生きていく他はない。本講義では、社会学の巨匠たちが社会をどうとらえてきたかを概説する。それぞれの論者によって、様々な社会のとらえ方があることを理解し、社会を見る目を豊かにされたい。	
到達目標	1. 私たちが生きている社会を客観的に説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力	
授業計画	01. 社会学とは何か (社会学の成立 A.コント) 02. M.ウェーバーの社会学方法論 03. ウェーバーの資本主義成立論 04. 官僚制の理論 05. マルクスの社会理論 06. マルクスの資本主義成立論 07. デュルケムの社会学方法論 08. デュルケムの宗教理論	
その他の授業の工夫	-	
時間外学修	事前学修：次回用の配付資料で知らない概念を調べる (7h)。 事後学修：配付資料を用いて復習する (15h)。	
評価方法と評価割合	試験：80% 受講態度：20%	
テキスト	特になし。プリントを配布すると同時に参考文献をその都度紹介する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	法学入門（日本国憲法）	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	佐々木 淳夫	
担当教員名 / Instructor	佐々木 淳夫	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	15	
科目の目的と概要	市民生活にかかわりの深い、契約・損害賠償・家族に関する法実務上の問題への理解を通じて、法学の基礎知識としての近代市民法の基本原理を身につける。近代市民法の歴史及び憲法・立憲主義の歴史の展開をふまえつつ、日本国憲法の歴史的意義とその基本原理を理解する。憲法に関してはとくに人権問題に重点をおき、市民としての人権感覚を磨くだけでなく、医療従事者として、患者・高齢者・障がい者等の人権問題に的確に対応できる資質を身につける。	
到達目標	1. 市民として必要とされる基礎的な法的知識を説明することができる。 2. 医療従事者として、患者・高齢者・障がい者等の人権～契約その他の場面における支援の必要性～に配慮することができる。 3. 憲法の歴史とわが国の憲法問題・人権問題を説明することができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. ガイダンス 市民生活と法、医療従事者が出会う法 02. 市民生活と法（1）契約 高齢者・障がい者と成年後見制度 03. 市民生活と法（2）損害賠償 賠償額算定における障がい者差別 04. 市民生活と法（3）家族 身分における差別問題 05. 近代市民法の基本原理と憲法・立憲主義の歴史 06. 日本国憲法の概要・基本原理 07. 統治機構総論 統治機構の原理 08. 統治機構各論（1）有権者・国会・内閣・地方公共団体 09. 統治機構各論（2）裁判所（司法権・違憲審査権） 10. 人権総論 「人権」と「憲法が保障する権利」、制約の正当化根拠 11. 人権各論（1）幸福追求権・自己決定権 医療と自己決定 12. 人権各論（2）自由（精神的自由・経済的自由・財産権） 障がい者の移動の自由 13. 人権各論（3）平等 性別・障がい・感染症と差別、合理的配慮の意義 14. 人権各論（4）参政権・国務請求権・社会権 15. 人権各論（5）刑事手続と人権 冤罪・死刑	
その他の授業の工夫	憲法・民法など分野の講義が終わった段階で小テストを実施し理解度を図る。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について予習する（15h）。 事後学修：配布資料と小テスト及び参考文献を用いて復習する（30h）。	
評価方法と評価割合	レポート：15% 小テスト：30% 定期試験：55%	
テキスト	テキストは使用せず、毎時間、講義資料を配布する。	
参考書	適宜、参考文献を紹介する。	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	有 佐々木淳夫：一般民事・家事・刑事事件全般を取り扱う弁護士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無

実務経験をいかした教育内容

医療事故、学校事故、環境訴訟、刑事再審事件等の個々の実例を挙げながら、それらの事件に内在する法律問題・人権問題を紹介する。

開講科目名 / Course	健康情報学	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	野津 昭文	
担当教員名 / Instructor	野津 昭文	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	人口統計や傷病統計など保健統計の調査法とその概要、ならびに疫学の基礎を学ぶ。健康情報とその様々な指標に関して、情報の収集から分析、解釈を体系的に学ぶことを通じて、集団の健康の現状と推移について理解を深めるとともに、それら情報を適切に理解し活用する能力を養う。	
到達目標	1. 主要な保健統計指標の意味を説明することができる。 2. 保健統計指標の値と動向を述べるすることができる。 3. 基本的な疫学調査法を説明することができる。 4. 疫学研究成果など、保健医療におけるエビデンスを解釈できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. 健康情報の基礎、健康情報の収集 02. 疫学(1) 疫学の考え方、因果推論 03. 疫学(2) 疫学調査法 04. 疫学(3) 疫学指標、バイアス 05. 検査やスクリーニングの理論 06. 保健統計概論 07. 人口統計(1) 人口静態統計 08. 人口統計(2) 人口動態統計・生命表 09. 傷病に関する保健統計 10. 医療や生活に関連する統計	
その他の授業の工夫	1年次必修科目「健康情報処理演習 ・ 」では、講義とリンクした内容の演習が含まれます。また、オンラインによる「理解確認のための小テスト（評価外）」や質問への対応などを行います。	
時間外学修	事前学修：事前に公開される講義資料に基づいて予習する（7h）。 事後学修：講義資料を利用して、学習の整理、復習を行う。理解を確認するためのオンライン小テストを必要に応じて反復する（12h）。	
評価方法と評価割合	定期試験（筆記）100%	
テキスト	前半：資料を配付する。 後半：国民衛生の動向2026/2027（厚生統計協会）	
参考書	適宜紹介する。	
履修する上で必要な要件	健康情報処理演習 ・ で表計算ソフトウェアや統計ソフトウェアの基本的技能を修得していることが、自己学習や当科目範囲の演習課題の達成に必要となります。	
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	生物統計学	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	野津 昭文	
担当教員名 / Instructor	野津 昭文、岡田 悠希	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	統計学の基礎知識と考え方を習得する。収集したデータを分かりやすく記述する方法や、データの背後に潜む法則性を推測するための基本的な手法について学ぶことで、EBNを実践するための基礎能力を養う。	
到達目標	1. 基本的な記述統計、確率分布、推測統計の考え方を説明できる。 2. 基本的なデータ解析を実践できる。 3. 基本的な統計学を利用した研究の成果を適切に解釈できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 記述統計(1) 尺度、代表値 02. 記述統計(2) 散布度、平均と分散の性質 03. 記述統計(3) クロス表、関連の指標 04. 記述統計(4) 相関係数、回帰直線 05. 確率分布(1) 離散型確率分布 06. 確率分布(2) 連続型確率分布 07. 推測統計(1) 推定 08. 推測統計(2) 仮説検定 09. 推測統計(3) 仮説検定各論 10. 推測統計(4) 推測統計のまとめ	
その他の授業の工夫	1年次必修科目「健康情報処理演習」とこの講義をリンクして、理解を深める。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について配布資料を用いて予習を行う（7h）。 事後学修：各回の内容に沿った小テスト、課題および配布資料を用いて復習を行う（12h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験80%、数回のレポートまたは小テストの合計20%	
テキスト	適宜、資料を配付する。	
参考書	看護師のための統計学（共立出版） 入門 統計解析法（日科技連） 弱点克服 大学生の確率・統計（東京図書）	
履修する上で必要な要件		
その他	高校までに学習した数学の知識を本講義の前提知識とする。また、健康情報処理演習 において、表計算ソフト、統計解析ソフトを用いた演習を行う（その部分の評価は健康情報処理演習 に含む）。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	健康情報処理演習
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	品川 佳満
担当教員名 / Instructor	品川 佳満、野津 昭文、岡田 悠希
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	演習
授業回数	15
科目の目的と概要	健康情報処理演習 で修得した技術をベースに、看護や医療分野におけるデータ解析に関するスキルを身に付ける。また、高度情報社会において単に情報機器の操作ができるだけでは不十分であるため、看護職者に必要な情報倫理・セキュリティ、医療を支える情報システムやICTの活用に関する基礎知識等の修得も目指す。
到達目標	1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な用語の説明ができる。 2. 医療機関における個人情報保護のための対策・対応がとれる。 3. 情報セキュリティにまつわる危険を回避できる。 4. 医療機関で利用する情報システムの意義や役割について説明できる。 5. 情報と看護の関係やICTの看護への活用について説明できる。 6. 統計解析ツールを用いて基本的なデータ解析が行える。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力
授業計画	01. コンピュータの基礎（情報の表現・ハードウェア・ソフトウェア） 02. ネットワークの基礎 03. 情報倫理（個人情報の取り扱い） 04. 情報セキュリティ(1) 情報セキュリティの基本 05. 情報セキュリティ(2) 各脅威への対策 06. 医療における情報システム(1) 病院情報システム 07. 医療における情報システム(2) 電子カルテシステム 08. 情報と看護の関係、ICT（IoT、AI、ビッグデータ等）の看護への活用 09. データ解析(1) R(RStudio)の基本（データ構造、基本操作） 10. データ解析(2) R(RStudio)を用いたデータの可視化と要約 11. データ解析(3) R(RStudio)を用いた推定・検定 12. データ解析(4) R(RStudio)を用いたデータ解析課題 13. データ解析(5) SPSSの基本（データの準備と基本的手法） 14. データ解析(6) SPSSを用いた統計処理（結果の読み取りと利用） 15. データ解析(7) 医療・保健データの解析課題 他の講義（生物統計学、健康情報学）の進行状況によって順番が入れ替わる場合がある。
その他の授業の工夫	クラウドサービスの活用により、インターネットにつながる環境であれば、どこからでも講義資料の閲覧や演習課題に取り組むことができる。
時間外学修	事前学修：Classroomにアップロードした資料を閲覧しておく（4h）。 事後学修：練習問題・課題を提示する。その問題を解くことで、知識・技術が身についているか確認を行う（8h）。
評価方法と評価割合	筆記試験：60% レポート・課題：40% 期限後に提出された課題や欠席した回の課題は、減点または評価対象外とする。 欠席が5回を超えると不合格となる（20分までの遅刻は2/3の出席、それを超えると欠席として取り扱う）。また、他人のファイルをコピーして提出したことが発覚した場合、試験を正当な理由なく欠席した場合は、不合格となる。
テキスト	特に指定しない。 毎回ハンドアウトを配布する。参考図書は適宜紹介する。

参考書	エssenシャル看護情報学（医歯薬出版） Rで学ぶ統計的データ解析（講談社） 看護師・看護学生のための情報倫理学習支援サイト（ https://www.kango-jorin.com ）	
履修する上で必要な要件	健康情報処理演習 の単位を修得済み、あるいは修得見込みであること。	
その他	データ解析に関する演習は、「健康情報処理演習」で学んだ表計算ソフト（Excel）に関する基本的操作および「生物統計学」「健康情報学」で学んだ講義内容を踏まえたものになるため、十分復習したうえで受講すること。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	品川佳満：病院の電算部門でのシステム開発・管理
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	病院でのシステム開発や情報に関するトラブル対応経験をもとに、医療情報システムの役割や、医療情報の取扱いについて教授する。	

開講科目名 / Course	生体代謝論
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	坪内 優太
担当教員名 / Instructor	坪内 優太
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	20
科目の目的と概要	生命現象を支える生体分子の基本的な性質を理解することを目的とする。 本科目では、「生体構造・機能論」で学習した内容を基に、生体内での代謝を分子レベルで理解し、エネルギー供給や栄養素の代謝メカニズムを体系的に学ぶ。特に、糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルの代謝過程とその調節機構を詳述し、それらの異常が引き起こす疾患について考察する。また、エネルギー代謝とホメオスタシス（恒常性維持）のメカニズムを臓器の連関から俯瞰し、看護ケアへの応用を視野に入れた栄養管理の基礎知識を修得することを目指す。
到達目標	1. ヒトのエネルギー代謝の基本原則と栄養素の役割を説明できる。 2. 代謝の調節と異常に関する基礎的な知識を説明できる。 3. 栄養代謝の視点から看護ケアに応用できる知識を説明できる。
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能
授業計画	01. 代謝を学ぶための基礎知識 02. エネルギーの単位と代謝の概要 03. ATPの構造と機能 04. 基礎代謝率とエネルギー消費 05. 糖質の種類と役割 06. 糖代謝の基礎 07. 糖代謝の調節と異常 08. 脂質の種類 09. 脂質代謝 10. 脂質の役割：コレステロール、エイコサノイド、リポタンパク質 11. 脂質代謝異常 12. タンパク質の構造と種類、役割 13. タンパク質・アミノ酸代謝 14. タンパク質不足と介護予防：フレイル、サルコペニア 15. ビタミンの役割と代謝：脂溶性ビタミン 16. ビタミンの役割と代謝：水溶性ビタミン 17. ビタミンの過剰症と欠乏症 18. ミネラルの役割と代謝：マクロミネラル 19. ミネラルの役割と代謝：ミクロミネラル 20. ミネラルの過剰症と欠乏症
その他の授業の工夫	Google Classroomを用いて講義資料の閲覧・事前配布を実施する。 オンラインツール (Google Forms等) を用いた講義前後の確認テストを実施し、知識の定着を図る。 テストは何度も回答ができるように設定し、復習用ツールとしても使用可能。 講義中の質疑についてはオンラインツール (Slido等)を用いてリアルタイムに受け付ける。 講義時間外の質疑についてはGoogle Chat等を用いて受け付け、可能な限り受講生全員で共有する。 さらに、科目専用Chatbotを作成し、学習内容に関する質疑への対応を、教員の代替として24時間利用できるようにする。
時間外学修	事前学修：ミニレクチャー動画や授業資料、テキストを用いた予習（18h）。 事後学修：復習用問題（オンラインプラットフォーム）や授業資料、テキストを用いた復習（20h）
評価方法と評価割合	定期試験（筆記）：100% 定期試験不合格者に対する再試験は一度のみ実施する。

テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2]生化学（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3]栄養学（医学書院） 講義資料	
参考書	病気がみえるvol.3 糖尿病・代謝・内分泌（メディックメディア）	
履修する上で必要な要件		
その他	講義にはノートPC、タブレット端末、スマートフォンのいずれかを持参すること（講義前後の確認問題回答、講義中の質疑受付に使用する）。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	坪内優太：病院およびデイサービスの理学療法士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	病院における栄養評価および指導方法、地域住民に対する健康指導（栄養および運動指導・啓発活動）の経験に基づいた知識や技術を指導する。	

開講科目名 / Course	病理学総論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	定金 香里	
担当教員名 / Instructor	定金 香里	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	病理学は、病気の実態を明らかにするために、発症原因やそのしくみ、病状の経過、さらに病気がたどる最終的な結末に至るまでの一連の過程を探究する学問である。病理学総論では、病気の原因とそれに対するからだの反応、ならびに病状の進展過程について、各臓器に共通する一般的な原理や法則を学ぶ。病気を理解し診断につなげるためには、まずその病気がどのようなカテゴリーに属するのかを大まかに把握することが極めて重要である。本科目では、講義に加えて十分な時間をかけて病気の概念や発症機序を理解することにより、次に学ぶ病理学各論への円滑な移行を図るとともに、看護実践において必要となる症状の理解や診断・ケアの基盤を形成することを目的とする。	
到達目標	1. 病気がどのような病因・病態のカテゴリーに属するかを判断できる。 2. 身体に生じる病的変化の原因を、病理学的観点から説明できる。 3. 病的変化に対するからだの反応および病状の経過を、総論的に説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. 病理学で学ぶこと 02. 細胞・組織の損傷と修復、炎症 03. 免疫、移植と再生医療 04. 循環障害（1）：浮腫、充血、うっ血、出血と止血、血栓症、塞栓症、虚血と梗塞 05. 循環障害（2）：側副循環障害、高血圧症、播種性血管内凝固症候群、ショックと臓器不全 06. 代謝障害（1）：脂質代謝障害、タンパク質代謝障害 07. 代謝障害（2）：糖質代謝異常、そのほかの代謝障害 08. 先天異常と遺伝性疾患 09. 腫瘍 10. 生活習慣と環境因子による生体の障害	
その他の授業の工夫	講義内容の定着を図るため、講義後に病理学的思考を促す演習問題を教員が作成し、復習を通して病態の理解を深める。	
時間外学修	事前学習：教科書の講義箇所を事前に読み、病態の概要や主要な用語を把握して講義に臨む（4h）。 事後学習：教科書および配布資料・講義ノートを用いて病的変化のしくみを整理し、演習問題を通して病理学的理解の定着を図る（15h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験100%（100点満点で60点以上を合格とする）。 なお、定期試験の受験資格および単位認定については、学生便覧に定める学修評価の要件を満たすことを前提とする。	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学（医学書院）	
参考書	カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学（医学書院）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	病理学各論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	定金 香里	
担当教員名 / Instructor	定金 香里	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	病理学各論では、循環器系、呼吸器系、消化器系など、同様の機能をもつ臓器を系統別に取り上げ、それぞれに生じる病態および代表的な疾患について学ぶ。本科目では、病理学総論で学んだ病気の原因、それに対するからだの反応、ならびに病状の経過に関する一般的な原理や規則の知識を基盤として、個々の病態や疾患を具体的に理解することを目的とする。ここで修得した知識は、病気の診断を理解するための基礎をなすものであり、看護実践において患者の症状や経過を把握し、適切なケアを行うために不可欠なものである。	
到達目標	1. 系統別に生じる病気が、病理学総論で学んだ病因・病態のカテゴリーのいずれに属するかを判断できる。 2. 系統別に生じる病気について、その成り立ち、形態学的変化および特徴を説明できる。 3. 修得した知識を、看護のアセスメントに活用することができる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. 循環器系の疾患 02. 血液・造血器系の疾患 03. 呼吸器系の疾患（1）：上気道の疾患および胸膜と縦隔の疾患 04. 呼吸器系の疾患（2）：下気道の疾患 05. 消化器系の疾患（1）：口腔、食道、胃、膵臓の疾患 06. 消化器系の疾患（2）：腸・腹膜、肝臓・胆管・胆嚢の疾患 07. 腎・泌尿器、生殖器系および乳腺の疾患 08. 内分泌系の疾患 09. 脳・神経・筋肉系の疾患 10. 骨・関節系の疾患、眼・耳・皮膚の疾患	
その他の授業の工夫	反転授業を行う。事前に「講義」映像を視聴し予習を行い、講義の時間では、その内容に基づくクイズと解説を実施する。予習中に生じた疑問はメールで教員に送れば、講義時間内で回答する。「講義」映像は、オンデマンドで繰り返し視聴可能であり、復習教材としても活用できる。予習に必要な資料は、事前に配布する。	
時間外学修	事前学習：事前に「講義」の映像をオンデマンドで受講すること（必須）。本授業は反転授業形式で実施するため、事前に予習を行うことで、授業時間内における復習および理解の深化を図る（19h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験100%（100点満点で60点以上を合格とする）。 なお、定期試験の受験資格および単位認定については、学生便覧に定める学修評価の要件を満たすことを前提とする。	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学（医学書院）	
参考書	病気がみえる vol. 1～9, 11～14（メディックメディア） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2]病態生理学（医学書院） カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ）	
履修する上で必要な要件	「講義」映像をオンラインで視聴できる環境	
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

開講科目名 / Course	微生物免疫論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	吉田 成一	
担当教員名 / Instructor	吉田 成一、松本 昂	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	院内感染防止や感染看護に関する知識は看護業務を行う上で重要である。本講義では、臨床上問題となる感染症を理解し、患者への対応、処置等感染症に対する看護の基本的事項について学ぶ。またこれらの感染に対する生体側の防御機構、感染症の予防・治療について理解する。	
到達目標	1. 各種微生物の特性を説明できる。 2. 病原微生物による疾患の発症機序、特徴を説明できる。 3. 院内感染をはじめとした各種感染症の予防について説明できる。 4. 各種感染症の治療について、説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. 微生物学総論 02. 微生物学の基礎 03. 感染と感染症 04. 感染に対する生体防御機構 05. 滅菌と消毒 06. 感染症の治療 07. 公衆衛生 08. 感染症とグローバルヘルス 09. 各種感染症各論 10. 感染症関連法規・薬害	
その他の授業の工夫	各種感染症で見られる典型的な症状の写真を提示し、感染症に対する理解を深める。 また、各回の事後学修についてGoogle Classroomを活用し、担当教員が適宜助言を行っている。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について配布資料や教科書を用いて予習する（4h）。 事後学修：自主学習課題（学習ノートの提出を含む）を用いて復習する（15h）。 各回講義前に、「1.事前学修」を行い、講義後に、「2.講義内容のまとめ・整理」を行い、さらに提示された「3.事後学修課題」に取り組むこと。これら3項目をとりまとめ、Google Classroom上に提出すること。	
評価方法と評価割合	試験 (100%)	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] (医学書院)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	全ての微生物感染症について詳細に扱うには、時間的な制約があるため、特に重要な点を力説する。その他講義で扱えないものは、各自で教科書を読み、概要を理解すること。質問は、講義中、講義時間外のいずれでも受け付ける。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	健康スポーツ	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	稲垣 敦	
担当教員名 / Instructor	稲垣 敦	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実技	
授業回数	15	
科目の目的と概要	ニュースポーツ等の体験を通して、運動の楽しさ、素晴らしさ、必要性を体感し、自分の生涯スポーツにつなげる。適切な運動強度や運動量を確保して健康や体力を維持増進し、ストレスを低減させ、学生間のコミュニケーションを促進する。この体験・感覚を2年次の健康運動学に繋げる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動に参加する。 2. 体を動かすことの楽しさを体感する。 3. エネルギーを消費する。 4. 体力を高める。 5. コミュニケーションを増し、友人を増やす。 6. ストレスを発散する。 7. 運動することの素晴らしさ、必要性を説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション、フライングディスクの基礎 02. ディスクゴルフ 03. アルティメット 04. ユニバーサルホッケー 05. インディアカ 06. ソフトバレーボール 07. リングテニス 08. フットサル 09. 3オン3 10. ティーボール 11. テニス 12. バドミントン 13. ドッジボール 14. ヨガ（未定） 15. 和太鼓（未定） 	
その他の授業の工夫	試合結果を記録して、各スポーツの良い点を考える。 成績優秀チームにご褒美を出す。 音楽を活用する。	
時間外学修	レポートを作成する（3h）。 サークルや健康増進室を活用して、授業以外に最低週一回は運動する（9h）。	
評価方法と評価割合	レポート（50%）：創造性 授業態度（50%）：積極性、協調性、リーダーシップ	
テキスト	必要に応じて資料を配付。	
参考書		
履修する上で必要な要件	運動に相応しい服装やシューズで参加すること。	
その他	天候で内容や実施順序は替わります。 特にメールで連絡のない場合は、体育館に集合してください。 週一回の運動時間なので、積極的に取り組みましょう。	
教員の實務経験	有・無	有
	内容	稲垣敦：健康運動指導士養成研修会講師、筑波大学陸上競技部コーチ

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	受講者を楽しませ、モチベーションを高め、短時間で上達させる。 運動、練習、トレーニング等を科学的に説明する。	

開講科目名 / Course	看護理論入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	秦 さと子	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、石丸 智子、田中 佳子、神矢 恵美、後藤 壮登	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	看護現象を科学的に理解する力や看護の基盤となる看護観を養うことを目的とする。看護理論に関する基本的知識について学習し、看護理論と看護実践の関連・活用について考える。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論とは何かについて述べるができる。 2. 看護理論の分類、歴史的変遷について述べるができる。 3. 主な看護理論家の理論概要について説明できる。 4. 看護理論の看護実践への活用方法について説明できる。 	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 看護理論とは、看護理論の歴史的変遷 02. 看護理論の理解：H.E.ペプロウ、I.M.キング、M.A.ニューマン 03. 看護理論の理解：Sr.C.ロイ、D.E.オレム、M.H.ミッシェル 04. 看護理論の理解：V.A.ヘンダーソン 05. 看護理論の活用：ヘンダーソン理論の活用：病理的状态 06. 看護理論の活用：ヘンダーソン理論の活用：常在条件 07. 看護理論の活用：ヘンダーソン理論の活用：正常な発達・健康を導く学習 08. 看護理論の活用：ヘンダーソン理論の活用：正常な呼吸、適切な飲食 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実践で活用しやすい看護理論家を選定している。 ・模擬事例を用いて、看護理論を実際に活用する。 ・看護理論入門での学びを実践で活用できるように、V.A.ヘンダーソンの枠組みを基礎看護学実習の記録様式として活用する。 	
時間外学修	<p>事前学修：各理論家の理論についての概要を事前学修しておく。(4h)</p> <p>事後学修：授業で扱った理論家について、復習をしておく。(18h)</p> <p>授業で扱わなかった理論については、授業での理解の仕方を参考に学習することを推奨する。</p>	
評価方法と評価割合	<p>提出物（90％）、受講態度（10％）で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物は、提出状況（提出遅れは減点対象）と記載内容で評価する。 ・受講態度は、発言などの積極性、（個人/グループ）ワーク活動に対する取り組み姿勢で評価する。 ・授業に関係ない作業や行動、おしゃべりなどは減点対象とする。 ・遅刻、欠席、途中退席は、減点対象とし、出席が50%以下の場合は単位認定不可とする。 	
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論 看護理論21の理解と実践への応用 改訂第3版（南江堂） 2. 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） 	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	秦さと子：病院の看護師 石丸智子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 神矢恵美：病院の看護師 後藤壮登：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

実務経験をいかした教育内容	多領域での看護実践経験から具体例を用いることで、看護理論に関する理解を促し、実践にどのようにつなげるのかを考察できるように支援する。
---------------	--

開講科目名 / Course	身体安楽援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	秦 さと子	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	実践で遭遇する機会の多い身体症状とその発生機序を理解し、症状が日常生活に与える影響を考察したうえで、対象に必要な援助を判断する力を養うことを目的とする。対象に生じている身体症状が与える影響を理解したうえで、安楽を阻害している症状の軽減や日常生活を安楽に過ごすために必要な支援法を思考し判断する。	
到達目標	1. 対象に生じている症状の発生機序を述べるができる。 2. 対象に生じている症状が日常生活に与える影響を根拠と共に述べるができる。 3. 症状に応じた必要な援助法を根拠と共に説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. 呼吸困難 : 発生機序 02. 呼吸困難 : 生活への影響と必要な支援 03. 発熱 : 発生機序 04. 発熱 : 生活への影響と必要な支援 05. 食欲不振・脱水 06. 易感染 07. 便秘 08. 事例検討	
その他の授業の工夫	・学習する項目は、実践で遭遇しやすい身体症状を選出している。 ・ワークシートを用いて、学習した内容を活用して必要な支援法について思考し判断する力を培う。	
時間外学修	・授業内容を理解するためには授業予定の範囲の予習を推奨する(4h)。 ・授業内容の理解の促進・定着を図るために復習を推奨する(18h)。	
評価方法と評価割合	・筆記試験(80%)、授業態度(20%)で総合的に評価する。 ・授業態度は、授業参加度、課題への取り組みを評価する。授業と関係のない作業や行動、おしゃべりは減点対象とする。 ・欠席、遅刻、途中退席は理由に応じて減点対象とする。20分までの遅れを遅刻とし、それを超えると欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・筆記試験は1回実施する。	
テキスト	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント(第5版)(Gakken)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	秦さと子: 病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	臨床現場で遭遇しやすい症状について、患者が感じている不快感や苦痛を具体例を挙げて解説する。	

開講科目名 / Course	生活援助技術論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	田中 佳子	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、石丸 智子、田中 佳子、神矢 恵美、後藤 壮登	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	対象である人に対して、安全・安楽に人間的で健康な生活を送ることができるための援助技術の修得を目的に、生活援助法を中心に学習する。また、その背景にある原理や科学性の理解を通して、技術の適用や応用を考えながら演習を行う。	
到達目標	1. 生活援助方法について、原理・原則に基づいて実施できる。 2. 生活援助技術について、安全・安楽を配慮した実施ができる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<p>授業は原則2コマ続きで実施する</p> <p>01. オリエンテーション、感染防止の技術 : 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーション 02-03. 環境調整・休息、活動(1) : 環境整備、リネン交換、体位交換、ポジショニング 04-05. 活動(2) : 移乗、移送、歩行介助 06-07. 清潔(1) : おむつ交換、陰部洗浄 08-09. 排泄 : おむつ交換、浣腸、床上排泄 10-11. 清潔(2) : 全身清拭、寝衣交換、入浴・シャワー浴介助 12-13. 清潔(3) : 手浴、足浴、洗髪 14-15. コミュニケーション技術</p> <p>* 詳細は別途資料を配布する</p>	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自己学習力と主体性を育成するため、e-learning (Nursing Skills) による事前課題、授業で扱う課題事例を課している。 ・教員による講義はオンデマンド配信とし、見たいときに繰り返し閲覧可能である。 ・学生の技術内容について、ICT (SIM System, Google Workspace) を活用して客観的な評価と課題の明確化につなげる。 ・グループ演習の成果をもとに事前課題レポートを修正し、技術の習得につなげる。 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 : 当該授業に関する Nursing Skillsの小テストを授業前日までに個人学習する。担当教員が事前に提示する課題事例に関するレポートを作成し提出する(8h)。 ・事後学習 : グループ演習の成果をもとに事前課題レポートを修正し再提出する。また、授業時間のみでは技術習得は困難であるため、反復学習(生活援助技術の練習)を行う(実習室の利用や教員の指導は予約が必要)(4h)。 	
評価方法と評価割合	<p>事前・事後課題、授業態度、技術試験を総合して評価を判定する。</p> <p>配点は事前課題:20%、事後課題10%、授業態度:10%、技術試験:60%とする。</p> <p>技術試験が6割未満、あるいは事前課題・事後課題・授業態度・技術試験の合計が6割未満の場合は単位認定不可とする。</p> <p>授業態度はグループ演習での授業参加度や学生デモンストレーションへの参加度を評価する。</p> <p>原則100%出席とし、遅刻、欠席は減点対象とする。20分までの遅れは遅刻とし、超える場合は欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。* 詳細は別途資料配布</p>	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3](医学書院)</p> <p>看護技術プラクティス 第4版(Gakken)</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	秦さと子：病院の看護師 石丸智子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 神矢恵美：病院の看護師 後藤壮登：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	臨床現場や対象をイメージできるように、実務経験から得られた技術のポイントなどを看護技術の原理・原則に基づき具体的にアドバイスする。	

開講科目名 / Course	看護疾病病態論
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	石田 佳代子
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、内倉 佑介、三苦 美和、安部 涼子
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	20
科目の目的と概要	疾患からみた病態と症状からみた病態の両者を多元的・有機的に把握する能力を養うため、人体の構造や機能を理解しやすいように系統解剖学的構成に従って知識を整理しながら展開する。代表的な疾患やその症状を中心に教授し、病態生理、臨床像、治療が主な教育内容である。
到達目標	1. 消化器系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方および身体の観察ポイントについて説明できる。 2. 呼吸器系および感染症の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方および身体の観察ポイントについて説明できる。 3. 循環器系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方および身体の観察ポイントについて説明できる。 4. 血液・造血器系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方および身体の観察ポイントについて説明できる。 5. 内分泌・代謝系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方および身体の観察ポイントについて説明できる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、6.探究心と創造力
授業計画	01. 消化器疾患（1）消化器がん 02. 消化器疾患（2）侵襲と生体反応、胃がん術後の生理学的変化 03. 消化器疾患（3）消化性潰瘍、急性腹症 04. 消化器疾患（4）肝炎、肝硬変、肝がん、胆石症、膵炎、膵がん 05. 呼吸器疾患（1）肺炎、気管支喘息 06. 呼吸器疾患（2）慢性閉塞性肺疾患 07. 呼吸器疾患（3）呼吸不全 08. 呼吸器疾患（4）肺腫瘍、気胸 09. 呼吸器疾患・感染症 10. 循環器疾患（1）虚血と梗塞、狭心症、心筋梗塞 11. 循環器疾患（2）不整脈、ショック 12. 循環器疾患（3）高血圧、動脈系疾患、静脈系疾患 13. 循環器疾患（4）心不全 14. 血液・造血器疾患（1）貧血 15. 血液・造血器疾患（2）白血病 16. 血液・造血器疾患（3）止血機能異常 17. 内分泌・代謝疾患（1）糖尿病 18. 内分泌・代謝疾患（2）糖尿病の合併症、脂質異常症、痛風 19. 内分泌・代謝疾患（3）内分泌の作用機序、視床下部-下垂体総論、甲状腺疾患 20. 内分泌・代謝疾患（4）副甲状腺疾患、副腎疾患
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、理解を深められるように課題を提示する。
時間外学修	事前学修：該当臓器などの解剖生理の復習、分からない用語などを調べる、ナーシングスキルの視聴など（18h）。 事後学修：資料やノートの内容を復習する（20h）。
評価方法と評価割合	筆記試験（100%）。但し、各試験範囲の授業時間の1/3以上欠席した場合は受験を認めない。
テキスト	

参考書	病気がみえる 各シリーズ〔消化器、呼吸器、循環器、血液、糖尿病・代謝・内分泌〕（メディックメディア） プチナースBooks 病態関連図が書ける観察・アセスメントガイド（照林社） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1]（医学書院）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	石田佳代子：病院の看護師経験 三笥美和：病院の看護師経験 内倉佑介：病院の看護師経験 安部涼子：病院の看護師経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の経験を活かし、臨床現場と理論を結び付けながらエビデンスに基づき教授する。	

開講科目名 / Course	看護疾病病態論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	石田 佳代子	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、内倉 佑介、三苫 美和、安部 涼子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	疾患からみた病態と症状からみた病態の両者を多元的・有機的に把握する能力を養うため、人体の構造や機能を理解しやすいように系統解剖学的構成に従って知識を整理しながら展開する。代表的な疾患やその症状を中心に教授し、病態生理、臨床像、治療が主な教育内容である。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方および身体の観察ポイントについて説明できる。 2. 腎・泌尿器系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方および身体の観察ポイントについて説明できる。 3. 運動器系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方および身体の観察ポイントについて説明できる。 4. 女性生殖器系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方および身体の観察ポイントについて説明できる。 5. 感覚器系および皮膚の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方および身体の観察ポイントについて説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 脳・神経疾患（1）意識障害、運動麻痺、感覚障害 02. 脳・神経疾患（2）脳出血、脳梗塞 03. 脳・神経疾患（3）パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、認知症 04. 腎・泌尿器疾患（1）腎不全、腎炎、前立腺肥大症 05. 腎・泌尿器疾患（2）腎腫瘍、膀胱腫瘍、前立腺がん 06. 運動器疾患（1）骨折、脊髄損傷 07. 運動器疾患（2）変形性関節症、椎間板ヘルニア 08. 女性生殖器疾患 子宮がん、卵巣がん、乳がん 09. 眼疾患、耳鼻咽喉疾患 10. 皮膚疾患 熱傷、褥瘡 	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、理解を深められるように課題を提示する。	
時間外学修	<p>事前学修：該当臓器などの解剖生理の復習、分からない用語などを調べる、ナーシングスキルの視聴など（8h）。</p> <p>事後学修：資料やノートの内容を復習する（11h）。</p>	
評価方法と評価割合	筆記試験（100％）。但し、授業時間の1/3以上欠席した場合は受験を認めない。	
テキスト		
参考書	<p>病気がみえる 各シリーズ〔脳・神経、腎・泌尿器、運動器・整形外科、皮膚科〕（メディックメディア）</p> <p>プチナースBooks 病態関連図が書ける観察・アセスメントガイド（照林社）</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1]（医学書院）</p>	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>石田佳代子：病院の看護師経験</p> <p>三苫美和：病院の看護師経験</p> <p>内倉佑介：病院の看護師経験</p> <p>安部涼子：病院の看護師経験</p>

教員以外で指導に関わる者の実務 経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の経験を活かし、臨床現場と理論を結び付けながらエビデンスに基づき教授する。	

開講科目名 / Course	健康支援概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	川南 公代	
担当教員名 / Instructor	小野 治子、川南 公代、首藤 佐織、高木 優衣	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	健康や健康に対する考え方および健康増進の意義を理解し、健康づくりの重要性を学ぶ。さらに、様々な人々の健康ニーズを理解し、健康増進における看護職の役割を学ぶ。	
到達目標	1. 健康および健康増進の意義や考え方について、説明できる。 2. 健康増進における看護職の役割について、説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 健康とは（健康の定義・障害の定義） 02. わが国の健康状態 / ライフサイクルと疾病構造 03. わが国の健康づくりの変遷 04. 健康づくり各論（栄養・食生活、身体活動・運動） 05. 健康づくり各論（休養、喫煙、飲酒） 06. みんなの健康をまもる公衆衛生 07. 私たちが考える健康づくり 08. 私たちが考える健康づくり / 健康支援と看護職の役割	
その他の授業の工夫	講義のなかで、グループワークを通して意見交換や発表等を実施する。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容や配布資料、テキスト、参考書を用いて予習する（7h）。 事後学修：毎回の講義を振り返り学びをまとめる。配布資料やテキスト、参考書を用いて復習する（15h）。	
評価方法と評価割合	試験：80%（試験の受験資格は、出席が6回以上であること） 提出物：20%（初回の講義内でのオリエンテーション時に説明する内容に、各回の講義終了後に取り組む）	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度2（医学書院）	
参考書	系統看護学講座 専門分野 看護学概論 基礎看護学1（医学書院）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	川南公代：行政の保健師 小野治子：高等学校・支援学校の養護教諭 首藤佐織：行政の保健師 高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	県福祉保健部の医師、保健師
実務経験をいかした教育内容	行政機関等で看護職として実践してきた経験をもとに、講義する。	

開講科目名 / Course	教職概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平、小野 治子、麻生 良太、秋本 慶子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	15	
科目の目的と概要	本授業は、教職課程の導入科目として、教職とは何か、教師の専門性とは何か、学校教育の社会的役割とは何かを総合的に理解することを目的とする。教職に関する知識の習得だけでなく、「自分はなぜ教師を目指すのか」「どのような教師になりたいのか」を言語化することを重視する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育に課せられた現代的課題について多角的に捉える。 2. 社会における教職の意義と個人にとっての教職の意味を説明する。 3. 教員の職務内容を、教育関連法規に沿って説明する。 4. 2年次以後も履修を継続するのか、養護教諭の志望を勘案して判断する。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション 02. 職業としての教師 担任として 03. 職業としての教師 管理職として 04. 養護教諭の実践 保健管理 05. 養護教諭の実践 安全管理 06. 公教育制度の理念 07. 教育を支える教育法規 08. 学校教育の目的と目標 09. 教師のメンタルヘルス 10. 危機管理と教員の責任 11. 地域との連携・協同 12. 教員養成制度 13. 教員免許法と採用試験 14. 教育実習 15. 求められる教師像 	
その他の授業の工夫	教育に関する様々なトピックをとりあげて、受講者が話し合う機会を提供する。管理職、養護教諭など、現場での経験を有するゲストスピーカーによる授業を行う。上位学年の履修生との交流の機会を設ける（時間割の調整ができた場合）。	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業終了後、講義中に提示された資料を整理し、復習をおこなう（20h）。 ・ ショートレポートの作成（15h）。 ・ 期末レポートの作成（10h）。 	
評価方法と評価割合	筆記試験の成績（20%）、レポート（80%）で判断する。	
テキスト	指定しない。	
参考書	教職論ハンドブック（ミネルヴァ書房）	
履修する上で必要な要件		
その他	この講義を選択したからといって、2年次以後、継続して教職課程を履修しなければならないということではありません。履修を通して、今まで皆さんが学んできた「学校」という制度を批判的に振り返り、職業としての養護教諭が皆さんにとって「あり」なのか「なし」なのかを考える機会にしてほしいと考えています。現時点で進路が決まっていなくても、全く構いません。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：公認心理師、学校心理士 小野治子：高等学校・特別支援学校の養護教諭 秋本慶子：臨床心理士、小学校教諭

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	横山秀樹：小学校教諭、小学校管理職 堀本フカエ：養護教諭
実務経験をいかした教育内容	教育現場で課題となることが多い、児童虐待、発達障害、保護者への対応などについて、事例を紹介する。	

1 年次開講科目

3 学期開講

開講科目名 / Course	哲学入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	平野 互	
担当教員名 / Instructor	平野 互	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	<p>自己の内面を含む世の中の様々な事象を対象として概念化し考察する過程を哲学という。本科目では、考察のテーマとして、保健・医療・福祉の領域のみならず一般社会で重要と考えられている概念をいくつか紹介し、その意義を考える。</p> <p>哲学の一分野に倫理学があるが、看護職者として自らを律し、行動の拠り所とすべき実践の哲学である生命倫理、看護倫理について、その基本的な考え方、原則を手掛かりとして、倫理的にもの考えることを学ぶ。</p>	
到達目標	<p>1. 人権、自立、尊厳など、社会および医療・看護の世界で重要とされる概念について、自分の言葉で意義を述べることができる。</p> <p>2. 生命倫理、看護倫理の基本的な原則を説明することができる。</p>	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観	
授業計画	<p>01. 「哲学」事始め 哲学で何を学ぶか</p> <p>02. 言葉の意味を考える（1）権利、人権</p> <p>03. 言葉の意味を考える（2）自由、自己決定、自立</p> <p>04. 言葉の意味を考える（3）障がい</p> <p>05. 言葉の意味を考える（4）尊厳</p> <p>06. 優生思想と生命の選別</p> <p>07. 保健・医療・福祉の倫理学：生命倫理</p> <p>08. 看護の倫理</p>	
その他の授業の工夫	講義では双方向コミュニケーションに配慮するが、大人数の受講が予想されるため、ミニレポート等を通じて質問や意見を表明する機会を確保する。	
時間外学修	<p>事前学修：人間という存在や社会のあり方等で疑問に思ったこと、関心を抱いたことについて書籍を読む（4h）。</p> <p>事後学修：小レポートでのポイント整理と配布資料等による復習（4h）。</p>	
評価方法と評価割合	<p>平常点（授業への参加度）：20%</p> <p>授業ごとに提出するレポート：80%</p>	
テキスト	とくに指定しない。講義ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書	講義中に適宜紹介する。	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	基礎看護学実習
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	秦 さと子
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、石丸 智子、田中 佳子、神矢 恵美、後藤 壮登
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	実習
授業回数	40
科目の目的と概要	看護の対象としての人間を理解し、一人の患者を受け持ち、看護の概念や知識・技術を活用しながら看護を実践する。実践した看護を振り返り、専門職として成長し、発展していく姿勢を自己形成することが目的である。約2週間の病院実習を通して看護師への同行実習や受け持ち患者への看護を実践し、今後の学習意欲を高める。
到達目標	1. 対象者を社会で生活している人として述べるができる。 2. 対象者が健康障害や入院によって受けている影響を説明できる。 3. 看護実践を通して対象者に必要な看護について説明できる。 4. 看護職者に求められる基本的姿勢に基づいた行動ができる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能
授業計画	実習期間：2027年1月18日（月）～1月29日（金） 実習施設：大分赤十字病院、アルメイダ病院、三愛メディカルセンター他近隣の病院 実習方法： オリエンテーション（目的、目標、実習展開、実習記録、評価等） 病院実習（一人の患者を受け持ち、既習の知識・技術を活用して看護を実践する。看護師に同行し、臨床看護師の役割等について学習する。カンファレンスを通して、他者の考えや討議から自己の考えを深めたり広げたりする機会となる。） 実習の振り返りやまとめを通して、看護職としての姿勢や看護観を養う。
その他の授業の工夫	実習開始の約1か月前に事前オリエンテーションを行うことで、臨地実習に向けた準備性を高める。看護師への同行実習は、看護職者の立場から看護や求められる行動について熟考する機会を提供する。 日々のデイリーカンファレンス、振り返り記録の記載と実習指導担当教員による指導を通して、体験を学びに深化させる。 患者を一人受け持つことで、既習の知識や理論から対象に必要な看護を導く方法を实际的に理解させる。 生活者としての対象理解を促進させるために、ヘンダーソンの理論枠組みを使用する。 日々、目標と計画を立案させることで、実習を計画的に実施する重要性を意識させる。 実習で体験した内容を時間をかけて振り返るために帰学日（大学での学習時間）を各週に1日設けている。 自分の対象への理解が適切であるかどうかを判断するために、臨地実習指導者参加のカンファレンスを実習の中間と最終日に設けている。 看護実践における個人の課題を明らかにさせることで、学習の動機付けとする。
時間外学修	事前学修：既習の知識・技術（解剖生理、病理、生活援助論等）について復習を推奨する（4h）。 事後学修：自分の実習の振り返り記録（Daily Sheet）、翌実習の目標と計画立案、患者記録の記載（4h）。
評価方法と評価割合	100%出席を原則とする。実習目標の到達度（80%）、看護職に求められる基本的姿勢（20%）で評価する。 記録物の提出期限遅れや未提出、本人の責に帰す遅刻や欠席は減点対象とする。
テキスト	既習のテキスト全て
参考書	
履修する上で必要な要件	看護学概論、生活援助技術論、看護理論入門の単位を修得済み、あるいは単位修得見込みであること。
その他	

教員の実務経験	有・無	有
	内容	秦さと子：病院の看護師 石丸智子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 神矢恵美：病院の看護師 後藤壮登：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	担当教員全員、看護師の経験者であり、豊富な臨床経験を通して療養生活を営む生活者としての対象の理解を深めさせることができる。 実習指導者と実習目標達成のために、密に連携して協働できる。	

2 年次開講科目

1 学期開講

開講科目名 / Course	英語 - A 1	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	宮内 信治	
担当教員名 / Instructor	宮内 信治	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	ギリシャ語、ラテン語などに起源をもつ英単語を、その語源を手掛かりに意味を理解し習得する。単語テストを行う。また、看護の原著論文要旨について文法を解説し、それに基づく和訳への翻訳演習を行う。1年次に引き続き、課題英文について暗唱Reviewを複数回行うとともに、英語多読用の読本を活用し、易しい英語で書かれたものをできるだけ多量に読むことで英文処理能力の迅速化を図る。	
到達目標	1. 学術的に使用される高度な英語語彙を同定できる。 2. 英語による看護原著論文要旨を文法解析 (Parsing) できる。 3. 英語による看護原著論文要旨が解釈できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、5.地域性・国際性	
授業計画	01. 概説：教材紹介、講義の流れ、取り組み方 02. Chapter 3 - 1：人の性格を表す10の言葉 / Parsing 文 1 - 2 03. Chapter 3 - 2：self, otherとその派生語 / Parsing 文 3 - 4 04. Chapter 3 - 3：turn, loveとその派生語 / Parsing 文 5 - 6 05. Chapter 3 - 4：man, hate, marriageとその派生語 / Parsing 文 7 - 8 06. Chapter 4 - 1：医学を表す10の言葉 / Parsing 文 9 - 10 07. Chapter 4 - 2：内科、婦人科とその派生語 / Parsing 文 11 - 12 08. Chapter 4 - 3：小児科、皮膚科、眼科とその派生語 / Parsing 文 13 - 14 09. Chapter 4 - 4：整形外科、循環器科とその派生語 / Parsing 文 15 - 16 10. Chapter 4 - 5：神経科・精神科とその派生語 / Parsing 文 17 - 18	
その他の授業の工夫	原著は、ナースプラクティショナーを扱った比較的新しい文献を使用する。	
時間外学修	事前学修：教科書の講義予定部分について事前に未知の語句を調べる。原著の講義予定部分について事前に未知語句を調べ、文法解釈 (Parsing) をする (8h)。 事後学修：教科書内で指定された語句を覚える。原著について、講義で確認した文法解釈をもとに指定された英文を日本語に翻訳し、提出する (11h)。	
評価方法と評価割合	期末筆記試験 (50%)、単語テスト、英文暗唱Review、提出物 (50%) で評価する。講義終了までの期間に、教員により指定された英文暗唱Reviewすべてに合格していること、および授業中に教員により適宜出される課題にすべて合格していることを期末筆記試験受験要件とする。欠席・遅刻 (早退) は減点する。欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席3回にて成績評価レベルを一段階下げる。また欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席4回にて期末筆記試験の受験資格を失う。授業に積極的に参加していない態度、授業に対する敬意を欠く態度、授業進行妨害行為などは、教員の判断により減点対象扱いとする場合がある。授業への出席状況などは学生が自らの責任において把握管理すること。	
テキスト	Word Power Made Easy (Pocket Books)	
参考書		
履修する上で必要な要件	英語 A-1、英語 A-2の単位を取得していること。	
その他	授業後半の多読については基本的に評価に含めないが、学習内容の習得・達成を何らかの形で自主的に表現し提出したもの (書評、書籍紹介、感想など) は、評価対象として加点する場合がある。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

開講科目名 / Course	英語 - B 1
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First
開講区分 / semester offered	1 学期 / First
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	2
主担当教員 / Main Instructor	G.T. Shirley
担当教員名 / Instructor	G.T. Shirley
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	10
科目の目的と概要	English language ability is important for nurses. English II-B 1 is a communication course in Nursing English. The course goal is to help students acquire English skills that will be useful in providing nursing care for future foreign patients. Each class will include a number of practical speaking, listening, reading and writing activities to help students interact together in English and improve their communication skills in Nursing English. In addition, students will learn and repeatedly practice English medical expressions and vocabulary to improve their ability to communicate with foreign patients and in future international medical settings. This is a learner-centered class, so students must participate actively in every class.
到達目標	1. Students can practice speaking Nursing English. 2. Students can practice listening to Nursing English. 3. Students can practice their overall English communication skills. 4. Students can actively participate in English group work. 5. Students can actively support and help partners during English pair work and group work.
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、5.地域性・国際性
授業計画	01. Introduction, Classroom English 02. Unit 1: Hospital Departments 03. Unit 2: Application Forms 04. Review of Units 1 & 2 05. Unit 3: Parts of the Body 06. Unit 4: Illnesses 07. Review of Units 3 & 4 08. Unit 5: Daily Routine 09. Unit 6: Hospital Objects 10. Review of Units 5 & 6
その他の授業の工夫	This is a student-centered class that uses active learning. The teacher does not call on students to answer questions or recite dialogues during class. Students do speaking and listening activities together in pairs and small groups to maximize student interaction. Such interaction teaches students the importance of mutual support in language learning. The teacher monitors student practice and offers support and encouragement when necessary.
時間外学修	In the week before each class, students should prepare by reading all materials and looking up words and phrases that they do not understand (7h). In the week after class, they should review all materials and practice the pronunciation of difficult words and phrases so they can use these smoothly and effectively during the next class (12h).
評価方法と評価割合	Active Class Participation, Effort and Attitude during Each Class: 50% Final Examination: 50% (注) Important Information 1: Absence (regardless of reason) or non-participation in two classes results in a reduction of the final class grade down one level; in three classes it results in a reduction of the final class grade down two levels; in four classes it results in a failing grade. (注) Important Information 2: Students, not the instructor, are responsible for being aware of the number of their absences.
テキスト	Vital Signs (Essential English for Healthcare Professionals) (NAN'UN-DO)
参考書	

履修する上で必要な要件		
その他	Let ' s have fun practicing and improving our English!	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	放射線健康科学	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名 / Instructor	小嶋 光明、恵谷 玲央	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	放射線は種々の環境有害因子の中で健康影響に関する情報が豊富であり、安全問題に対する体系的な考え方が比較的確立している。現代の医療において放射線の利用は不可欠なものであり、これらの原理と人体影響について医療関係者が理解すべき基本的な事項を学ぶことを目的としている。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線の物理、生物・健康影響、その防護について基本的な事項を説明できる。 2. 放射線の種類と特徴を説明できる。 3. 放射線の生体影響を分子、組織の点から説明できる。 4. 放射線のリスクを説明できる。 5. 本講義の学びを患者の放射線防護に応用できる。 	
DPとの対応	2.科学的思考力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 放射線影響と放射線防護の歴史 02. 放射線とは何か 03. 放射性同位元素と放射能 04. 身近な放射線・放射線源 05. 放射線と物質との相互作用と線量 06. 放射線の生体応答 -分子レベルから細胞レベルまで 07. 放射線の健康影響(組織反応) 08. 放射線の健康影響(確率的影響)とリスク評価 09. 安全の考え方と放射線防護基準 10. 医療における放射線利用と患者のための放射線防護 	
その他の授業の工夫	毎回、講義のポイントを問う小テストを行う。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容をテキストを用いて予習する（6h）。 事後学修：小テストや配布資料を用いて復習する（13h）。	
評価方法と評価割合	小テスト（40％）と筆記試験（60％）	
テキスト	看護のための放射線学（医歯薬出版）	
参考書	現代人のための放射線生物学（京都大学学術出版会） 看護の実践に役立つ放射線の基礎知識（医学書院）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	薬理学	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	吉田 成一	
担当教員名 / Instructor	吉田 成一	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	医療において、薬物療法の重要性は高く、医療現場において、看護師が医薬品を取り扱う機会は多い。取り扱う医薬品に対する理解が不十分であると医療事故の原因になるため、本科目を設定している。医薬品の作用を疾患の治療薬という観点から学ぶ。個体レベル、組織レベル、細胞レベル、分子レベルでの作用機序を理解して薬の作用の本質や基本原理を学ぶ。医薬品を使用する際、その意義および医療上で注意すべきことを理解する。	
到達目標	1. 疾患の治療に医薬品を使用する理由が説明できる。 2. 看護師として医薬品の知識が必要となる理由を説明できる。 3. 医薬品の体内動態および副作用、相互作用について説明できる。 4. 生理活性物質の受容体の種類と刺激時、遮断時の生体応答を説明できる。 5. 循環器系疾患および代謝性疾患で使用する医薬品の特性を説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. 医薬品が関連する事故、医薬品の開発 02. 医薬品の体内動態(吸収・分布・代謝・排泄) 03. 交感神経作動薬 04. 交感神経遮断薬 05. 副交感神経作動薬・遮断薬 06. 筋弛緩薬・局所麻酔薬 07. 高血圧治療薬 08. 心不全治療薬、狭心症治療薬、不整脈治療薬 09. 脂質異常症治療薬、糖尿病治療薬、痛風治療薬 10. 化学療法薬	
その他の授業の工夫	実際の処方内容を例示し、治療薬の理解を深める。 また、各回の事後学修についてGoogle Classroomを活用し、担当教員が適宜助言を行っている。	
時間外学修	事前学修：提示した処方内容について、対象疾患、副作用、使用するにあたり、注意すべき点(患者指導を含む)をまとめる(4h)。 事後学修：自主学習課題(学習ノートの提出を含む)を用いて復習するとともに、理解できない内容については、次回の講義までに担当教員等に確認する(15h)。 各回講義前に、「1.事前学修」を行い、講義後に、「2.講義内容のまとめ・整理」を行い、さらに提示された「3.事後学修課題」に取り組むこと。これら3項目をとりまとめ、Google Classroom上に提出すること。	
評価方法と評価割合	試験(100%)	
テキスト	わかりやすい薬理学 第2版(ヌーヴェルヒロカワ) 今日の治療薬(南江堂)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	健康運動学	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	稲垣 敦	
担当教員名 / Instructor	稲垣 敦	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	自分の健康管理や保健指導に役立てるために、運動、体力、健康及びそれらの関係について学び、運動の必要性を学ぶ。 具体的なトレーニング方法を身につける。 科学的なものの見方や考え方を身につける。	
到達目標	1. 健康と運動、体力の関連性を説明できる。 2. 具体的なトレーニング方法を説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 二足歩行 02. ボディメカニクス 03. 骨 04. 骨と運動 05. 筋と筋力、老化・不活動・運動による筋と筋力の変化 06. トレーニングの原則、筋力トレーニングの方法 07. 柔軟性とストレッチング 08. 有酸素運動 09. 運動強度、運動量 10. 運動の健康効果、運動療法	
その他の授業の工夫	科学について知り、1年次の健康運動や健康運動ボランティア演習での気づきと関連づける。 生活習慣病予防や介護予防に関連づける。 進化の視点を取り入れ、ICTを活用する。	
時間外学修	復習して、レポートを作成する(10h)。 復習して、自分の運動メニューを作成する(9h)。	
評価方法と評価割合	レポート(50%)、授業態度(50%)	
テキスト	必要に応じて資料を配付。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	後期に、健康運動学演習を受講する人は、自分の運動メニューを作成することを念頭において受講して下さい。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	稲垣敦：健康運動指導士養成研修会講師、筑波大学陸上競技部コーチ
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	リハビリから、運動療法、健康運動、チャンピオンスポーツまで、幅広い視点から説明する。 理論だけではなく、実践において重要な点を含めて教授する。	

開講科目名 / Course	診療補助技術論（基礎編）
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First
開講区分 / semester offered	1 学期 / First
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	2
主担当教員 / Main Instructor	石丸 智子
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、石丸 智子、田中 佳子、神矢 恵美、後藤 壮登
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	演習
授業回数	15
科目の目的と概要	基礎看護技術において、身体侵襲を伴う援助技術や医学的検査および治療の際に付随して発生する対象の苦痛や不安をできるだけ軽減し、検査の目的や治療の効果が最大限に達成されるための支援についての知識・技術の修得を目的とする。各々の技術の背景にある原理や科学性について学び、技術の適応や応用を考えながら技術演習を行う。
到達目標	1. 診療に伴う治療・処置・検査等における援助技術についてシミュレータを用いて実施できる。
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能
授業計画	授業は原則2コマ続きで実施する 01-02. オリエンテーション・感染防止の技術 : ガウンテクニック、滅菌手袋の着脱 03-04. 排泄援助技術 (1) 一時的導尿 05-06. 排泄援助技術 (2) 持続的導尿、24h蓄尿 07-08. 呼吸・循環を整える技術(1) : 上気道吸引、喀痰検査 09-10. 呼吸・循環を整える技術(2) : 吸入(酸素・薬液) 11-12. 症状・生体機能管理技術: 血液検査(採血) 13-14. 与薬の技術(1) : 静脈注射、点滴、輸液ポンプ 15. 与薬の技術(2) : 皮下注射・筋肉内注射 * 詳細は別途資料配布
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による講義は、オンデマンド配信を基本とし、科目開講期間中、見たいときに繰り返し閲覧できる。 ・自己学習力と主体性を育成するため、e-learning (Nursing Skills) による事前課題、授業での課題事例に関する個人ワークを課している。 ・学内演習時間は、個人による学習を仲間との討議で深めるためにグループ活動を中心に行う。 ・学生の技術内容について、ICT (SIM System, Google Workspace) を活用して客観的な評価と課題の明確化につなげる。 ・グループ演習の成果をもとに事前課題レポートを修正しながら、技術の習得につなげる。
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題：該当授業に関するNursing-Skillsの小テストを授業前日までに個人学習する。担当教員が事前に提示する課題事例に関するレポートを作成し提出する(8h)。 ・事後学習：グループ演習の成果をもとに事前課題レポートを修正し再提出する。また、授業時間内のみの学習では技術修得は困難であり時間外に反復学習が必要である。方法としてNursing-Skillsを用いて自己学習する他、事前のアポイントメントにより教員による技術指導も可能である(4h)。
評価方法と評価割合	<p>事前・事後課題、授業態度、技術試験を総合して評価を判定する。 配点は事前課題：20%、事後課題10%、授業態度：10%、技術試験：60%とする。 技術試験が6割未満、あるいは事前課題、事後課題、授業態度、技術試験の合計が6割未満の場合は単位認定不可とする。 授業態度はグループ演習での授業参加度や学生デモンストレーションへの参加度を評価する。 原則100%出席とし、遅刻、欠席は減点対象とする。 20分までの遅れは遅刻とし、超える場合は欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。 * 詳細は別途資料配布</p>
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2,3] (医学書院) 看護技術プラクティス 第4版 (Gakken)
参考書	
履修する上で必要な要件	

その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	秦さと子：病院の看護師 石丸智子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 神矢恵美：病院の看護師 後藤壮登：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	熟練した看護実践力を活かして、看護技術の原理や科学性の理解を促進させる。 対象に対して安全で安楽な技術の適応や応用を考える示唆を与えながら支援を行う。	

開講科目名 / Course	ヘルスアセスメント	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	三苫 美和	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、内倉 佑介、三苫 美和、安部 涼子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	解剖生理、病態生理、主な疾患の基本的知識に基づき、看護に必要となる対象者の身体的な情報について、五感を駆使して収集する方法を系統別に学び、アセスメント能力を身に付ける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体観察技術論で学んだ基礎的知識・技術を活かし、障害をもつ対象に対するヘルスアセスメントの意義を説明できる。 2. 呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系、運動器系などに障害をもつ対象に対し、ヘルスアセスメントのための観察視点や根拠について説明できる。 3. 観察した情報から健康問題を予測し説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. ヘルスアセスメントの意義、健康歴聴取 02. フィジカル事例演習：デジタル聴診器による聴診音 03. 呼吸器系のヘルスアセスメント 04. 呼吸器系のヘルスアセスメント 学内演習 05. 循環器系のヘルスアセスメント 06. 循環器系のヘルスアセスメント 学内演習 07. 消化器系のヘルスアセスメント 08. 消化器系のヘルスアセスメント 学内演習 09. 神経系のヘルスアセスメント 10. 神経系のヘルスアセスメント 学内演習 11. 運動器・感覚器のヘルスアセスメント 12. 運動器・感覚器のヘルスアセスメント 学内演習 13. フィジカル事例演習：事例Aのフィジカルアセスメントと病態関連図 14. フィジカル事例演習：事例Aの症状と予測される健康や生活への影響 15. フィジカル事例演習：臨床推論 	
その他の授業の工夫	講義と演習を繰り返しながら、理論と実践を結び付け理解を深められるように進めていく。また、系統別に学んだ内容について、フィジカル事例演習を行うことで、フィジカルアセスメントの知識を統合し、アセスメント能力を身に付けられるようにアクティブラーニングで進めていく。	
時間外学修	演習事前学修：身体観察技術論の復習、ナーシングスキル(e-learning)で事前学修する(5h)。演習事後学修：演習で行った記録を課題レポートとしてまとめる(7h)。	
評価方法と評価割合	演習記録(80%)、演習レポート(10%)、受講態度(10%) 演習態度によっては参加を認めない場合もあり、欠席扱いとなる。	
テキスト	毎時間、演習資料を配布する。	
参考書	系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[2](医学書院) フィジカルアセスメント完全攻略Book(慧文社)	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	石田佳代子：病院の看護師経験 三苫美和：病院の看護師経験 内倉佑介：病院の看護師経験 安部涼子：病院の看護師経験

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護師経験を通して、エビデンスに基づき、臨床現場と理論を結び付けながら教授する。	

開講科目名 / Course	看護アセスメント学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	石田 佳代子	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、内倉 佑介、三苦 美和、安部 涼子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	個人、家族、地域社会のヘルスニーズを達成するための方法論である看護過程の理論を理解することを目的とする。対象者の健康問題と看護の必要性をアセスメントし、問題解決を踏まえた看護過程を展開するための基礎理論を学ぶ。	
到達目標	1. 看護過程の意義や目的について説明できる。 2. 対象理解のための情報収集、根拠に基づいたアセスメント、アセスメントに基づいた看護診断と優先順位の決定、看護計画、実施、評価について説明できる。 3. 事例を通して、看護過程の展開を実施できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 看護過程の意義、概要 02. 看護過程の展開：アセスメント（1）主に呼吸機能に関するアセスメントの方法 03. 看護過程の展開：アセスメント（2）主に循環機能に関するアセスメントの方法 04. 看護過程の展開：アセスメント（3）主に消化機能に関するアセスメントの方法 05. 看護過程の展開：アセスメント（4）主に運動機能に関するアセスメントの方法 06. 看護過程の展開：全体関連図の作成、統合の方法 07. 看護過程の展開：看護診断 08. 看護過程の展開：計画、実施、評価 09. 事例による個人ワークのまとめ（1）発表 10. 事例による個人ワークのまとめ（2）フィードバック	
その他の授業の工夫	講義と個人ワーク（事例を用いた看護過程の展開）を並行しながら実施することで、各々の学生が、看護過程のプロセスとその考え方、理論の活用などについて、根拠に基づき理解することができる。 病像がシンプルな事例を用いて、紙面で与えられた様々な情報をNANDA-Iの13領域に分類し、アセスメントから計画立案（評価を含む）まで行うことで、初学者にとって看護過程の一連の流れをイメージしやすくしている。 なお、「ヘルスアセスメント」の演習内容と連動させて、1事例について集中的に取り組むことで、学習の効率を高める工夫をしている。	
時間外学修	必要に応じて教員からの指導やフィードバックを受けながら、1事例の看護過程の展開（アセスメント、看護診断、計画立案（評価を含む））を行う。 事前学修：事例課題の読解（1h） 個人ワーク（15h 3h×5回） 事後学修：フィードバックによる修正など（3h）	
評価方法と評価割合	個人ワークの提出が筆記試験の受験資格となる。 筆記試験（90％）、グループでの取り組みや受講態度（10％）。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[2]（医学書院） NANDA-I看護診断定義と分類2024-2026（医学書院） 看護診断を導く情報収集・アセスメント 第7版（Gakken）	
参考書	看護がみえる 看護過程の展開（メディックメディア） 根拠がわかる疾患別看護過程 改訂第3版（南江堂）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	石田佳代子：病院の看護師経験 三笥美和：病院の看護師経験 内倉佑介：病院の看護師経験 安部涼子：病院の看護師経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護師経験を通して、エビデンスに基づき、臨床現場と理論を結び付けながら教授する。	

開講科目名 / Course	成人看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	古賀 雄二	
担当教員名 / Instructor	古賀 雄二	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	ライフサイクルにおける成人期の特徴について、身体的・心理的・社会的側面から理解し、成人の生活を支援するための保健・医療・福祉システムについて学修する。また、健康障害を潜在的・顕在的に有する成人とその家族への看護を考えるための基本的な看護理論・概念を学び、急性期、回復期（リハビリテーション看護）、慢性期、終末期の経過にある人や療養の場とその移行を支える援助を考察する能力を養う。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の定義および成人をとりまく状況とライフスタイルの多様性について説明することができる。 2. 成人の発達段階や発達課題、身体・心理・社会的特徴を説明できる。 3. 成人の健康障害について説明することができる。 4. 成人の看護に必要な基本的アプローチを説明することができる。 5. 成人の生活と健康を守り育む保健・医療・福祉システムについて説明することができる。 6. あらゆる健康障害レベルにある成人について看護理論・概念を用いて説明することができる。 7. 健康障害（急性期・回復期・慢性期・終末期）をもつ成人への看護援助方法を説明することができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 成人期の定義と特徴および成人をとりまく今日の状況と課題 02. 成人期にある人の健康と健康を守り育む保健・医療・福祉システム 03. 成人期にある人を看護するための基本的な考え方 04. 健康状態に応じた看護 ヘルスプロモーションとヘルスプロテクション 05. 健康状態に応じた看護 急性期 06. 健康状態に応じた看護 回復期 07. 健康状態に応じた看護 慢性期 08. 健康状態に応じた看護 終末期 	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、理解を深められるように予習・復習の視点を提示する。 成人期の特徴を自ら捉えられるようにグループでの事例検討を行う。事例は講師の臨床経験などを取り入れ、イメージしやすいように構成して講義を行う。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について配布資料や教科書を用いて予習する（10h）。 事後学修：配布資料を用いて復習する（12h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験：100%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	必要に応じ、ハンドアウトを提示する。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	古賀雄二：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護実践経験を踏まえ、学生の興味関心が高まるよう看護実践事例の紹介や事例検討を取り入れ講義を行う。	

開講科目名 / Course	成人看護援助論（急性期）	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	古賀 雄二	
担当教員名 / Instructor	古賀 雄二、井上 陽士	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	急性期や重症な状態にある人および周術期にある人とそれらの家族へのチーム医療における看護の役割を理解するために、基礎となる主要概念や理論を踏まえ、身体的特徴や治療の概要、回復過程の看護を学ぶことができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期や重症な状態にある人の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。 周術期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を述べるができる。 手術療法と起こりうる合併症および、その予防と対処方法を説明できる。 回復過程および退院を見据えた生活の再構築への援助を説明できる。 急性期や重症な状態にある人および周術期にある人と家族への心理的・社会的援助方法について説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 急性期・周術期とチーム医療、生活の再構築に向けた看護の役割 侵襲の種類と生体反応（生体侵襲理論） がん治療（薬物療法、放射線療法、手術療法）と看護 術中看護：全身麻酔手術の影響 術後合併症と看護 麻酔覚醒遅延、術後痛、呼吸器合併症、循環器合併症 術後合併症と看護 末梢循環不全、皮膚・神経障害、術後イレウス、術後感染、縫合不全、術後せん妄、離床遅延 術前看護：予備能評価、周術期外来、意思決定支援、生活背景の理解/退院を見据えた支援 クリティカルケアと看護（集中治療看護） クリティカルケアと看護（救急看護） 	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、理解を深められるように予習・復習の視点を毎回提示する。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について配布資料や教科書を用いて予習する（10h）。 事後学修：配布資料を用いて復習する（12h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験：100%	
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 がん看護学（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	必要に応じ、ハンドアウトを提示する。構造と機能、看護外科病態学、成人看護学概論との関連が深いので、既習の内容は復習をして授業に臨みましょう。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	古賀雄二：病院の看護師 井上陽士：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	集中治療を中心とした臨床経験を活かし、学生の興味関心が高まるように看護と関連づけた事例を用いて講義を行う。	

開講科目名 / Course	成人看護援助論 (回復期)	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	佐藤 栄治	
担当教員名 / Instructor	佐藤 栄治、古賀 雄二、水田 恵子、井上 陽士、吉田 嘉子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	急性・慢性疾患および外傷に伴う障害をもつ健康状態の人が、その人らしい生活の再構築に向けた個人の機能の最適化と障害の軽減をはかる能力を最大限に発揮することを支援するリハビリテーション看護および回復期の看護について学ぶことができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 回復過程における患者の身体的・心理的・社会的特徴について説明できる。 2. 回復期におけるリハビリテーション看護の役割を説明できる。 3. 代表的な生活機能障害の特徴と援助について説明できる。 4. 代表的な生活機能障害の回復過程の移行に伴う問題と支援システムについて説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 急性期から回復期への移行とリハビリテーション看護（生活の再構築に向けた看護の役割）、生活機能障害と看護 排泄機能障害患者の特徴と看護（消化器外科系：胃がん） 02. 生活機能障害と看護 排泄機能障害患者の特徴と看護（消化器外科系：大腸がん） 03. 生活機能障害と看護 排泄機能障害患者の特徴と看護（消化器外科系：肝胆膵がん） 04. 生活機能障害と看護 呼吸器機能障害患者の特徴と看護（呼吸器系：肺がん） 05. 生活機能障害と看護 循環器機能障害患者の特徴と看護（循環器系：循環器疾患） 05. 生活機能障害と看護 運動機能障害患者の特徴と看護（運動器系：脊椎損傷疾患/股・膝関節疾患） 07. 生活機能障害と看護 脳・神経障害患者の特徴と看護（脳神経系：脳卒中、高次機能障害） 08. 回復期の患者を支援する看護（事例を用いたグループワーク）、まとめ 	
その他の授業の工夫	臨床事例から看護実践の意味付けや重要性の再認識につながるように工夫している。学生が相互に考えを共有し、コメントできる掲示板を提供し、意見交換の活性化を図る。	
時間外学修	<p>事前学修：講義開始までに予習するテキストの該当箇所が教示される。講義冒頭に内容理解に関する小テストを行うので、準備をしておくこと（10h）。</p> <p>事後学修：毎時、講義終了後に内容の理解を確認する課題小テストを課す（12h）。</p>	
評価方法と評価割合	<p>筆記試験（70%）</p> <p>事前・事後課題（25%）：第1回～第7回目 事前学習小テスト 1-2点/回（計11点）。第1回～第7回目 事後課題小テスト 2点/回（計14点）</p> <p>授業への積極的な参加態度、グループワークへの貢献度（5%）</p>	
テキスト	<p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院）</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院）</p> <p>系統看護学講座 別巻 がん看護学（医学書院）</p> <p>系統別看護学講座 専門分野 成人看護学総論（医学書院）</p> <p>系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[4,8,10]（医学書院）</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	必要に応じ、ハンドアウトを提示する。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>古賀雄二：病院の看護師</p> <p>佐藤栄治：病院の看護師</p> <p>水田恵子：病院の看護師</p> <p>井上陽士：病院の看護師</p> <p>吉田嘉子：病院の看護師</p>

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	対象者への看護実践の経験を活かし、学生の興味関心が高まるように看護と関連づけた事例紹介を取り入れ講義を行う。	

開講科目名 / Course	老年看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	高齢者の身体的心理的社会的特徴をとらえ、健康な暮らしに必要な医療保健福祉制度や高齢者を取り巻く倫理的課題を理解し、人生の最期まで健やかに生きることを支援する看護の役割について学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の加齢に伴う身体的精神的社会的特徴を説明できる。 2. 高齢者の暮らしの現状と健康課題を述べるができる。 3. 高齢者を支援する医療保健福祉制度を述べるができる。 4. 高齢者を取り巻く倫理的課題と権利擁護について議論できる。 5. 高齢者の健康生活を支援する看護の役割を述べるができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 高齢者の身体的心理的社会的特徴 02. 高齢者の暮らしと健康課題 03. 高齢者を支える保健医療福祉制度 04. 高齢者を取り巻く倫理的課題 05. 高齢者の権利擁護と看護役割 06. 高齢者看護の実践を導く看護理論 07. 高齢者の療養の場と看護の連続性 08. 高齢者ケアと多職種連携 	
その他の授業の工夫	高齢者の身体的心理的社会的特徴と、高齢者の健康的な暮らしに必要な医療保健福祉制度の基本的な知識を小テストで確認をし知識習得を深める。また、授業内の重要なテーマについては意見交換するアクティブラーニングを用いる。	
時間外学修	事前学修：事前に授業内容のテキストを読み予習をする（8h）。 事後学修：授業資料や小テストの復習をする（8h）、授業で提示した課題のレポートをまとめる（6h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験（80%） レポート（20%）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院）	
参考書	高齢社会白書（内閣府）	
履修する上で必要な要件	特になし	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	高齢者の生活上によくある課題や具体的事例を例示し、看護について考える授業を行います。	

開講科目名 / Course	小児看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	草野 淳子	
担当教員名 / Instructor	草野 淳子、足立 綾	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	小児医療および小児看護学の変遷と専門性、我が国の小児保健と児童福祉施策、医療・福祉を学ぶ。また、小児看護の役割と看護上の倫理を学ぶ。さらに小児各期の成長・発達の特徴を学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の特性および小児看護の役割を述べるができる。 2. 小児各期の成長・発達について述べるができる。 3. 子どもを取り巻く保健・医療・福祉の動向を述べるができる。 4. 小児各期の栄養について述べるができる。 5. 小児医療における倫理について述べるができる。 6. 自己の子ども観を述べるができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 小児看護の特徴と理念、小児と家族の諸統計 02. 小児看護と家族の特徴 03. 小児看護における倫理、子どもの権利 04. 小児看護で使用する理論 05. 小児の成長・発達 06. 乳児期の成長・発達と養育および看護 07. 小児の栄養 08. 遊びの機能と発達 09. 幼児期の成長・発達と養育および看護 10. 学童期・思春期・青年期の成長・発達と養育および看護 	
その他の授業の工夫	病棟での子どもの看護に対するイメージをどのように持っているかを「病棟での子どもに対する倫理的対応」というテーマでレポートにまとめる課題を課す。時間が許せば最終回に数名に発表をしてもらう。 小児のイメージがない学生もいるため、視聴覚教材を活用してイメージできるように工夫している。	
時間外学修	「子どもの倫理」に関するレポート課題（3h）。 事前学修：教科書を用いて予習する（8h）。 事後学修：教科書・講義資料を用いて復習する（8h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験（90％）、レポート（10％）を評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	草野淳子：保健所の保健師、産科病棟の助産師 足立綾：病院（小児科病棟）の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	保健所・病院での健康な小児、疾患を持つ小児に対する看護の経験を踏まえながら、現代社会の小児に対する看護を学生に教授する。	

開講科目名 / Course	母性看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	濱 耕子	
担当教員名 / Instructor	林 猪都子、永松 いずみ、濱 耕子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	母性の概念や対象の特性、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状、およびライフステージにおける女性の健康と健康問題を通して、母性看護の役割と機能について学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性の概念を述べることができる。 2. セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツの意義を述べることができる。 3. 母性看護の対象とその特性を述べるができる。 4. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を述べるができる。 5. ライフステージにおける女性の健康と健康問題を述べるができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. ガイダンス、母性の概念、セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ 02. 母性看護の視点・目的、母性の対象に関わる法律と支援 03. 母性看護の対象理解（生殖器の形態・機能、ホルモン動態） 04. 母性看護の変遷、母性看護における法的倫理的課題と責任 05. 母子保健の動向 06. 母性保護と関連施策について、母性看護に関わる理論 07. 思春期の女性の理解と看護、家族計画と受胎調節 08. セクシュアリティの発達・現代の健康問題、成熟期・更年期・老年期の健康と看護 	
その他の授業の工夫	学生が講義参加できるように講義中に学生の意見を聞く。	
時間外学修	<p>事前学修：系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論のテキストに目を通して講義に臨む（8h）。</p> <p>事後学修：テキストや配布資料を用いて復習する（14h）。</p>	
評価方法と評価割合	筆記試験（100％）から評価する。	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論（医学書院）</p> <p>病気がみえる vol.10 産科（メディックメディア）</p> <p>講義の中で適宜資料を配布する。</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>濱耕子：病院の助産師</p> <p>永松いずみ：病院の助産師</p> <p>林猪都子：病院の助産師</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。	

開講科目名 / Course	国際看護学概論（2年次開講）	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子	
担当教員名 / Instructor	桑野 紀子、篠原 彩	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	本講義では、世界の人々を看護の対象としてとらえ、国際保健および国際看護の主要概念、世界の保健医療に関する現状と課題、およびそれらを取り巻く社会的・文化的背景について学修する。また、訪日外国人や日本国内の在留外国人への健康支援に関して、対象者の文化社会的多様性を考慮した看護について学ぶ。	
到達目標	1. 国際看護（Global Nursing）および国際保健の主要概念について、適切な用語を用いて説明できる。 2. 世界の主要な健康課題について、背景要因と看護の役割を関連づけて整理することができる。 3. 多様な文化社会的背景をもつ対象者の看護についての視点を具体的に述べることができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 国際保健（Global Health）および国際看護（Global Nursing）の主要概念 02. 世界の健康問題の概観：感染性疾患、非感染性疾患、傷害と暴力、貧困 03. 国際保健における国際協力のしくみ：日本の国際協力、国際組織、政府組織、非政府組織 04. 国際協力と看護の役割（国際協力の現場における看護の実践） 05. 海外における看護実践の実践 06. 多文化社会における看護の視点（文化的配慮とコミュニケーション） 07. 日本に在留する外国人の健康課題：文化・社会・言語的背景が多様な対象者への看護 08. 多文化共生社会への取り組み：グループワークと発表	
その他の授業の工夫	講義で得た知識をワークショップ/グループワークで事例に適用し、ディスカッションする機会がある。海外での看護実践者の講義を含む。	
時間外学修	・事前学修：次回の学習内容について、テキストの該当範囲や配布資料を用いて予習する（7h）。 ・事後学修：小テストやレポートを用いて講義で扱った内容について復習するとともに、国際機関のホームページ等から周辺情報を収集して理解を深める（15h）。	
評価方法と評価割合	平常点（発言等の積極性、グループワーク等における貢献度）：10% 数回の講義テーマに関する課題レポートまたは小テストの合計：40% 定期試験：50%	
テキスト	看護の統合と実践 国際看護学（メジカルフレンド社）	
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3]（医学書院） 看護テキスト NICE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために（南江堂）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	桑野紀子：看護師、助産師、保健師 篠原彩：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	看護師、助産師、保健師、海外での看護実践
実務経験をいかした教育内容	国内外での看護実践等をふまえ、グローバル社会における看護の実践について学生に指導する。	

開講科目名 / Course	国際看護学演習
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First
開講区分 / semester offered	1 学期、2 学期 / First, Second
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	2,3
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子
担当教員名 / Instructor	宮内 信治、G.T. Shirley、桑野 紀子、篠原 彩
必修・選択 / compulsory subject	選択
講義形態 / Class Type	演習
授業回数	15
科目の目的と概要	本演習は、看護職として多様な価値観を尊重し、自分と異なる文化・社会・言語背景をもつ人々と主体的にコミュニケーションを図りながら関わる能力を身に付けることを目的とする。国際交流活動や調べ学習を通して、諸外国、日本の文化・保健医療制度への理解を深める。また、文化や社会経済的背景、保健医療制度がそこに暮らす人々の健康に及ぼす影響について体験的に学ぶ。さらに、国際交流を通して英語によるコミュニケーションを実践し、自己の課題を振り返りながら、今後の学修や実践につなげる。
到達目標	1. 文化・社会経済的背景や保健医療制度の違いが、人々の健康に与える影響について、調べ学習やディスカッションをもとに、自分の考えを述べるができる。 2. 興味がある国の保健医療制度や文化について国際機関等の情報源を用いて情報収集し、要点を整理できる。 3. 自分と異なる文化・社会・言語背景をもつ人々の価値観を尊重しながら主体的にコミュニケーションを図ることができる。 4. 英語によるコミュニケーションを実践し、自己の課題を整理したうえで、改善に向け取り組む計画を立案できる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力
授業計画	01. オリエンテーション（本演習の国際交流活動説明、グループワーク説明：諸外国の保健医療情報の収集方法等） 02. 個人での調べ学習 興味がある国の保健医療制度について国際機関HP等から情報収集 03. グループワーク1 或る国の保健医療制度や文化について国際機関HP等から情報収集、整理 04. グループワーク2 グループワーク1についてディスカッション、発表準備 05. 報告会、ディスカッション 06. 韓国 / インドネシアの看護学生との国際交流準備（ペアワーク） 07. 世界のコミュニケーションツールとしての英語 08. 国際交流に向けた実践英語トレーニング（英語によるプレゼンテーション、ディスカッション等） 09-12. 夏季休暇中の国際交流活動：オンライン国際交流（インドネシアの看護学生）、対面交流（韓国の看護学生）、韓国との学生交流プログラム参加、個人海外研修等 13. 英語コミュニケーションの課題整理と改善計画立案 14. 実践英語トレーニング 15. 報告会（夏季休暇中の国際交流活動と英語コミュニケーションの課題と改善計画について）
その他の授業の工夫	・ 学生が実践を通じて主体的に学べるよう国際交流やグループディスカッションを実施する。 ・ 世界の保健医療に関して情報収集する作業を通じ、看護に役立つ英語での情報収集能力向上を図る。 ・ 英語でのコミュニケーションに関する知見をもとに困りごとを共有、認知し戦略を立てる。
時間外学修	・ 事前学修：演習中の国際交流活動に向けた準備（英語でのプレゼンテーション準備等）（6h）。 ・ 事後学修：配布資料を用いた復習、レポート作成による振り返りを通して復習する（6h）。 ・ 夏季 / 春季休暇中の海外交流活動は演習時間外活動を含む。
評価方法と評価割合	平常点（発言等の積極性、国際交流活動やグループワークおける貢献度）50%、演習の際に提出を求めるミニレポート50%
テキスト	
参考書	新しい英語力の教室（インプレス）

履修する上で必要な要件	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン国際交流等、国際交流活動に可能な範囲で参加すること（一部演習時間外活動あり） ・ 夏季休暇中の個人海外研修等参加時は保護者と相談のうえ、担当教員等の指導のもと各自責任を持って準備し、健康・安全管理に努めること。事前の届け出等は大学規定により行う。 	
その他	・ 15回のうち4回程度を夏季休暇中の国際交流活動に充てる。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	桑野紀子：看護師、助産師、保健師 篠原彩：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	看護師、助産師、保健師
実務経験をいかした教育内容	国内外での看護実践や国際交流活動に関する経験を活かし、文化社会的背景が看護に及ぼす影響や、多様な背景をもつ人々との英語での効果的なコミュニケーションについて、学生に指導する。	

開講科目名 / Course	予防的家庭訪問実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、福田 広美、佐藤 愛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	20	
科目の目的と概要	<p>< 実習目的 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に住む高齢者の生活・人生を長期的な視点で捉えることができる。 2. 地域に住む高齢者の健康と生活を維持するための支援について考えることができる。 3. 高齢者の在宅生活を支えるためのシステムや地域のあり方（自治体の取り組み等を含む）を考えるとすることができる。 4. 世代や学年を超えた人とコミュニケーションをとることができる。 <p>< 2年次生実習目的 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者を生活者の視点で捉え、健康や生活の在り様をアセスメントすることができる。 2. その方法を他学年と共有し、チームのメンバーとしてメンバーを支えることができる。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者を地域で生活する人間として全体像を捉えて自分の考えを述べるることができる。 2. 1年次とは異なる自己のアセスメント能力の変化や自己の成長を述べるることができる。 3. 協力者を取り巻く周囲の環境と協力者の健康状態や健康状態の変化について述べるることができる。 4. 協力者の実生活との関連で健康状態をアセスメントする重要性や意義に気づいて述べるができる。 5. チームメンバーとしての自己の役割を述べるができる。 6. チームメンバーとして主体的に活動を行うことができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性	
授業計画	<p>実習期間：2026年4月～2027年2月</p> <p>実習場所：富士見が丘団地・下横瀬地区、野津原地区の70歳以上の協力者のご家庭等</p> <p>実習方法：学年の到達目標を考慮し、協力者の家庭を訪問する。学生は1～4年生の縦割りで編成されたチームのメンバーとともに、年間4回以上訪問する。</p>	
その他の授業の工夫	<p>1～4年生で構成されるチームで複数回の継続的な訪問を行い、学年間の学びの共有と協働的学修を促す。</p> <p>訪問計画の調整が必要な場合には、看護研究交流センターや担当教員に相談しながら進める。</p> <p>2月には訪問活動を振り返り、協力者の状況や活動内容、目標の達成度について共有し、学びを整理する。</p>	
時間外学修	<p>事前学修：カンファレンス、予習（1.5h）</p> <p>事後学修：カンファレンス、記録作成（2.5h）</p>	
評価方法と評価割合	<p>年4回以上訪問を行い、以下の～により総合的に評価する。</p> <p>訪問後のレポート・・・60%</p> <p>実習内容 / 実習態度・・・30%</p> <p>最終レポート・・・10%</p>	
テキスト	必要時、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>小野美喜：病院における看護活動</p> <p>佐藤愛：病院・地域における看護活動</p> <p>福田広美：病院における看護活動</p>

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	学生の相談に応じ、健康な在宅生活に必要な条件や健康教育の方法について助言する。	

開講科目名 / Course	教育学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	鈴木 篤	
担当教員名 / Instructor	鈴木 篤	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	1. 教育に関する本質的理念について、これまで自らが有してきた理解を問い直す。 2. 教育についての基礎理論・思想を理解し、説明することができる。 3. 教育の歴史的発展過程を理解し、今後の変化についての見通しを持つ。	
到達目標	1. 学校教育の具体的な場面と関連づけながら、教育に関する理念・思想・歴史について説明できる。 2. 学校教育について俯瞰的に説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 「教育」とは何か（教育の理念1） 02. 学校教育の長所と短所（教育の思想1） 03. 「子ども理解」とは何か（教育の理念2） 04. 学校教育の歴史、養護教諭の歴史（教育の歴史） 05. 教育の「評価」とは何か（教育の理念3） 06. 体験の教育的意味（教育の思想2）、「共同体」としての学校（教育の理念4） 07. 「反省的实践家」としての教師（教育の理念5） 08. 現代的教育課題	
その他の授業の工夫	・ハンドアウトを配布し、最新の教育事情に関する話題提供も行う。 ・具体的な教育場面をもとに、受講者が話し合う機会を設ける。	
時間外学修	・授業計画に基づき、授業開始前に資料などに目を通すこと（8h）。 ・授業終了後、講義中に提示された資料を整理し、復習をおこない、講義において取り扱った基本的な概念について自分なりの理解を構築する（10h）。 ・期末レポートの作成（4h）。	
評価方法と評価割合	本授業では、講義内容について理解が十分であるかどうかを基準に評価を行う（定期試験100%、定期試験では自らの作成した手書きのノートのみ参照可）。なお、教員の免許状取得のための必修科目であることから、教師としての資質能力育成のため、教職志望者として不適切な受講態度を減点の対象とする。	
テキスト	毎回ハンドアウト、資料を配布する。	
参考書	教師という仕事・生き方 若手からベテランまで教師としての悩みと喜び、そして成長（日本標準） 5年3組リョウタ組（角川書店）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	生徒指導	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	藤村 晃成	
担当教員名 / Instructor	藤村 晃成	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	15	
科目の目的と概要	1. 教師として生徒指導を行う上で理解すべき考え方（法制度を含む）や理論、実践のための方法などを理解する。 2. 学校で実際に生徒指導を行うための実践能力の基礎を養う。	
到達目標	1. 生徒指導の意義と原理を説明することができる。 2. 生徒指導の機能について説明できる。 3. 学校における生徒指導体制について説明することができる。 4. 児童生徒の発達特性を踏まえた問題行動への対応の原理を説明することができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 生徒指導とは何か：生徒指導の定義 02. 生徒指導の意義と課題 03. 教育課程における生徒指導の位置付け(1)：教育課程の共通性と生徒指導の個別性 04. 教育課程における生徒指導の位置付け(2)：学習指導における生徒指導、道徳・総合的な学習・特別活動との関連 05. 集団指導・個別指導の方法原理 06. 生徒指導体制：生徒指導の組織、教育相談体制、全校指導体制の確立 07. 児童生徒全体への指導：組織的対応と関係機関等の連携 08. 学級経営と生徒指導(1)：基礎的な生活習慣の確立、規範意識の醸成 09. 学級経営と生徒指導(2)：自己存在感を育む場や機会の設定 10. 生徒指導に関する法令：校則、懲戒、体罰、停学及び退学 11. 問題行動への対応(1)：いじめ、不登校、非行 12. 問題行動への対応(2)：今日的な生徒指導上の課題、関係機関との連携の在り方 13. 自己存在感を育む指導法(1)～個別指導の具体的方法 14. 自己存在感を育む指導法(2)～集団指導の具体的方法 15. 教育相談の進め方：児童生徒との教育相談の実際、校内、校外の関係機関との連携	
その他の授業の工夫	・ハンドアウトを配布し、最新の教育事情に関する話題提供を行う。 ・受講者が話し合う機会を提供する。	
時間外学修	・授業計画に基づき、授業開始前に資料などに目を通すこと（15h）。 ・授業終了後、講義中に提示された資料を整理し、復習をおこない、生徒指導における基本的な概念について自分なりの理解を構築する（20h）。 ・期末レポートの作成（10h）。	
評価方法と評価割合	期末テスト（レポート：80%）と受講態度（発言の積極性、グループワークへの貢献度など：20%）により行う。	
テキスト		
参考書	生徒指導提要改訂版（文部科学省）	
履修する上で必要な要件		
その他	特になし	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

2 年次開講科目

2 学期開講

開講科目名 / Course	発達心理学	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2,4	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	<p>発達を、進化、環境、遺伝という視点から複合的に理解する枠組みに沿って、言語、運動、認知機能、アタッチメント行動などの発達の過程について学ぶことで、発達という概念を相対化する態度を養う。</p> <p>変化、発達、成長が最も顕著である乳幼児期の発達を中心に扱う。内容によっては、児童の発達も併せて扱う。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進化という視点から、種の発達プロセスを概観し、発達を進化の所産として説明する。 2. 進化という視点から、人間の発達に関する事象を説明する。 3. ヒトの発達プロセスを理解・説明するために必要な心理学の概念と知識について、簡潔に説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 乳児期の言語発達：言語発達に不可欠なのは？ 02. 乳児期の運動発達：随意運動の発達と原始反射 03. ヒトの進化の所産としての「生理的な早産」、乳歯、大泉門、原始反射 04. ヒトの育児戦略：アロマザリング 05. 育てられるものに埋め込まれた生依存戦略：アタッチメント行動の発達 06. しょうがいのシステム論的な理解：ICFモデル 07. ディスレクシアのシステム論的な理解 08. 自閉スペクトラム症のシステム論的な理解 	
その他の授業の工夫	座席は講義開始時にくじを引いて決定する。講義はペアワークを中心に展開し、時間外学習を促進する目的でweb上に掲示板を構築する。	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題（指定された動画を視聴し、講義開始時に理解度確認テストを実施）を課す（6h）。 ・事後課題（与えられた課題に100文字程度で答える、講義内容を踏まえた展開課題）を課す（12h）。 ・事後課題（掲示板システムへの投稿、授業内容への疑問、意見、学生相互のコメントなど）（4h）。 	
評価方法と評価割合	<p>期末の試験は実施しない。事前課題の小テスト（4点/回）、講義内容の要約課題（5点/回）、授業を受けてのコメント（3点/回）、授業での発表（1点/回）、web掲示板への投稿（1点/回）、時間外の掲示板への投稿（3点/回）の得点を8回分集計して評価する。評価の基準は初回講義時に説明資料を配布する。講義を欠席した場合、その回に課された全ての課題を提出することができない。単位認定方法について、初めにプリントを配布し説明するので、出席すること。再試験は実施しない。</p>	
テキスト	テキストは指定しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。	
参考書	<p>進化心理学入門（新曜社）</p> <p>進化と人間行動（東京大学出版会）</p>	
履修する上で必要な要件	この講義は必修の授業ではありません。再試験実施の予定はないので注意してください。受講希望者が多い場合は、受講者数の制限を行う可能性があります。	
その他	学校で頻繁に観察される事象を用いて、課題を構成したり、例示を行う。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：公認心理師、学校心理士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	学校場面で観察される「不適応とされがちな」行動を、事例として紹介する。	

開講科目名 / Course	音楽とこころ	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	小川 伊作	
担当教員名 / Instructor	小川 伊作	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	現代社会では、様々なメディアを通して、あらゆるジャンルの音楽を耳にすることができる。講義では、クラシック音楽、ジャズ、フォークソングの3つのジャンルの音楽を取り上げ、それぞれの音楽の歴史と特徴、聴きどころを解説する。	
到達目標	1. この講義で多様な音楽に触れることを通して、「音楽とは何か?」、「音楽の意味するもの」、そして音楽と人間とを関係づけ、説明できるようになる。 2. 音楽を自ら区分・評価し、応用できる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性	
授業計画	01. 音楽入門 「音楽」ってなんだ? 「音楽」の意味 クラシック音楽 祈りの音楽 中世ルネサンス音楽 02. クラシック音楽 音の建築物 バロック音楽 03. クラシック音楽 音で思想を表現する 古典派音楽 04. クラシック音楽 音で物語を表現する ロマン派音楽 05. クラシック音楽 行き着くところまで行ってしまった 現代音楽 06. ジャズ 文化の混交 アメリカの産んだ20世紀最大の芸術音楽 07. フォークソング 若者の気持ちを代弁 08. 音楽と日本 滝廉太郎再発見	
その他の授業の工夫	この講義では、クラシックに限定せず、ジャズ、フォークソングと幅広い音楽に接する機会を受講生に与える。	
時間外学修	意識して(ながらではなく)様々な音楽を聴いてみる。ライブがベストだが、ストリーミング、ラジオ等も可(22h)。	
評価方法と評価割合	毎講義終了時に、その日の授業内容をまとめ、感想を付して提出してもらい、評価の対象とする(100%)。	
テキスト	講義時にプリントを配布する。	
参考書	講義時に随時指示する。	
履修する上で必要な要件	特になし。	
その他	毎回音楽を鑑賞するので極力休まないように。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	美術とこころ	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	澤田 佳孝	
担当教員名 / Instructor	澤田 佳孝	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	<p>便利さを重視する現代社会においては、とかく失われがちな、人が生まれながらに持っている物を作る力、表現する心、工夫する能力などを、描く体験を通して復活させたい。また課題の説明時に、造形の歴史にも触れ、先人たちが残してくれた物づくりの知恵についても、理解を深めたい。</p>	
到達目標	<p>1. 描く体験を通じて、自己を表現することの楽しさ、感じたこと・考えたことを形に表すこと（造形表現）の喜びを体験する。</p>	
DPとの対応	<p>1.心豊かな人間性・倫理観、6.探究心と創造力</p>	
授業計画	<p>01. オリエンテーション及び素描1-1 描写的表現練習 02. 素描1-2 描写的表現の練習及び作品の講評 03. 素描2-1 概念的・空想的表現練習 04. 素描2-2 概念的・空想的表現の練習及び作品の講評 05. 文字と装飾 レタリングの練習 06. 花文字のデザイン 07. 切り絵花文字の制作-1 08. 切り絵花文字の制作-2及び講評</p>	
その他の授業の工夫	<p>課題の説明はクラス全体に行うが、その他は個別指導が基本。</p>	
時間外学修	<p>様々な表現素材の中から、自己の表現に最適な画材を見つけ出す（7h）。 絵日記をつけるように、文字と画像で日々の出来事を記録する習慣を身につける（7h）。 美術館・博物館・ギャラリー・工房等を訪れ、実物の作品を鑑賞するだけでなく、各種ワークショップ・講習会等にも参加して、表現力を養う（8h）。</p>	
評価方法と評価割合	<p>受講態度：40%、提出作品：60%</p>	
テキスト	<p>使用しない。</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	<p>描くこと・表現することは、自分自身のために、各自が生まれながらにして備えている力を、自覚するためであると考えてほしい。</p>	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	英語 - A 2	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	宮内 信治	
担当教員名 / Instructor	宮内 信治	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	ギリシャ語、ラテン語などに起源をもつ英単語を、その語源を手掛かりに意味を理解し習得する。単語テストを行う。また、看護の原著論文について文法を解説し、それに基づく和訳への翻訳演習を行う。1年次に引き続き、課題英文について暗唱Reviewを複数回行う。	
到達目標	1. 学術的に使用される高度な英語語彙を同定できる。 2. 英語による看護原著論文本体を文法解析 (Parsing) できる。 3. 英語による看護原著論文本体が解釈できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、5.地域性・国際性	
授業計画	01. Chapter 5 - 1 : 医療職者を表す10の言葉 / Parsing 1 : 緒言前半 02. Chapter 5 - 2 : 精神と関連する派生語 / Parsing 2 : 緒言後半 03. Chapter 5 - 3 : 病理と関連する派生語 / Parsing 3 : 方法、調査資料開発 04. Chapter 5 - 4 : 分析と関連する派生語 / Parsing 4 : 分析 05. Chapter 5 - 5 : 療法と関連する派生語 / Parsing 5 : 結果前半 06. Chapter 5 - 6 : 歯科と関連する派生語 / Parsing 6 : 結果後半 07. Chapter 5 - 7 : 上肢下肢と関連する派生語 / Parsing 7 : 考察前半 08. Chapter 5 - 8 : 記録に関連する派生語 / Parsing 8 : 考察後半 09. Chapter 5 - 9 : 老年に関連する派生語 / Parsing 9 : 結語前半 10. Chapter 5 - 10 : 世代、年代に関連する派生語Review / Parsing 10 : 結語後半	
その他の授業の工夫	原著は、ナースプラクティショナーを扱った比較的新しい文献を使用する。	
時間外学修	事前学修：教科書の講義予定部分について事前に未知の語句を調べる。原著の講義予定部分について事前に未知語句を調べ、文法解釈 (Parsing) をする (8h) 。 事後学修：講義中に指定された範囲の語句を覚える。講義で確認した文法解釈をもとに原著内の指定された英文を日本語に翻訳し、提出する (11h) 。	
評価方法と評価割合	期末筆記試験 (50%) 、単語テスト、英文暗唱Review、提出物 (50%) で評価する。講義終了までの期間に、教員により指定された英文暗唱Reviewすべてに合格していること、および授業中に教員により適宜出される課題にすべて合格していることを期末筆記試験受験要件とする。欠席・遅刻 (早退) は減点する。欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席3回にて成績評価レベルを一段階下げる。また欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席4回にて期末筆記試験の受験資格を失う。授業に積極的に参加していない態度、授業に対する敬意を欠く態度、授業進行妨害行為などは、教員の判断により減点対象扱いとする場合がある。授業への出席状況などは学生が自らの責任において把握管理すること。	
テキスト	Word Power Made Easy (Pocket Books)	
参考書		
履修する上で必要な要件	英語 A-1、英語 A-2及び英語 A-1の単位を取得していること。	
その他	学習内容の習得・達成を何らかの形で自主的に表現し提出したもの (書評、書籍紹介、感想など) は、評価対象として加点する場合がある。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	英語 - B 2
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	2
主担当教員 / Main Instructor	G.T. Shirley
担当教員名 / Instructor	G.T. Shirley
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	10
科目の目的と概要	English language ability is important for nurses. English II-B 2 is a communication course in Nursing English, and is a continuation of the trimester 1 course. The course goal is to help students acquire English skills that will be useful in providing nursing care for future foreign patients. Each class will include a number of practical speaking, listening, reading and writing activities to help students interact together in English and improve their communication skills in Nursing English. In addition, students will learn and repeatedly practice English medical expressions and vocabulary to improve their ability to communicate with foreign patients and in future international medical settings. This is a learner-centered class, so students must participate actively in every class.
到達目標	1. Students can practice speaking English. 2. Students can practice listening to English. 3. Students can practice their overall English communication skills. 4. Students can actively participate in English group work. 5. Students can actively support and help partners during English pair work and group work.
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、5.地域性・国際性
授業計画	01. Introduction, Trimester 1 review 02. Unit 7: Locations of Hospital Objects 03. Unit 8: Hospital Directions and Instructions 04. Review of Units 7 & 8 05. Unit 9: Directions (Outside the Hospital) 06. Unit 10: Chatting with a Patient 07. Review of Units 9 & 10 08. Unit 11: Taking a Medical History 09. Unit 12: Hospital Procedures 10. Review Units 11 & 12
その他の授業の工夫	This is a student-centered class that uses active learning. The teacher does not call on students to answer questions or recite dialogues during class. Students do speaking and listening activities together in pairs and small groups to maximize student interaction. Such interaction teaches students the importance of mutual support in language learning. The teacher monitors student practice and offers support and encouragement when necessary.
時間外学修	In the week before each class, students should prepare by reading all materials and looking up words and phrases that they do not understand (7h). In the week after class, they should review all materials and practice the pronunciation of difficult words and phrases so they can use these smoothly and effectively during the next class (12h).
評価方法と評価割合	Active Class Participation, Effort and Attitude during Each Class: 50% Final Examination: 50% (注) Important Information: Absence (regardless of reason) or non-participation in two classes results in a reduction of the final class grade down one level; in three classes it results in a reduction of the final class grade down two levels; in four classes it results in a failing grade. (注) Important Information: Students, not the instructor, are responsible for being aware of the number of their absences.
テキスト	Vital Signs (Essential English for Healthcare Professionals) (NAN'UN-DO)

参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	Let ' s have fun practicing and improving our English!	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	文化人類学入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	足立 恵理	
担当教員名 / Instructor	足立 恵理	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	この授業では、看護の現場で患者の多様な背景に目を向けられるよう、文化人類学に加えて医療人類学の視点から、近～現代の医療を取り巻くエスノセントリズム（自文化中心主義）の課題を批判的に見直す。演習では異文化の患者に対する看護を想定し、言語の壁を低くする手法の活用を練習する。特に、エスノセントリズムの課題縮小にも寄与する半構造的インタビューの手法を練習し、ケースに応じた工夫や関係者との協働による計画づくりを行う。	
到達目標	1. 文化人類学や医療人類学の概念を活用して、自他や現代の医療を取り巻く複雑で多様な文化的背景を見直す。 2. 多文化共生医療の実現に向けて、学んだ視点や方法論を看護現場で応用できるよう工夫する。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、5.地域性・国際性	
授業計画	STEP1【文化人類学】自他を取り巻く文化的課題 01. 近現代におけるエスノセントリズムの課題 02. エスノセントリズムを乗り越えるための思想的試み STEP2【医療人類学】多文化共生医療をめぐる文化的課題 03. 医療システムの多様性 04. 病気観と治療観・死生観の多様性 05. 医療化・脱医療化とその課題 STEP3【演習】看護の現場における多文化間協働 06. 言葉の壁を低くする手法の特徴と活用 07. 半構造的インタビューの特徴と活用 08. 手法の工夫と多文化間協働のための計画づくり	
その他の授業の工夫	学んだ視点を応用する力をつけるために、演習やグループワークを適宜取り入れる。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について、配布資料を読んで予習する。「次回までに」と指示があった内容について、自分なりに調査しまとめておく（7h）。 事後学修：講義で扱った視点について、配布資料等を活用して復習する。演習で扱った手法の活用・応用方法を考え、使い方を練習する（15h）。	
評価方法と評価割合	平常点（講義内容を自分の課題として捉える姿勢、グループワークや演習への貢献度）：50% レポート：50%	
テキスト	授業中にプリントを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	健康運動学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	稲垣 敦	
担当教員名 / Instructor	稲垣 敦	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	前期の健康運動学で修得した知識に基づいて、各自の健康課題に合った運動メニューを作成、実施して効果を判定する。 行動変容理論について学び、これを活用する。	
到達目標	1. 運動メニューを作成できる。 2. 運動継続のための方法を説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	01. オリエンテーション、目標設定 02. ベースライン測定、運動メニュー作成 03-14. 運動実施 15. 効果判定測定、レポート作成	
その他の授業の工夫	自分を被験者にして運動の効果を体験する。 ベースライン測定及び効果判定測定を実施し、運動効果を科学的に測定・評価する。 運動継続の難しさを体験し、継続のための方法を考える。	
時間外学修	運動メニューに従って、各自で運動する(12h)。	
評価方法と評価割合	レポート(100%)	
テキスト	必要に応じて資料を配付。	
参考書		
履修する上で必要な要件	ベースライン測定及び効果判定測定に参加すること。	
その他	寒い時期ですが、主体的に運動に取り組んでください。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	稲垣敦：健康運動指導士養成研修会講師、筑波大学陸上競技部コーチ
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	ベースライン測定及び効果判定測定では、目的や対象者にあったチェック項目を選択し、測定評価法等を適切に指導する。 受講者のモチベーションを上げるため、行動変容理論を活用する。	

開講科目名 / Course	健康科学実験
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	2
主担当教員 / Main Instructor	濱中 良志
担当教員名 / Instructor	定金 香里、吉田 成一、稲垣 敦、小嶋 光明、濱中 良志、恵谷 玲央、坪内 優太
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	実験
授業回数	30
科目の目的と概要	基本的な実験演習や測定を通して、人の身体、健康に関係した事項や人間をとりまく自然環境に関する基本的な現象を体得し、理解を深める。基本的な9項目について生体科学、生体反応学、環境保健学および健康運動学の講義・演習などで学んだことを中心に実験テーマを設定し、4つのグループでローテーションをしながら実験を行う。
到達目標	01. 解剖実習：肉眼的に人体の構造と機能を説明できる。 02. 組織学実習：顕微鏡的に人体の構造と機能を説明できる。 03. 血液検査：検体の測定ができる。検査の意義を説明できる。 04. 基礎微生物学実験：無菌操作手法を実施できる。標準予防策と抗菌薬の働きを説明できる。 05. ラットの解剖：人と同じ哺乳類のラットを解剖し、生きた臓器の色や系統的な繋がりを説明できる。 06. 放射線：放射線の測定を通して、放射線の線量の表し方や外部被ばくに対する防護について説明できる。 07. 医療放射線による生物影響の観察：放射線診断レベルの被ばく線量と健康影響の関係を説明できる。 08. 呼吸循環器系持久力：酸素摂取量、エネルギー、仕事、運動強度、運動効率について説明できる。 09. バイオメカニクス実習：人体の運動における重心、床反力、モーメントなどの力学的特性を説明できる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力
授業計画	9項目の実験を行う。4つのグループでローテーションするので、各グループで、実験の順番が異なる。詳細は、健康科学実験テキストに記載している。 01-03. 解剖実習：献体されたご遺体を用いて、各臓器を観察し実際に触ってみる。（濱中・坪内） 04-06. 組織学実習：人体の各臓器のプレパラートを顕微鏡で観察し、スケッチする。（濱中） 07-10. 血液検査：Ht値、CRP検査、血球数算定、血球観察を行う。（定金） 11-14. 基礎微生物学実験：無菌操作を行い微生物の培養と観察を行う。（吉田） 15-18. ラットの解剖：心臓や血管走行を観察し、胸腔内や腹腔臓器を摘出してスケッチし、人との違いを見出す。（吉田・定金） 19-21. 放射線：放射線測定器を用い、自然放射線や移動式X線撮影装置周辺の散乱線を測定する。（恵谷） 22-24. 医療放射線による生物影響の観察：放射線診断レベルのX線をヒト培養細胞に照射し、DNA損傷の発生頻度を蛍光顕微鏡下で測定する。（小嶋・恵谷） 25-27. 呼吸循環器系持久力：自転車エルゴメーター（定常法、最大下負荷）を用いてVO2maxを測定する。（稲垣） 28-30. バイオメカニクス実習：立位姿勢や起き上がり動作、立ち上がり動作を観察し、床反力や筋活動を測定する。（坪内）

その他の授業の工夫	<p>解剖実習：担当教員と対話形式で各臓器の機能を理解させながら進める。</p> <p>組織学実習：スケッチした組織に生理的な役割を記載させる。</p> <p>血液検査：末梢血観察用の標本は、自分で作成する。手技はグループではなく個々に行う。</p> <p>基礎微生物学実験：デモンストレーションを行いながら進める。</p> <p>ラットの解剖：デモンストレーションを行いながら進める。</p> <p>呼吸循環器系持久力：ペアで行い、全員が検者と被験者を体験する。</p> <p>バイオメカニクス実習：グループによるディスカッションを通して、力学的な思考過程を養いながら理解を深める。</p>	
時間外学修	<p>組織学実習(4h)：事前に解剖学・生理学のテキストに目を通す。レポートの作成。</p> <p>血液検査(5h)：レポートの作成（血球の形態や貧血に関する自己学習を行う）。</p> <p>基礎微生物学実験(5h)：得られた結果のうち必要なものについて統計手法を用い、評価した上で、考察を時間外学修としてまとめ、所定の期間内に提出する。</p> <p>ラットの解剖(5h)：実験終了後にレポートを持ち帰り考察を時間外学修としてまとめ、所定の期間内に提出する。</p> <p>バイオメカニクス実習(4h)：実習終了後にレポート作成を行う。</p>	
評価方法と評価割合	<p>すべての実験に出席しないと単位を取得できない。</p> <p>各実験（全9項目）は、口頭試問またはレポートによる評価を行い、9項目の評価を均等に加算して最終的に評価する。</p>	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	看護アセスメント学演習
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	2
主担当教員 / Main Instructor	三苦 美和
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、内倉 佑介、三苦 美和、安部 涼子
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	演習
授業回数	15
科目の目的と概要	看護アセスメント学概論で学んだ看護過程の一連のプロセスの理解を深め、その基礎理論を活用し、事例展開を行うことで、実践に活用するための方法を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の意義や目的を説明できる。 2. 対象理解のための系統的な情報収集・整理、根拠に基づいたアセスメントができる。 3. 対象の身体・心理・社会的側面から導いた全体関連図を記載できる。 4. 看護診断を行い、優先度の決定ができる。 5. 対象に応じた目標設定、アセスメントに基づいた計画を立案し記述できる。 6. 看護計画、実施、評価について、事例展開により知識を活用し記述できる。 7. グループワークに積極的に参加し、自己および自己のグループの課題を説明できる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 演習オリエンテーションと事例紹介 02. グループワークによる事例演習（1）アセスメント（情報収集、情報の整理） 03. グループワークによる事例演習（2）アセスメント（情報収集、情報の整理） 04. グループワークによる事例演習（3）アセスメント（問題の予測、原因、メカニズム等） 05. グループワークによる事例演習（4）アセスメント（問題の予測、原因、メカニズム等） 06. グループワークによる事例演習（5）全体関連図の作成 07. グループワークによる事例演習（6）全体関連図の作成 08. 中間発表会（1）全体関連図の発表・ディスカッション 09. 中間発表会（2）全体関連図の発表・ディスカッション・ルーブリックを用いた振り返り 10. ルーブリックを用いた看護過程レポートの振り返りと個別フィードバック 11. グループワークによる事例演習（7）看護診断の統合・看護計画の立案 12. グループワークによる事例演習（8）看護診断の統合・看護計画の立案 13. グループワークによる事例演習（9）看護計画の評価 14. 最終発表会（1）看護診断の統合・看護計画と評価の発表・ディスカッション 15. 最終発表会（2）ルーブリックを用いた演習全体の振り返り
その他の授業の工夫	事例による看護過程の展開を、グループワークや発表会におけるディスカッションおよびルーブリックを用いた振り返りを通して行うことで、思考を整理し、多角的な視方や考え方を身に付け、表現力を高める。
時間外学修	<p>中間発表会、最終発表会の課題を達成するように、時間外学修も含めて計画的に進める。</p> <p>事前学修：看護過程レポートを作成する（3h）。</p> <p>事後学修：グループワーク・発表・ディスカッションを踏まえてレポート内容を修正する（9h 3h×3回）。</p>
評価方法と評価割合	原則100%出席し、グループ討議することを評価の前提とする。 演習記録（80%）、受講態度（20%）。
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[2]（医学書院）</p> <p>NANDA-I看護診断定義と分類2024-2026（医学書院）</p> <p>看護診断を導く情報収集・アセスメント 第7版（Gakken）</p>
参考書	<p>看護がみえる 看護過程の展開（メディックメディア）</p> <p>根拠がわかる疾患別看護過程 改訂第3版（南江堂）</p> <p>病気がみえる 各シリーズ（メディックメディア）</p> <p>経過がみえる疾患別病態関連マップ第2版（Gakken）</p>
履修する上で必要な要件	

その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	石田佳代子：病院の看護師経験 三笥美和：病院の看護師経験 内倉佑介：病院の看護師経験 安部涼子：病院の看護師経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護師経験を通して、エビデンスに基づき、臨床現場と理論を結び付けながら教授する。	

開講科目名 / Course	老年看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、佐藤 愛、堀 裕子、中釜 英里佳	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	加齢に伴う様々な健康問題をもつ高齢者の生活に及ぼす影響や健康的な日常生活を支えるための看護援助を学ぶ。これらの学習を通して、その人らしさを尊重して、最期まで高齢者本人とその家族のもつ力を最大限に活かすことができる看護を考察する。	
到達目標	1. 加齢変化を伴う高齢者に必要なアセスメント視点について述べることができる。 2. 高齢者の日常生活の援助方法について説明できる。 3. 高齢者の健康を維持・向上するための看護援助について説明できる。 4. 人生の最終段階にある高齢者と家族を尊重した看護援助について説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 高齢者のアセスメント・総合的機能評価 02. 高齢者の基本動作と運動・転倒予防 03. 高齢者の食生活を整える：摂食嚥下・経管栄養 04. 高齢者の排泄を整える：排泄コントロール 05. 高齢者の清潔と睡眠・休息を整える：スキンケア 06. 高齢者とコミュニケーション 07. 高齢者とエンドオブライフケア 08. 高齢者と家族への緩和ケア	
その他の授業の工夫	適宜小テストで基本的知識を確認し、知識習得を深める。高齢者の生活援助については事例検討を行い、高齢者に安全で望ましい援助方法を考えるために、アクティブラーニング方式をとる。	
時間外学修	各授業に該当する内容をテキストにて予習する（8h）。 授業内で指示した課題をレポートにまとめる（8h）。 授業資料や小テストを復習する（6h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験（70%） レポート課題（20%） グループワーク参加の姿勢（10%）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件	老年看護学概論を修得済みであること。本科目では、学生が「疾患・病態生理」、「検査・治療」を理解しているという前提で講義を実施する。	
その他	講義毎にハンドアウト資料を準備し、キャンパススクエアにあげる。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：病院の看護師 堀裕子：病院の看護師 中釜英里佳：病院の看護師 佐藤愛：病院・地域における看護活動
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	加齢変化や疾病を抱えながら生活する高齢者の実際を踏まえて指導する。	

開講科目名 / Course	精神看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	杉本 圭以子	
担当教員名 / Instructor	杉本 圭以子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	生物 - 心理 - 社会的存在としての人間の健康を、主に心理社会的側面から理解するために必要な視点と基礎知識を学ぶ。社会構造や生活様式の変化に伴う精神的健康に関する課題を考え、精神医療の歴史的反省と当事者支援におけるリカバリーの考え方についても学ぶ。	
到達目標	1. 精神的健康を、国際生活機能分類およびリカバリー概念と関連付けて説明できる。 2. 社会構造や生活様式の変化に伴う精神的健康に関する課題について説明できる。 3. 現代の精神保健医療福祉が目指すことを、日本の精神医療史における人権問題をふまえて、一次・二次・三次予防の観点から説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性	
授業計画	01. 精神的健康とは、精神（心）のとりえ方 02. 精神（心）の発達に関する主要な考え方 03. 家族と精神（心）の健康 04. 暮らしの場と精神（心）の健康 05. 危機状況と精神（心）の健康 06. 現代社会と精神（心）の健康(1) 職場におけるハラスメント、児童虐待、不登校、自殺 07. 現代社会と精神（心）の健康(2) 依存症（アルコール、薬物、ギャンブル）、犯罪 08. 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、より深く理解するために、アクティブラーニングを組み込む。理解を深めるため、視聴覚教材を多用する。知識の定着を図るため、小テストを実施する。	
時間外学修	事前学習：各回テーマに関連するニュース、出来事の記事を探し、あらかじめテーマと精神的健康との関連を考える（16h）。 事後学習：学習した内容を演習、実習に活かせるよう整理する（6h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験80%、小テスト10%、提出物10% *出席を前提としているため欠席の場合は減点の対象とします。	
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論 / 精神保健（メヂカルフレンド社）	
参考書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎（医学書院） 精神看護学 精神保健・多職種のつながり こころ・からだ・かかわりのプラクティス（南江堂） ナーシング・グラフィカ 精神看護学1 情緒発達と精神看護の基本（メディカ出版）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	杉本圭以子：精神科病院、精神科クリニックでの看護師としての経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	精神科での勤務経験を活かし、精神保健について個人の発達とライフサイクル、家族、学校、職場、地域における精神保健、社会病理現象、精神保健医療福祉の歴史と現状、権利保障や法・制度等幅広い視点からわかりやすく伝える。	

開講科目名 / Course	看護管理学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、矢野 亜紀子、大矢 七瀬	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	看護管理学概論 では、講義を通して看護を取り巻く社会背景と共に看護管理に必要な基礎的知識について論じる。加えて、看護職のキャリアや他職種との協働・連携、ヘルスケアの現場において安全で質の高い医療と看護を提供するための基本的な仕組みについて具体例を挙げながら説明する。 また、看護を取り巻く現状から課題を発見し、日々の看護管理を行うための方法について討論する。	
到達目標	1. 看護管理に用いられる基本的な用語について、自分自身の経験と関連付けて説明することができる。 2. 日常の看護の事例を通して看護管理に関する課題を発見することができる。 3. 発見した課題を解決するための具体的な対応策についての討議を通して、改善策を立案・検討することができる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 看護を取り巻く社会 02. 看護管理に求められる能力 03. 看護職と組織・キャリア 04. 看護とリーダーシップ 05. 他職種との協働・連携 06. 看護管理の実際 07. 安全管理1：組織とリスクマネジメント 08. 安全管理2：業務上の危険因子とその対応	
その他の授業の工夫	発問やグループディスカッションを用い、思考する時間を意図的につくることや学生間の意見交換等のアクティブラーニングを実施する。	
時間外学修	・毎授業前に、アップロードした資料をダウンロードし、予習する（5h）。 ・日本の医療・保健・福祉の現状に関するニュースや新聞を視聴し、要点や自分の考えをまとめる（17h）。	
評価方法と評価割合	各回のミニレポート（40%）、最終レポート（50%）、平常点（発問に対する積極性）（10%）レポートにおいて到達目標が達成できているかを評価する。 出席時間数の3分の2以上の出席を評価要件とする。	
テキスト	授業ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書	系統看護学講座 専門分野 看護管理（医学書院） 看護の統合と実践 看護管理（メディカ出版）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院に勤務する看護師 荒木章裕：病院に勤務する看護師 矢野亜紀子：病院に勤務する看護師 大矢七瀬：病院に勤務する助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護職としての実務経験を活かして看護管理の在り方と実際について授業を行う。	

開講科目名 / Course	家族看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 章裕	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、矢野 亜紀子、大矢 七瀬	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	家族看護では、家族全体を看護の対象と考え、家族の力を最大限に引き出し、家族全体の健康を目指して、未来の危機に備える力をつける支援が重要となる。これらの支援を行うために、家族看護では、多様な家族に対する理解を深める。理論やモデルをもとにアセスメントを行い、家族のニーズを理解したうえで看護が行えるようになることを目的とする。	
到達目標	1. 家族看護の意義や対象、目標、理念を説明できる。 2. 家族の発達段階と各期の発達課題を説明できる。 3. 健康問題を持つ家族のアセスメントができる。 4. 健康問題を持つ家族に対する援助方法を説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ	
授業計画	01. 家族看護とは 02. 家族看護の対象理解 03. 家族看護を支える理論 04. 家族看護展開 方法 05. 家族看護展開 アセスメントモデル 06. 家族看護展開 実際 07. 家族看護の実際 理論とモデル 08. 家族看護の実際 家族看護の介入と評価	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学ぶため、教員からの発問に加え、グループワークや意見交換、発表等のアクティブラーニングを実施する。	
時間外学修	事前学修：次回の学修内容について、事前に配布する資料や教科書を用いて予習する（8h）。 事後学修：授業で学修したことを整理し、獲得した知識の定着を図る（8h）。また学修した内容を基に与えられた課題に取り組み、到達目標の達成を目指す（6h）。	
評価方法と評価割合	出席時間数の3分の2以上の出席を評価要件とする。 平常点：10%（発言等の積極性）、レポート・提出物（40%）、筆記試験（50%）	
テキスト	必要に応じて資料を配布する。	
参考書	系統看護学講座 別巻 家族看護学（医学書院）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院に勤務する看護師 荒木章裕：病院に勤務する看護師 矢野亜紀子：病院に勤務する看護師 大矢七瀬：病院に勤務する助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして家族看護学の理論や知識について教育する。	

開講科目名 / Course	社会保障システム論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	持田 恵理	
担当教員名 / Instructor	持田 恵理	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	本講義では、国民の生命・健康と生活を支える社会保障制度すなわち保健・医療・福祉サ・ビスを提供するための制度の概要を学ぶ。 まず社会保障全体の枠組みと意義を理解した上で、個人や集団の生活を支え健康を保持・増進するための保健・医療・福祉に関する法制度および行政上のシステムの概要を理解する。	
到達目標	1. 社会保障の意義を説明できる。 2. 社会保障制度の内容を説明できる。 3. 社会保障制度の課題を説明できる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ	
授業計画	01. 社会保障制度の概要 02. 医療保障 03. 介護保障 04. 所得保障 05. 公的扶助 06. 社会福祉（高齢、障害） 07. 社会福祉（児童） 08. 看護職と多職種連携	
その他の授業の工夫	法や制度の記憶に終わらず、その意義や課題を理解できるよう、可能な限り最新のデータを提供して、実社会の動きや事象と関連付けられるように解説する。	
時間外学修	事前学修：前日までに講義資料を配布するので、講義までに一読しておくこと。（8h） 事後学修：毎回講義内容が多岐にわたるため、講義回ごとに復習し、「国民衛生の動向」などで関連事項を理解すること。（14h）	
評価方法と評価割合	筆記試験（80%） 各回講義の後の小テスト（20%）	
テキスト	講義ごとにハンドアウトを配布する。 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3,4]（医学書院）	
参考書	国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 国民の福祉の動向（厚生労働統計協会） 保険と年金の動向（厚生労働統計協会）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	持田恵理：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	保健福祉行政に関わった経験から、社会保障制度の仕組みを教授するとともに、各政策と看護職の関わりについて学べる内容とする。	

開講科目名 / Course	養護概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	小野 治子	
担当教員名 / Instructor	小野 治子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	学校教育、学校保健を担う教育職としての養護教諭の基本的理念、役割等の基礎について学修することを目的とする。また、養護教諭の役割の学習を通じて、学生自身の養護教諭観を構築する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護についての本質や基本的概念について説明できる。 2. 看護と養護の共通点と相違点について説明できる。 3. 養護教諭の職務について説明することができる。 4. 自身の養護教諭観について述べるができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 養護教諭の本質と職業倫理 02. 学校教育と学校保健 03. 看護師と養護教諭の共通点と相違点 04. 養護教諭の職務（グループワーク） 05. 養護教諭の職務（発表と検討） 06. 子どもの現代的な健康課題とその対応（グループワーク） 07. 子どもの現代的な健康課題とその対応（発表と検討） 08. 養護教諭活動の実際 	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学ぶため、事前課題を課し、事前課題をもとにグループワークや発表、意見交換等のアクティブラーニングを実施する。	
時間外学修	事前学修：事前課題を別途指定する。その課題を事前に学習する（15h）。 事後学修：配布資料やディスカッションを踏まえて復習する（7h）。	
評価方法と評価割合	定期試験：60%、平常点：10%（グループワークにおける貢献度、発表等の積極性）、各種提出物：30%（提出物の内容も評価に含む）	
テキスト	学校における養護活動の展開＜第12版＞養護教諭養成講座（ふくろう出版）	
参考書	新改定 学校保健実務必携＜第5次改定版＞（第一法規）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野治子：高等学校・支援学校の養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	小学校、中学校、高等学校の養護教諭
実務経験をいかした教育内容	小学校、中学校、高等学校および支援学校で養護教諭として実務経験のある教員が講義を行う。	

開講科目名 / Course	教育相談	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	中島 暢美	
担当教員名 / Instructor	河野 伸子、飯田 法子、中島 暢美	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	15	
科目の目的と概要	教育相談の意義や役割について理解し、不適応とは何か、適応障害とは何かを理解する。また、自身が体験したことなどを課題とし、どのような対応が必要か、どのような組織との連携が必要かなどを、グループで話し合う。	
到達目標	1. 学校における教育相談の意義と理論を説明できる。 2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を同定できる。 3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を述べることができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 教育相談とはなにか 02. 教育相談の意義と役割 03. 教育相談の組織と方法 04. 適応と不適応 05. 不適応の分類と理解 06. 適応障害の理解（不登校、ひきこもり） 07. 学校教育におけるリスニングの必要性（カウンセリングマインド） 08. カウンセリングマインドの理解 09. カウンセリング演習（うなずき、明確化、質問）、カウンセリング総合演習 10. アセスメント技法 11. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療・福祉・心理などの専門機関との連携 12. 教育相談における教職員の連携 13. 事例（虐待、いじめ） 14. 事例（発達障害） 15. 事例（保護者支援）	
その他の授業の工夫	事例を提示し、それに基づいて話し合う機会を提供する。	
時間外学修	・ 授業計画に基づき、授業開始前にテキストや資料などに目を通すこと（15h）。 ・ 授業終了後、講義中に提示された資料を整理し、復習をおこない、生徒指導における基本的な概念について自分なりの理解を構築する（20h）。 ・ 期末レポートの作成（10h）。	
評価方法と評価割合	最終レポート（50%）、および、授業内でのグループディスカッションの内容や態度（50%）で評価する。	
テキスト	対人援助職のためのリスニング（ナカニシヤ出版） ディブリーフィング・ワークの研究（関西学院大学出版会）	
参考書	教育相談ワークブック（北樹出版） 教育臨床の実際（ナカニシヤ出版）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	飯田法子：臨床心理士 河野伸子：公認心理士、臨床心理士

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	教育現場で課題となる児童虐待、発達障害、保護者への対応などについて、事例を通して学べるようアクティブラーニングを取り入れた講義を行う。	

開講科目名 / Course	学校教育心理学	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	藤田 文	
担当教員名 / Instructor	藤田 文	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	15	
科目の目的と概要	教職課程や心理学における教育心理学の位置づけから入り、発達、知能、パーソナリティ、学習などの個々の生徒を理解するために必要な知識を習得する。さらに、教員としての教育心理学的な知識として授業の方法や評価などについて理解する。	
到達目標	1. 教育の場に必要心理学的な知識を説明することができる。 2. 自ら積極的に、教育現場に必要な心理学の知識が何かを説明することができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 教育心理学とは何か 02. 欲求・動機づけ 03. 学習（連合説、認知説） 04. 記憶（理論、方略） 05. パーソナリティ 06. 学級集団 07. 授業の方法、教育評価 08. 子どもの発達段階の特徴と発達課題 09. 乳・幼児期の発達(1) アタッチメント、インプリンティング、生理的早産 10. 乳・幼児期の発達(2) 言語と運動機能の発達 11. 幼児・児童期の発達(1) ピアジェ理論・認知発達・心の理論 12. 幼児・児童期の発達(2) 社会性の発達と学級集団指導の基本的原理 13. 青年期の発達(1) 自己の発達・アイデンティティ・心理的離乳 14. 青年期の発達(2) 道徳性の発達・自尊感情 15. 障がいをもつ子どもたちの理解 身体機能、視聴覚の障がい 発達障がい	
その他の授業の工夫	・適宜、映像教材を用いて受講者の興味がわくようにする。 ・グループワークや意見発表の機会を設け、主体的参加を促進する。	
時間外学修	・授業計画に基づき、授業開始前に資料などに目を通すこと（15h）。 ・授業終了後、講義中に提示された資料を整理し、復習をおこない、生徒指導における基本的な概念について自分なりの理解を構築する（20h）。 ・期末レポートの作成（10h）。	
評価方法と評価割合	最終テスト（期末レポート）（80％）、復習課題（20％）	
テキスト	発達と老いの心理学（サイエンス社）	
参考書	教育心理学・新版～教職を目指す人への入門書（川島書店）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	教育課程論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	今井 航	
担当教員名 / Instructor	今井 航	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	将来教員として授業を計画する際、国の定める基準、即ち学習指導要領に則り授業内容を自ら構成できるようになるための基礎力が養成される。そうした目標に到達するため、「教育課程とは何か（その形態・原理）」及び「学習指導要領とは何か」の問いの下、授業は進められる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講学生自らが初等・中等教育段階で経験してきた教育課程の諸特徴を振りかえり、具体的な事例をあげることができる。 2. 学習指導要領の歴史的変遷を説明することができる。 3. 学習指導要領の最新の動向を説明することができる。 4. 教育課程の構造及び編成原理を説明することができる。 5. 学校の教育活動を教育課程という視点から説明することができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 教育課程のガイダンス（経験を振り返る） 02. 生活科や、総合的な学習の時間、或いは特別活動、更には外国語活動 03. 学習指導要領の特徴 1 歴史的変遷の概要、現行の学習指導要領、昭和22年版、昭和26年版 04. 学習指導要領の特徴 2 昭和33年版、43年版、52年版、平成元年版、平成10年版、平成20年版 05. 学習指導要領の特徴 3 改訂の最新動向、現行の学習指導要領の総則を読む 06. 教育課程の構造 1 学校段階別にみられる教育課程の構造 07. 教育課程の構造 2 保育所・幼稚園や、特別な支援を要する児童・生徒の教育課程 08. 教育課程の原理 教育課程の歴史（戦前の教科課程）、教育課程の思想（教科・教科外の2領域論と類型論） 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドアウトにより最新教育事情に関する話題提供を行う。 ・受講者が話し合う機会を提供する。 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画に基づき、授業開始前に資料などに目を通すこと（8h）。 ・授業終了後、講義中に提示された資料を整理し、復習を行い、生徒指導における基本的な概念について自分なりの理解を構築する（10h）。 ・期末レポートの作成（4h）。 	
評価方法と評価割合	試験結果（学期末試験90%）。授業で扱った内容に基づき、到達目標及びテーマを踏まえながら作成された各問に、正確に答えられるかどうか、語句による記述式や記号選択式の問題により問う。なお、受講態度についても評価の対象とする（10%）。	
テキスト	<p>以下に示す学習指導要領の本体と解説総則編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校学習指導要領（平成30年告示） ・中学校学習指導要領（平成29年告示） ・小学校学習指導要領（平成29年告示） <p>以下のいずれかの事典/辞典</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新版 教育小事典第3版（学陽書房） ・教育用語辞典（一藝社） 	
参考書	よくわかる教育課程（ミネルヴァ書房） 「第5章 教育課程を考える」、新版 はじめて学ぶ教育の原理（学文社）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

2 年次開講科目

3 学期開講

開講科目名 / Course	行動療法論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2,3,4	
主担当教員 / Main Instructor	秋本 慶子	
担当教員名 / Instructor	秋本 慶子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	人の行動が変容する理論の理解を通じて、自己および他者の行動変容について体験的な理解を深めることを目的とする。最初に行動変容に関して理論的な解説と実例を挙げながら概要を説明する。中盤以降は、具体例や受講者自身のちょっとした行動を対象に、各回で取り扱うキーワードを用いて、受講者自身が分析・解説を試行する。最終的には、行動変容が起る環境について言及し、自信や他者の行動を、行動療法の観点から整理し、行動が維持される仕組みについて自らの言葉で説明できるようになることを目標とする。	
到達目標	1. 行動変容の基礎理論について説明できる。 2. 行動を状況や環境から分析することができる。 3. 行動変容を促進する具体的な方法を提案できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 行動変容の基礎：行動療法の対象、学習心理学 02. 技術を記述する（観察）：ABC分析 03. 行動と結果の関係（法則）：行動随伴性 04. 好子と嫌子 05. 行動の維持と回避行動 06. 行動変容の難しさ：嫌子と消去 07. 行動を支える条件：環境 08. 即時的な行動変容と行動の維持：外的統制と自己調整	
その他の授業の工夫	・学習の構えを促進するために、毎時「めあて」を提示する。 ・話し合い活動や発言行動が強化されるよう、学習環境を調整する。 ・小テスト、事後小レポートで、理解を深める。	
時間外学修	事前学修：適宜、次回の学習内容に関する事前小レポートを課す（7h）。 事後学修：適宜、講義内容に関する事後小レポート、コメントを課す（15h）。	
評価方法と評価割合	数回の課題レポートまたは小テスト（70%）と受講態度（発言の積極性、コメント、質問、グループワークへの貢献度等：30%）により行う。	
テキスト	テキストは使用せず、毎回、ハンドアウトを配布する。	
参考書	行動分析入門（第2版）（産業図書）	
履修する上で必要な要件		
その他	聞いて覚える講義ではなく、実際に考えて、作業して、実践してもらおう部分が多くありますので、それを理解した上で履修して下さい。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	看護アセスメント学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	石田 佳代子	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、内倉 佑介、三苦 美和、安部 涼子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	40	
科目の目的と概要	対象者と援助的人間関係を築きながら、身体面・心理面・社会面の状態を総合的に捉え、看護診断を明らかにし、看護過程を展開する基礎的能力を修得すると共に、看護職に求められる基本的姿勢を身につける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を尊重した態度で関わることで、援助的人間関係を形成することができる。 2. 対象者の多様な側面から情報収集ができる。 3. 看護の視点からアセスメントして看護診断を導くことができる。 4. アセスメントに基づき個別性に配慮した看護計画を立案することができる。 5. 根拠を考え看護実践、評価をすることができる。 6. 看護職に求められる基本的姿勢を身につけることができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<p>実習期間：2026年12月7日(月)～12月21日(月)</p> <p>実習施設：大分県立病院、大分赤十字病院、大分大学医学部附属病院のいずれかの施設に配置。</p> <p>実習方法：原則1名の受け持ち患者に関わり、患者の理解を深め看護過程の展開を行う。日々の実習目標、実習計画を立案し、臨床指導者、教員の指導のもとにケアを実施しながら、アセスメント、看護診断、看護計画、実施、評価を行う。Daily カンファレンス、中間および最終カンファレンスを実施し、課題を見出し修正する。</p>	
その他の授業の工夫	<p>臨地実習において、受け持ち患者の看護過程の展開を初めて行うため、学生5～6名に対して1名の担当教員を配置し、できる限り少人数できめ細かく指導できる体制をとる。</p> <p>また、担当教員が実習施設に常駐する指導体制をとることで、学生が担当教員からタイムリーに指導を受けたり、相談したりしやすい環境をつくる。</p> <p>臨地実習の中間・最終日には、実習施設において実習指導者等による参加のもとでカンファレンスを実施し、学生が学んだこと等をプレゼンテーションした後、実習指導者等からのフィードバックを受ける機会を設ける。</p>	
時間外学修	日々の振り返りと、翌日の実習目標を明確にし、看護過程に関する実習記録を整理しまとめる(8h)。	
評価方法と評価割合	<p>原則100%出席とする。</p> <p>実習目標の到達度(70%：実習内容、実習記録、カンファレンス内容を含む)、看護職に求められる基本的姿勢(30%：基本的姿勢は実習要項参照)により評価を行う。</p> <p>記録物の提出遅れや未提出、本人の責任による遅刻や欠席は減点対象とする。</p>	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[2] (医学書院)</p> <p>NANDA-I看護診断定義と分類2024-2026 (医学書院)</p> <p>看護診断を導く情報収集・アセスメント 第7版 (Gakken)</p>	
参考書	<p>根拠がわかる疾患別看護過程 改訂第3版 (南江堂)</p> <p>看護がみえる 看護過程の展開 (メディックメディア)</p> <p>病気がみえる 各シリーズ (メディックメディア)</p> <p>経過がみえる疾患別病態関連マップ第2版 (Gakken)</p>	
履修する上で必要な要件	看護理論入門、診療補助技術論(基礎編)、第1段階実習(基礎看護学実習)、看護疾病病態論、看護疾病病態論、ヘルスアセスメント、看護アセスメント学概論、看護アセスメント学演習を、単位修得済み、もしくは単位修得見込みであること。	
その他		
教員の實務経験	有・無	有

	内容	石田佳代子：病院の看護師経験 三笥美和：病院の看護師経験 内倉佑介：病院の看護師経験 安部涼子：病院の看護師経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	臨床現場で活動する看護師と看護の実務経験をもつ教員が連携し、具体的な看護過程の展開や看護ケア、看護職としての基本的な姿勢や倫理観について教授する。	

開講科目名 / Course	成人看護援助論 (慢性期)
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3学期 / Third
開講区分 / semester offered	3学期 / Third
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	2
主担当教員 / Main Instructor	古賀 雄二
担当教員名 / Instructor	佐藤 栄治、古賀 雄二、水田 恵子、井上 陽士、吉田 嘉子
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	8
科目の目的と概要	慢性の健康問題をもつ成人期にある対象の身体的、心理・社会的特徴を理解する。また、慢性疾患の疾病コントロールにより社会生活の継続もしくは生活の再構築を目指す対象の健康問題およびセルフケア確立に必要な援助方法について学ぶ。
到達目標	1. 慢性疾患に伴う健康障害をもつ対象の身体的・心理的・社会的特徴について述べることができる。 2. 慢性疾患に伴う健康障害をもつ人の治療・療養行動への支援について、主な理論・概念を用いて説明できる。 3. 代表的な慢性疾患を有する対象への援助方法について述べるができる。 4. 療養の場の移行に関する社会資源・サポートシステムについて説明できる。 5. 療養の場を移行する慢性疾患に伴う健康障害をもつ対象に対し必要な援助方法を述べるができる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力
授業計画	01. 慢性疾患の特徴と慢性疾患をもつ人と家族の理解、慢性期疾患をもつ人の看護援助 セルフケアとは 行動変容に関する看護理論、呼吸器疾患に伴う健康障害と看護：COPD 02. 代謝・内分泌疾患に伴う健康障害と看護：2型糖尿病 03. 血糖測定演習 04. 腎・泌尿器疾患に伴う健康障害と看護：慢性腎不全 05. 血液・造血器疾患、免疫疾患・膠原病疾患に伴う健康障害と看護：白血病・SLE 06. ボディイメージ障害患者の特徴と看護：乳がん 07. 循環器疾患に伴う健康障害と看護：慢性心不全 08. 慢性期の患者を支援する看護(事例を用いたグループワーク)、まとめ
その他の授業の工夫	臨床事例から看護実践の意味付けや重要性の再認識につながるように工夫している。学生が相互に考えを共有し、コメントできる掲示板を提供し、意見交換の活性化を図る。
時間外学修	事前学修：講義開始までに予習するテキストの該当箇所が教示される。講義冒頭に内容理解に関する小テストを行うので、準備をしておくこと(10h)。 事後学修：毎時、講義終了後に内容の理解を確認する課題小テストを課す(12h)。
評価方法と評価割合	筆記試験(54%)：マークシート式 事前・事後課題(31%)：第1～7回 事前学習小テスト1～3点/回(計9点) 第1～7回 事後課題小テスト2～10点/回(計22点) 第3回演習レポート(10%) 授業への積極的な参加態度、グループワークへの貢献度(5%)
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2,3,4,6,8,10](医学書院) 系統看護学講座 別巻 がん看護学(医学書院)
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	必要に応じ、ハンドアウト資料を提示する。
教員の実務経験	有・無 有

	内容	古賀雄二：病院の看護師 佐藤栄治：病院の看護師 水田恵子：病院の看護師 井上陽士：病院の看護師 吉田嘉子：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	慢性疾患をもつ成人期にある対象者への実践経験を活かし、学生の興味関心が高まるよう事例紹介や事例検討を取り入れた講義を行う。	

開講科目名 / Course	老年看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	堀 裕子	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、堀 裕子、中釜 英里佳	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	老年期特有の症状や疾病に伴う健康障害をもつ高齢者の健康問題を取りあげ、生活に及ぼす影響や、生活の質を考えた看護援助を学ぶ。これらの学習を通して、超高齢社会の中で多様な背景をもつ高齢者とその家族を尊重した看護援助について考察する。	
到達目標	1. 老年期特有の症状や健康障害を説明できる。 2. 老年期特有の症状や健康障害が生活に及ぼす影響を説明できる。 3. 老年期特有の症状や健康障害を持つ高齢者と家族の看護援助について説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 高齢者と感染症看護 02. 急性期症状を呈する高齢者の看護 03. 侵襲的治療を受ける高齢者の看護 04. リハビリテーションを受ける高齢者の看護 05. 慢性経過に伴う症状を呈する高齢者の看護 06. 認知症高齢者の看護（1）認知症の理解、認知症ケア・医療保健福祉制度の変遷 07. 認知症高齢者の看護（2）認知症ケア・コミュニケーションの基本 08. 認知症高齢者の看護（3）認知症高齢者と家族への意志決定支援と多職種連携	
その他の授業の工夫	適宜、DVDでの事例視聴を取り入れる。その上で、グループワークを通して、老年期特有の症状や疾病に伴う健康障害をもつ高齢者の援助のあり方を多角的に検討し共有する。また、認知症高齢者とのコミュニケーションのロールプレイを行い、認知症高齢者に寄り添う姿勢を体得する。	
時間外学修	各授業に該当する内容をテキストにて事前学修する（8h）。 授業内で指示した課題をレポートにまとめる（8h）。 授業資料や小テストを事後学修する（6h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験（70%） レポート課題（20%） グループワーク参加の姿勢（10%）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件	老年看護学概論、老年看護援助論 を修得済みであること。	
その他	講義毎にハンドアウト資料をキャンパススクエアにアップする。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：病院の看護師 堀裕子：病院の看護師 中釜英里佳：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	各看護専門分野における高齢者への実践経験をふまえ、学生の興味関心が高まるように看護介入した事例を取りあげ、解説や事例検討を行う。	

開講科目名 / Course	母性看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	濱 耕子	
担当教員名 / Instructor	徳丸 由布子、永松 いずみ、濱 耕子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	妊娠期、分娩期の生理と異常および心理・社会的特徴とその看護について学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期の生理的变化について述べるができる。 2. 妊娠期・分娩期の母親と胎児の状態をアセスメントすることができる。 3. 妊娠中の女性と胎児の管理について述べるができる。 4. 妊婦・産婦の正常や異常経過およびその看護について述べるができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. ガイダンス、妊娠の生理 02. 妊娠の経過 03. 妊婦と胎児のアセスメント/母体と胎児の管理 04. 妊婦の看護 (1) 妊娠の届け出、健康診査、妊娠中の食生活 05. 妊婦の看護 (2) 日常生活の過ごし方と保健指導 06. 妊娠の異常と看護 (1) 妊娠悪阻、流産・早産、妊娠高血圧症候群 07. 妊娠の異常と看護 (2) 妊娠貧血、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、多胎妊娠、糖代謝異常合併妊娠 08. 分娩の定義/分娩の生理 09. 分娩の経過/産婦の看護 10. 産婦の異常と看護 	
その他の授業の工夫	学生が講義参加できるように講義中に学生の意見を聞く。	
時間外学修	<p>事前学修：系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論のテキストに目を通して講義に臨む（9h）。</p> <p>事後学修：テキストや配布資料を用いて復習する（10h）。</p>	
評価方法と評価割合	筆記試験（100%）から評価する。	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論（医学書院）</p> <p>病気がみえる vol.10 産科（メディックメディア）</p> <p>講義の中で適宜資料を配布する。</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件	母性看護学概論を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>濱耕子：病院の助産師</p> <p>永松いずみ：病院の助産師</p> <p>徳丸由布子：病院の助産師</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。	

開講科目名 / Course	精神看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	後藤 成人	
担当教員名 / Instructor	後藤 成人、杉本 圭以子、外池 桃子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	患者－看護師関係を基盤とした精神看護を実践するために必要になる知識、理論、技法を学ぶ。	
到達目標	1. 精神看護の基本的概念について説明できる。 2. 主な精神疾患における精神科治療の概観を説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 精神看護の基本概念 精神症状、診察と検査 02. 患者 - 看護師関係の構築 治療的關係・コミュニケーション 03. 精神疾患と治療(1) 統合失調症・双極性障害・うつ病 04. 精神疾患と治療(2) 不安障害・強迫性障害・心的外傷・解離症 05. 精神疾患と治療(3) 身体性障害・摂食障害・睡眠障害・物質関連障害 06. 精神疾患と治療(4) 認知症・パーソナリティ障害・てんかん・発達障害 07. 精神疾患の治療法(1) 薬物療法・電気けいれん療法 08. 精神疾患の治療法(2) リハビリテーション療法・精神療法	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、より深く理解するために、アクティブラーニングを組み込む。理解を深めるため視聴覚教材を多用する。知識の定着を図るため、小テストを実施する。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容である各精神疾患の概要や治療法について教科書を用いて予習し、ワークシートに記入する（10h）。 事後学修：学習した内容をワークシートに書き込んでまとめ、演習、実習に活かせるよう整理する（12h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験80%、小テスト10%、提出物10% * 出席を前提としているため欠席の場合は減点の対象とする。	
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護（メヂカルフレンド社）	
参考書	系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開（医学書院） 精神看護学 臨床で活かすケア こころ・からだ・かかわりのプラクティス（南江堂）	
履修する上で必要な要件	精神看護学概論を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	後藤成人：精神科病院での看護師としての経験 外池桃子：精神科病院での看護師としての経験 杉本圭以子：精神科病院、精神科クリニックでの看護師としての経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	精神科での勤務経験を活かし、イメージしにくい精神疾患の特徴や看護の対象者についてわかりやすく伝える。	

開講科目名 / Course	地域看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	小野 治子	
担当教員名 / Instructor	小野 治子、川南 公代、首藤 佐織、高木 優衣	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	地域で生活する人々や家族の暮らしと健康を支えるために必要な地域看護の基礎を学ぶことを目的とする。地域看護の概念や特徴、予防の考え方を理解し、人々が暮らす地域の特性や生活の多様性について学習する。さらに、病院・施設・在宅など様々な場において、健康の保持増進や疾病予防の視点を踏まえ、生活を支える看護師の役割や機能について理解を深める。	
到達目標	1. 地域看護の概念や特徴、変遷について、説明できる。 2. 予防の概念および健康の保持増進と疾病予防について、説明できる 3. 看護の対象が暮らす地域の特性と人々の生活の多様性について、説明できる。 4. 地域において看護職に求められる役割や機能について、説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 地域看護学の概念と機能 02. 公衆衛生の意義と考え方（プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション） 03. 地域看護学の歴史とこれからの展望、諸外国の地域看護と日本の現状 04. 地域看護活動 : 地域看護活動の対象 05. 地域看護活動 : 地域看護活動の場 06. 地域看護活動 : 地域看護活動の方法 07. 地域看護活動 : 地域包括ケアシステム 08. 地域看護の活動事例	
その他の授業の工夫	講義を中心とし、グループワークや意見交換等を取り入れる。 学生自身の生活や身近な地域を題材として理解を深める。	
時間外学修	事前学修：次回の講義内容や配布資料、テキスト、その他関連書籍を用いて予習する（7h）。 事後学修：毎回の講義を振り返り学びをまとめる。配布資料やテキスト、その他関連書籍を用いて復習する（15h）。	
評価方法と評価割合	試験：80%（試験の受験資格は、出席が6回以上であること） 提出物：20%（初回の講義内でのオリエンテーション時に説明する内容に取り組む）	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度2（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件	本科目は、地域看護学実習の履修にあたり、単位取得が前提要件である。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野治子：高等学校・支援学校の養護教諭 川南公代：行政の保健師 首藤佐織：行政の保健師 高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	県福祉保健部の医師、保健師
実務経験をいかした教育内容	担当教員が実践してきた保健活動をもとに、講義を行う。県の保健所長の経験のある医師や保健師が講義を行う。	

開講科目名 / Course	基礎看護援助技術演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	石丸 智子	
担当教員名 / Instructor	石丸 智子、徳丸 由布子、篠原 彩、内倉 佑介、堤 恒貴、大矢 七瀬、井上 陽士、外池 桃子、高木 優衣、堀 裕子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	本科目は、学生が看護技術に関する自らの課題に主体的に取り組み、自己研鑽しながら看護技術の定着と向上を図ることを目的としている。日常生活援助技術を中心に学生自身が強化したい看護技術を含む事例課題を選択し、課題に基づいた看護技術展開を繰り返し実施、評価しながら身に付けていく。	
到達目標	1. 看護技術に関する自らの課題について、看護技術を実施できる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<p>授業は原則2コマ続きで実施する</p> <p>01. オリエンテーション、課題事例の決定、活動計画立案</p> <p>02-03. 個人で課題事例について看護過程の展開を検討する</p> <p>04-05. グループワークを行い、課題事例の看護展開を検討する</p> <p>06-07. グループで実技練習を行う</p> <p>08-09. 課題事例の看護技術を展開している場面を撮影する</p> <p>10-11. 撮影した動画を担当教員に提出し、担当教員から指導を受ける</p> <p>12-13. 担当教員から指導を受けた内容を検討し、修正しながら再度実技練習を行う</p> <p>14-15. 看護技術を展開している場面について担当教員と最終確認を行う</p>	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生個人の課題に基づいて、事例課題を選択し、取り組むことができる。 ・ 学生個人で技術展開到達度を設定できる。 ・ 学生個人の計画に合わせて授業時間を活用できる。 ・ 学生の希望に応じて技術展開について教員から指導を受けることができる。 ・ 出席確認はwebを利用する。 ・ 課題事例に関する看護技術展開の映像を各自録画記録する。これにより、技術展開の向上の程度や課題の発見など自己・他者評価を客観的に行うことができる。 	
時間外学修	<p>事前学修：各自が所有するテキストやe-ラーニング（Nursing Skills）などを用いて、課題事例に関連する知識や技術について自己学習する（3h）。</p> <p>事後学修：演習後にその振り返りを行う。必要に応じて各自撮影録画した資料を活用する。（9h）</p> <p>* 課題事例の実施期間は、基礎・成老年実習室を開放する。但し、土曜・日曜は原則として使用できない。</p>	
評価方法と評価割合	<p>評価は演習態度（ワークノートの提出状況および記載内容）50%、最終課題の提出50%で行う。</p> <p>原則100%出席とし、遅刻、欠席は減点対象とする。20分以内の遅れは遅刻とし、超える場合は欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。期限までに課題提出がない場合には単位認定不可とする。</p>	
テキスト	なし	
参考書	なし	
履修する上で必要な要件	なし	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>石丸智子：病院の看護師</p> <p>徳丸由布子：病院の助産師</p> <p>高木優衣：保健師</p> <p>その他、看護系教員8名程度が指導担当：全員が看護師経験を有する。</p>

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	豊かな看護実践力を活かして、看護技術の原理や科学性の理解を促進させる。 対象に対して安全で安楽な技術の展開を考える示唆を与えながら支援する。	

3 年次開講科目

1 学期開講

開講科目名 / Course	環境保健学詳論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名 / Instructor	小嶋 光明、恵谷 玲央	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	本講義では生活の中で遭遇する身近な環境因子による具体的な健康影響を学び、その予防・安全管理について理解する。	
到達目標	1. 健康に影響を与える環境因子を説明できる。 2. 環境因子による健康影響の予防策が説明できる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ	
授業計画	01. オリエンテーション(授業の進め方、課題レポート) 02. 熱中症対策に塩分はなぜ必要か？ 03. MRI検査でなぜ金属物を持ち込めないのか？ 04. ミクロショックでは微量な電流でもなぜ致命的なのか？ 05. 感染症の危機管理に何が必要か？ 06. PM2.5の健康影響をどう考えればよいか?その対策は？ 07. 化学物質中毒死の中で最も多い原因が一酸化炭素中毒である。なぜか？ 08. 社会的な喫煙対策が進まないのはなぜか？ 09. 多くの健康食品の効果はプラシーボ効果で説明できるか？ 10. 予防ワクチンの集団の効果も期待し、個人の副作用リスクを避けるにはどうするか？ * オリエンテーションで1人1課題を与え、2回目以降の講義で順次発表してもらう。	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、そして、より深く理解するために、1人1課題を与え発表してもらうことにしている。	
時間外学修	事前学修:課せられた課題をまとめる(13h)。 事後学修:小テストや配布資料を用いて復習する(6h)。	
評価方法と評価割合	課題発表(30%)および筆記試験(70%) 筆記試験の受験には課題発表が必須である。	
テキスト	講義ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	薬理学	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	吉田 成一	
担当教員名 / Instructor	吉田 成一	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	医療において、薬物療法の重要性は高く、医療現場において、看護師が医薬品を取り扱う機会は多い。取り扱う医薬品に対する理解が不十分であると医療事故の原因になるため、本科目を設定している。各種疾患で使用する医薬品の特徴を理解し、看護師として疾患の薬物療法および医薬品による医療事故の予防に関する知識を修得する。	
到達目標	1. 疾患の治療に医薬品を使用する理由が説明できる。 2. 看護師として医薬品の知識が必要となる理由を説明できる。 3. 各種疾患治療薬の作用機序、副作用などの特性を説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. 消化器治療薬 02. 抗悪性腫瘍薬 03. 鎮痛薬 04. 麻酔薬、不眠症治療薬 05. 抗不安薬、抗うつ薬、統合失調症治療薬 06. 抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、抗認知症薬 07. 抗アレルギー薬、リウマチ治療薬 08. ホルモン製剤、泌尿器疾患治療薬、漢方薬 09. 鎮咳薬、去痰薬、気管支ぜん息治療薬、呼吸促進薬 10. 利尿薬、輸液製剤、解毒薬、貧血治療薬、抗血栓療法薬	
その他の授業の工夫	実際の処方内容を例示し、治療薬の理解を深める。 また、各回の事後学修についてGoogle Classroomを活用し、担当教員が適宜助言を行っている。	
時間外学修	事前学修：提示した処方内容について、対象疾患、副作用、使用するにあたり、注意すべき点(患者指導を含む)をまとめる(4h)。 事後学修：自主学習課題(学習ノートの提出を含む)を用いて復習するとともに、理解できない内容については、次回の講義までに担当教員等に確認する(15h)。 各回講義前に、「1.事前学修」を行い、講義後に、「2.講義内容のまとめ・整理」を行い、さらに提示された「3.事後学修課題」に取り組むこと。これら3項目をとりまとめ、Google Classroom上に提出すること。	
評価方法と評価割合	試験(100%)	
テキスト	わかりやすい薬理学 第2版(ヌーヴェルヒロカワ) 今日の治療薬(南江堂)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	成人看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	佐藤 栄治	
担当教員名 / Instructor	佐藤 栄治、古賀 雄二、水田 恵子、井上 陽士、吉田 嘉子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	急性期から回復期の健康問題をもつ成人を対象（紙上事例）として、アセスメント、健康問題の抽出、個別性と予測性をもって合併症予防と生活の再構築につながる看護計画を立案し、看護実践を評価し、計画の修正を行う看護過程の展開を習得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期・回復期の紙上成人事例患者の情報を収集・分析し、看護問題を明らかにすることができる。 急性期・回復期にある患者の看護問題を解決するための援助計画が立案できる。 急性期・回復期にある患者への合併症予防の視点で看護援助の実施と評価ができる。 急性期・回復期にある患者へ行った看護援助の評価に基づいて援助計画の修正ができる。 グループワークで自己の考えを説明できる。 グループワークで自己の考えを基に議論することができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、6.探究心と創造力	
授業計画	01. ガイダンス、事例展開 : 事例紹介と情報収集 02. 看護実践演習 : 術後全身評価 03-05. 事例展開 : 情報収集、情報の整理、解釈、分析 06. 事例展開 : 情報の整理、解釈、分析（学生カンファレンス） 07. 事例展開 : 情報の整理、解釈、分析について全体に共通する課題やポイントの解説 08. 事例展開 : 統合、看護計画の立案（学生カンファレンス） 09. 事例展開 : 統合、看護計画の立案について全体に共通する課題やポイントの解説、サマリー記載方法オリエンテーション 10-11. 看護実践演習 : ストーマ管理、看護実践演習 : 気管吸引 12-14. 事例展開 : 看護計画の修正、サマリーについて全体に共通する課題やポイントの解説 15. 事例展開 : サマリー作成、まとめ・記録最終提出	
その他の授業の工夫	臨地実習（成人看護学実習）を想定した事例を用いた看護展開を行います。臨床現場の状況に近い模擬電子カルテからの情報収集や、動画教材により事例の具体的な理解を深めます。事例の展開にあわせて関連する看護技術演習を行い、事例への理解と看護計画の具体化を促します。また、臨地実習を想定した学生カンファレンスを行い、カンファレンステーマの抽出方法、カンファレンスの進め方についても理解を深め、看護チームとして臨床課題に取り組む姿勢を養います。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について配布資料や教科書を用いて予習する（12h）。 事後学修：配布資料を用いて復習する（12h）。	
評価方法と評価割合	レポート：60%、小レポート：40%	
テキスト	成人看護援助論、 、 で使用するテキスト	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	必要に応じ、ハンドアウトを提示する。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	古賀雄二：病院の看護師 佐藤栄治：病院の看護師 水田恵子：病院の看護師 井上陽士：病院の看護師 吉田嘉子：病院の看護師

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	対象者への看護実践の経験を活かし、学生の興味関心が高まるように看護と関連づけた説明を行う。	

開講科目名 / Course	老年看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、堀 裕子、中釜 英里佳	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	本科目の目的は、身体的、心理的、社会的側面における加齢変化や認知機能障害をもつ模擬高齢者の情報をアセスメントし、健康課題を検討しながら看護援助を実践することである。また、事例に関する議論や高齢者疑似体験、技術演習を通じて、看護援助の創意工夫や看護実践力の向上を目指す。さらに、社会資源や多職種連携を考慮した看護援助の方法についても検討し、高齢者に対するケア実践の理解を深める。	
到達目標	1. 高齢者事例の情報をアセスメントし健康課題が説明できる。 2. 高齢者事例に必要な看護援助が安全に実施できる。 3. 高齢者事例に必要な社会資源と多職種連携について述べるができる。 4. グループ活動内で協働ができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 演習ガイダンス、高齢者の身体・認知機能のアセスメントについて復習、課題の情報確認 02. 実践演習オリエンテーション、実践演習に関連する知識の確認 03. 課題事例について情報のアセスメント 04. 実践演習（高齢者疑似体験、創傷ケア、経鼻経管栄養） 05. 課題事例について情報のアセスメント 06. 実践演習（高齢者疑似体験、創傷ケア、経鼻経管栄養） 07. 課題事例について情報のアセスメント：全体討議、全体アセスメントについて 08. 実践演習（高齢者疑似体験、創傷ケア、経鼻経管栄養） 09. 課題事例の全体アセスメント 10. 課題事例の全体アセスメント：全体討議、看護援助の評価と修正、経過記録について 社会資源と多職種連携（施設訪問）オリエンテーション 11. 社会資源と多職種連携（施設訪問） 12. 社会資源と多職種連携（施設訪問） 13. 社会資源と多職種連携（施設訪問） 14. 社会資源と多職種連携：講義、全体討議 15. 高齢者の看護援助まとめ	
その他の授業の工夫	学生間でのグループディスカッションによってアセスメントや技術の習得を深めます。	
時間外学修	事前学修：各授業範囲の内容はテキストで予習をする（2h）。技術練習の事前学習をする（2h）。 事後学修：課題レポートをまとめる（8h）。	
評価方法と評価割合	実践演習の実技・参加姿勢及びレポート（40%） 課題事例に関する個人レポート（50%） 全体討議、施設訪問参加姿勢（10%）	
テキスト	ナーシング・グラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 老年看護学 高齢者看護の実践（メディカ出版） 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件	老年看護学概論、老年看護学援助論、 を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	小野美喜：病院の看護師 堀裕子：病院の看護師 中釜英里佳：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	病院での老年看護経験を活かし、具体的な症例を通じて、高齢者特有の疾患やケア方法、多職種連携の重要性を教育する。実務に基づく教育を通じて、学生が自信を持って実践で直面する課題に対応できるための支援を行う。	

開講科目名 / Course	小児看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	草野 淳子	
担当教員名 / Instructor	草野 淳子、足立 綾、堤 恒貴	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	小児の発達過程の特質を理解するための主要理論に基づき、小児の行動を多面的にとらえ、発達段階に応じた日常生活の援助方法と保育技術を習得する。また、小児の病態について理解し、健康障害を持つ小児とその家族への看護について深く学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の各期における成長・発達の特徴を説明できる。 2. 小児とその家族や環境（状況）による看護について説明できる。 3. 小児の特徴的な疾病の経過と看護について説明できる。 4. 障害のある子どもの特徴と家族への看護を説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 子どもの事故 02. 病気をもつ小児と家族の看護 03. 小児と家族を取り巻く社会と福祉施策 04. 小児の状況（環境）による看護の特徴（入院時の看護、外来看護） 05. 小児在宅療養児の支援・災害時の小児と家族の看護 06. 小児における疾病の経過と看護（急性期、慢性期、周手術期） 07. 障害のある小児の理解と看護（障害の分類、重症児、肢体不自由など） 08. 障害のある小児の理解と看護（障害児の栄養、摂食障害と看護） 09. 親子関係に問題のある場合の看護（育児不安、児童虐待） 10. 小児の感染症と予防接種 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の疾患とその特徴については講義の前に個人で調べ学習をするようにしている。 ・小児のイメージがない学生もいるため、視聴覚教材を活用してイメージできるように工夫している。 	
時間外学修	<p>講義内容はシラバスで示しているため、予習・復習を行う。</p> <p>事前学修は教科書を用いて（10h）。</p> <p>事後学修は教科書と講義資料を用いて（10h）。</p>	
評価方法と評価割合	筆記試験100%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1,2]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	草野淳子：産科病棟助産師、保健所保健師 足立綾：病院小児科看護師 堤恒貴：病院小児科看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	産科病棟（新生児看護、出産後の母子愛着形成）、保健所保健師（未熟児訪問、乳幼児健診、母子の自主グループ活動）、病院小児科（小児に特有な疾患を持つ小児の看護、外来看護）の経験を踏まえて、小児の発達過程の特質の理解を促す。また、小児の行動を多面的にとらえ、発達段階に応じた日常生活の援助方法と健康障害がある小児の疾患と援助方法を教授する。	

開講科目名 / Course	小児看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	草野 淳子	
担当教員名 / Instructor	草野 淳子、足立 綾、堤 恒貴	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	小児看護学援助論 では小児の発達過程の特質を理解するための主要理論に基づき、小児の行動を多面的にとらえ、発達段階に応じた日常生活の援助方法と保育技術を習得した。小児看護援助論で習得した内容に基づいて小児の病態について理解し、小児の健康障害を持つ小児とその家族への看護について深く学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の各期における成長・発達の特徴を説明できる。 2. 小児とその家族や環境（状況）による看護について説明できる。 3. 小児の特徴的な疾病の経過と看護について説明できる。 4. 障害のある子どもの特徴と家族への看護を説明できる。 5. 小児領域の特徴的な疾病と病態・治療について説明できる。 6. 小児領域の特徴的な疾病の看護を説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 小児の病態と看護1（不機嫌・痛み・呼吸困難・チアノーゼ） 02. 小児の病態と看護2（発熱・けいれん・ショック） 03. 小児の病態と看護3（電解質異常・下痢・嘔吐・脱水・便秘） 04. 小児の呼吸器系疾患と看護 05. 小児の免疫・内分泌・アレルギー疾患と看護 06. 小児の循環器系疾患・運動器疾患と看護 07. 小児の消化器疾患と看護 08. 小児の血液・造血器系疾患と看護 09. 小児の悪性腫瘍と看護 10. 小児の腎・泌尿器疾患と看護 	
その他の授業の工夫	小児の疾患とその特徴については講義の前に個人で調べ学習をするようにしている。 小児のイメージがない学生もいるため、視聴覚教材を活用してイメージできるように工夫している。	
時間外学修	事前学修：小児の疾患とその特徴については講義の前に個人で調べ学習をする（10h）。 事後学修：教科書と授業資料を用いて復習をする（10h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験100%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1,2]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	草野淳子：産科病棟助産師、保健所保健師 足立綾：病院小児科看護師 堤恒貴：病院小児科看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

実務経験をいかした教育内容	産科病棟（新生児看護、出産後の母子愛着形成）、保健所保健師（未熟児訪問、乳幼児健診、母子の自主グループ活動）、病院小児科（小児に特有な疾患を持つ小児の看護、外来看護）の経験を踏まえて、小児の発達過程の特質と症状、疾患の理解を促す。また、発達段階に応じた健康障害がある小児の疾患と援助方法を教授する。
---------------	---

開講科目名 / Course	小児看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	草野 淳子	
担当教員名 / Instructor	草野 淳子、足立 綾、堤 恒貴	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	小児の健康障害を保健・医療・教育など総合的な観点から捉え、紙上事例を通して看護上の問題を抽出し必要な看護ケアを行う。また、看護過程を展開して紙上事例を展開する。また、小児看護における主な看護援助の基本知識と技術を習得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の健康障害に対して、小児と家族への看護を説明できる。 2. 小児の紙上事例について看護過程を展開できる。 3. 小児看護で用いる看護技術の理論を説明できる。 4. 小児看護で用いる看護技術の方法を説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 小児の看護過程 02. 小児事例の看護過程の展開（個人ワーク・グループワーク） 03. 小児と家族とのコミュニケーション 04. 小児の薬物療法と与薬 05. 小児の救急法（講義） 06. 小児のフィジカルアセスメント（講義） 07. 小児看護技術演習（1）バイタルサイン測定・救急法等 08. 小児看護技術演習（2）吸引、経管栄養等 09. 小児看護技術演習（3）静脈点滴固定法等 10. 急性期（川崎病）の事例検討 11. 慢性期（糖尿病）の小児の事例検討 12. 手術を必要とする小児の事例検討 13. 脳性麻痺児の事例検討 14. 小児看護学実習オリエンテーション・グループワーク 15. 病院実習ガイダンス・保育所実習オリエンテーション 	
その他の授業の工夫	前半は講義形式が中心である。後半は、技術演習を行い、アクティブラーニングを基本とする。高機能シミュレータやモデル人形などを多用して技術を実践的に指導する。視聴覚教材を活用して各技術項目の内容をイメージできるように工夫している。	
時間外学修	<p>事前学修：技術演習のレポート作成（3h）。</p> <p>事前学修：看護過程は個人ワークとグループワークによる課題提出（6h）。</p> <p>事後学修：課題の不足部分の学習、看護過程・小児看護技術の学習（3h）。</p> <p>技術習得については、実習室での練習を支援するので、教員への申し出により可能である。</p>	
評価方法と評価割合	技術演習のレポート（40%）と演習への積極的参加状況（10%）、看護過程のレポート（40%）と発表会への積極的参加状況（10%）を評価する。	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1,2]（医学書院）</p> <p>写真でわかる小児看護技術アドバンス（インターメディカ）</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>草野淳子：産科病棟助産師、保健所保健師</p> <p>足立綾：病院小児科病棟看護師</p> <p>堤恒貴：病院小児科病棟看護師</p>

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	産科病棟(新生児看護、母子愛着形成)、保健所保健師(乳幼児健診、未熟児訪問)、病院小児科(病気を持つ子どもの病態アセスメント、看護過程、技術)の経験を踏まえて、学生が臨地実習で実践できるように、主な看護援助の基本知識と技術を教授する。	

開講科目名 / Course	母性看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	濱 耕子	
担当教員名 / Instructor	徳丸 由布子、永松 いずみ、濱 耕子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	分娩期、産褥期、新生児の生理と異常および心理・社会的特徴とその看護について学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期の異常と看護について述べるができる。 2. 産褥期・新生児の生理的变化について述べるができる。 3. 褥婦と新生児の状態をアセスメントすることができる。 4. 褥婦・新生児の正常や異常経過およびその看護について述べるができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. ガイダンス、分娩期出血、産科処置等 02. 産褥期の経過 03. 産褥の異常と看護 04. 褥婦のアセスメント 05. 褥婦の看護 (1) 褥婦と家族の看護 06. 褥婦の看護 (2) 施設退院後の看護 07. 新生児の生理 08. 帝王切開を受ける産褥婦の看護 09. 新生児のアセスメント・看護 10. 新生児の異常と看護 	
その他の授業の工夫	事前学習 ノート在完成させながら知識の定着を図る。	
時間外学修	事前学修：系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論のテキストに目を通して講義に臨む（9h）。 事後学修：テキストや配布資料を用いて復習する（10h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験（分娩期10%、産褥期60%、新生児期30%）から評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論（医学書院） 病気がみえる vol.10 産科（メディックメディア） 講義の中で適宜、資料を配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件	母性看護学概論、母性看護援助論 を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	濱耕子：病院の助産師 永松いずみ：病院の助産師 徳丸由布子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。	

開講科目名 / Course	母性看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	濱 耕子	
担当教員名 / Instructor	徳丸 由布子、永松 いずみ、濱 耕子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	<p>妊娠期と産褥期、新生児期の正常・異常の看護について、アクティブラーニングを通して学習を深め、看護実践に必要な知識を養う。</p> <p>ウェルネスの視点から周産期における母子とその家族の全体像を把握し、対象者の看護過程を通して必要な援助ができる基礎能力を養う。</p> <p>母子の特徴を理解して、母性看護に必要な看護技術を修得する。また、演習体験を通して、看護を受ける対象者の状況や心理を推察する。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期、産褥期、新生児の生理や経過、その異常と看護について述べるができる。 2. 妊娠期、産褥期、新生児期各期におけるアセスメントの枠組みに基づいたアセスメントから看護過程を展開することができる。 3. 周産期に必要な母性看護技術を実践することができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. ガイダンス、オリエンテーション（看護過程事例演習・技術演習） 02. 妊娠期の生理と看護 03. 母性看護過程：講義 04. 妊娠期の異常と看護 05. 母性看護過程：講義・事例提示 06. 分娩期・産褥期の看護 07. 母性看護過程：講義 08. 母性看護技術（1）妊婦計測、新生児計測 09. 母性看護技術（2）沐浴 10. 母性看護過程：事例検討・情報収集・アセスメント/グループ学習 11. 母性看護過程：事例検討・看護診断・看護計画/グループ学習 12. 母性看護過程：講義 13. 新生児期の看護 14. 看護過程事例発表会(1) 15. 看護過程事例発表会(2) 	
その他の授業の工夫	妊娠期、産褥期、新生児期の正常・異常の看護は、アクティブラーニングにより実施する。看護過程の演習は、各グループで実施し、お互いに意見交換することで学習内容を深める。	
時間外学修	母性看護援助論で学んだ講義内容やテキストに目を通し、知識を整理しておく（4h）。母性看護技術演習は学習課題を提示するので、事前学修をし、演習に臨む（2h）。看護過程のグループ学習は、必要に応じて学習内容を深める（6h）。	
評価方法と評価割合	妊娠期の生理と看護、妊娠期の異常と看護、分娩期・産褥期の看護、新生児期の看護（20%）、母性看護技術（30%）、母性看護過程（50%）とする。評価は別途指示した評価表を用いて行う。	
テキスト	ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図（医学書院） 講義の中で適宜、資料を配布する。	
参考書	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程（医歯薬出版株式会社）	
履修する上で必要な要件	母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論 を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	濱耕子：病院の助産師 永松いずみ：病院の助産師 徳丸由布子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。	

開講科目名 / Course	精神看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	後藤 成人	
担当教員名 / Instructor	後藤 成人、杉本 圭以子、外池 桃子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	精神看護を実践するために必要になる知識、理論、技法について学ぶ。主な精神症状、精神疾患、入院環境及び地域生活支援の知識を整理しつつ、患者 - 看護師関係を基盤とした看護介入の方法を具体的に学習する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害を持つ人に必要な看護を疾患、生活、ストレングスの観点から説明できる。 2. 精神科病院の治療環境の特徴と看護師の役割について安全・人権の視点を含めて説明できる。 3. 精神看護におけるセルフケアのアセスメントの視点を説明できる。 4. 精神障害を持つ人の地域生活支援の実際について説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 看護援助の展開 オレム・アンダーウッズのセルフケア理論 02. 精神疾患をもつ人への看護（1）安全管理、権利擁護、入院形態 03. 精神疾患をもつ人への看護（2）統合失調症をもつ人への看護 04. 精神疾患をもつ人への看護（3）双極性障害、うつ病をもつ人への看護 05. 精神疾患をもつ人への看護（4）アルコール依存症、摂食障害をもつ人への看護 06. 精神疾患をもつ人への看護（5）発達障害、認知症、身体疾患を合併している人への看護 07. 地域における生活の支援（1）社会資源の活用、多職種連携、退院支援、訪問看護 08. 地域における生活の支援（2）就労支援、家族への支援、災害時の精神看護、リエゾン精神看護 	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、より深く理解するために、アクティブラーニングを組み込む（理解を深めるため、視聴覚教材を多用する。知識の定着を図るため、小テストを実施する。	
時間外学修	<p>事前学修：次回の学習内容について配布資料や教科書を用いて予習する（10h）。</p> <p>事後学修：小テストや配布資料を用いて復習し、演習や実習で活かせるように整理する（12h）。</p>	
評価方法と評価割合	筆記試験80%、小テスト10%、提出物10% *出席を前提としているため欠席の場合は減点の対象とする。	
テキスト	精神看護学2 精神障害をもつ人への看護（メヂカルフレンド社）	
参考書	<p>系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]（医学書院）</p> <p>精神看護学 臨床で活かすケア こころ・からだ・かわりのプラクティス（南江堂）</p> <p>看護実践のための根拠がわかる精神看護技術（メヂカルフレンド社）</p>	
履修する上で必要な要件	精神看護学概論、精神看護援助論 を履修済みであること	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>後藤成人：精神科病院での看護師としての経験</p> <p>外池桃子：精神科病院での看護師としての経験</p> <p>杉本圭以子：精神科病院、精神科クリニックでの看護師としての経験</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	精神科での勤務経験をいかし、イメージしにくい精神科の治療環境や、看護の対象者についてわかりやすく伝える。	

開講科目名 / Course	精神看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	杉本 圭以子	
担当教員名 / Instructor	後藤 成人、杉本 圭以子、外池 桃子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	精神疾患を持つ人の全体的な理解と看護過程の展開の具体的方法、精神保健医療福祉の現状を学ぶ。	
到達目標	1. オレム・アンダーウッド理論とストレングスモデルを活用し、精神科での看護過程の展開ができる。 2. 精神保健医療福祉の現状について述べるができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性	
授業計画	01. 精神看護学における看護過程（1）：紙上事例1の看護過程の展開（アセスメント） 02. 精神看護学における看護過程（2）：紙上事例1の看護過程の展開（ケアプラン） 03. 精神看護学における看護過程（3）：紙上事例1の看護過程の展開（振り返り） 04. 精神看護学における看護過程（4）：紙上事例2の看護過程の展開（アセスメント） 05. 精神看護学における看護過程（5）：紙上事例2の看護過程の展開（ケアプラン） 06. 精神看護学における看護過程（6）：紙上事例2の看護過程の展開（振り返り） 07. 精神科で活用できる看護技術（1）：セルフマネジメント、ストレングスモデル、プロセスレコード 08. 精神科で活用できる看護技術（2）：フィジカルアセスメントの方法と実践 09. 症状別看護実践（1）：臨床で遭遇しやすい症状への看護ケアの事例演習（水中毒、自殺念慮など） 10. 症状別看護実践（2）：臨床で遭遇しやすい症状への看護ケアの事例演習（依存症など） 11. 精神保健医療福祉を取り巻く現状（1）：精神科病院における看護の実際 12. 精神保健医療福祉を取り巻く現状（2）：障害福祉サービスの活動の実際 13-15. 障害福祉サービス事業所の見学と説明 外部講師の都合により授業の順序を変更する可能性がある。	
その他の授業の工夫	紙上事例の看護過程の展開や症状別看護実践では、単なるレポートや講義で終了するのではなく、学生同士がお互いに考えた事、調べた事をディスカッションできるよう、適宜アクティブラーニングを取り入れながら行う。また、外部講師の講演により、精神保健医療福祉の現状をより現実的に学ぶことができるようにしている。	
時間外学修	精神看護援助論、 で学んだ精神看護における看護過程の展開について事前に復習する（3h）。紙上事例の看護過程の展開について、事前学修や演習の時間内で終了しなかったものは時間外学修となる場合がある（12h）。	
評価方法と評価割合	出席は原則100%とする。 紙上事例の看護過程の展開のうち、個人で行うレポートの内容・・・・・・・・・・60% 看護過程の展開と症状別看護実践におけるディスカッションへの参加状況・・・30% 外部講師の講義や事業所見学時の態度・・・・・・・・・・・・・・・・・・10%	
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論 / 精神保健（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護（メヂカルフレンド社）	
参考書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]（医学書院） 精神看護学 臨床で活かすケア ころ・からだ・かかわりのプラクティス（南江堂） 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術（メヂカルフレンド社）	
履修する上で必要な要件	精神看護学概論、精神看護援助論、 を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	杉本圭以子：精神科病院、精神科クリニックでの看護師としての経験 後藤成人：精神科病院での看護師としての経験 外池桃子：精神科病院での看護師としての経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	【外部講師】 精神科病院の看護師としての経験 精神科病院の管理職者としての経験 精神障害者を地域で支援する福祉施設の職員としての経験 精神障害をもつ当事者としての体験
実務経験をいかした教育内容	上記の勤務経験を活かし、精神障害を有する人々への具体的な看護過程の展開や看護ケアの方法、支援の在り方などについて伝える。	

開講科目名 / Course	在宅看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 章裕	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、矢野 亜紀子、大矢 七瀬	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	在宅看護学概論では、在宅看護の基本的な考え方と援助方法を学ぶとともに、在宅療養者とその家族の生活や価値観を踏まえて支援を考える力を育成する。そのために、法令・制度・社会資源の概要を理解し、具体的な事例を通して制度の活用方法を検討する。さらに、多職種・地域連携や訪問看護ステーションのマネジメントを通して、在宅看護における看護師の役割を自分の将来像と結び付けて考える。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の基本的な考え方と特徴、援助方法の概要を、自分の言葉で説明できる。 2. 在宅療養者とその家族の生活背景やライフステージを踏まえた援助の視点を説明できる。 3. 在宅看護に関わる主要な法令・制度・社会資源について、その目的と対象を事例に沿って説明できる。 4. 多職種・地域連携の中で訪問看護師が担う役割を、具体的な事例を用いて説明できる。 5. 在宅看護の場で想定されるリスクや災害時の課題について、看護師としてどのように備え・対応するかを述べることができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 在宅看護の目的と特徴、対象者 02. 在宅看護に関わる制度の基本 03. 在宅看護における制度の活用 04. 在宅看護における訪問看護・地域連携 05. 療養生活を支える多職種連携における看護師の役割 06. 在宅看護における生活援助の方法 07. 在宅看護・訪問看護ステーションにおけるマネジメント 08. 在宅看護における看護展開の方法 	
その他の授業の工夫	事前学習と小テスト、ケースを用いたグループワークや意見交換を組み合わせ、学生が自分の言葉で制度や多職種連携を考えるアクティブラーニング型の授業とする。	
時間外学修	<p>事前学修：次回の講義で扱う制度や事例について、配布資料や教科書、指定動画を用いて予習し、小テストに備える（8h）</p> <p>事後学修：授業で扱ったケースやノートを整理して内容を振り返り、ミニレポートおよび筆記試験に向けて知識と考え方を整理する（14h）。</p>	
評価方法と評価割合	出席時間数の3分の2以上の出席を評価要件とする。 平常点：10%（発言等の積極性）、レポート・提出物（40%）、筆記試験（50%）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1]（医学書院）	
参考書	<p>系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2]（医学書院）</p> <p>強みと弱みからみた在宅看護過程（医学書院）</p> <p>ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開（ふくろう出版）</p>	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	福田広美：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 荒木章裕：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 矢野亜紀子：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 大矢七瀬：病院での勤務および地域での母子への支援実務経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして在宅看護学の知識や技術について教育する。	

開講科目名 / Course	地域生活支援論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	首藤 佐織	
担当教員名 / Instructor	小野 治子、川南 公代、首藤 佐織、高木 優衣	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	多様な場で生活するあらゆるライフステージや健康レベルにある人々(個人・家族・集団)の健康や生活の質を向上させるために、看護職として必要な視点と地域看護活動を学ぶことを目的とする。地域特性と個人や家族、地域が抱える健康問題とのつながりを考え、健康増進や疾病予防を行うための科学的根拠に基づいた支援について理解する。	
到達目標	1. 地域看護活動における個別支援・集団支援の意義と方法について説明できる。 2. 各ライフステージ(親子・成人・高齢者等)の特性とあらゆる人々を対象とした地域看護活動について説明できる。 3. 既存の資料を活用して地域特性と健康問題(課題)の関連について説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 地域看護活動に必要な視点、看護職として地域を知るとは 02. 親子保健活動 03. 成人保健活動 04. 高齢者保健活動 05. 難病保健活動、障がい者(児)保健活動 06. 精神保健活動、感染症対策 07. 実習地の概要把握 (グループワーク) 08. 実習地の概要把握 (グループワーク・発表)	
その他の授業の工夫	学生が主体的に考え、発言できる力を養うために、グループワークや意見交換等のアクティブラーニングを実施する。さらに当該授業終了後、学びを振り返ることで、自分の考えをまとめたり深めたりすることを目的にミニレポートを課す。	
時間外学修	事前学修：事前に提示された課題に関する調べ学習(15h)。事前に調べた内容を講義で深掘りするので、準備して講義に臨む。 事後学修：ミニレポートの提出および配布資料を用いた復習(7h)。	
評価方法と評価割合	定期試験：70%(試験の受験資格は、出席が6回以上であること) 提出物：30%(ミニレポート、グループワークの成果物を含み、その内容も評価に含む)	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度2(医学書院)	
参考書	国民衛生の動向(厚生労働統計協会)	
履修する上で必要な要件	本科目は、地域看護学実習の履修にあたり、単位取得が前提条件である。	
その他	講義時間内でPCを用いて検索を行う場合がある。その際は別途指示する。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	首藤佐織：行政の保健師 川南公代：行政の保健師 小野治子：高等学校・支援学校の養護教諭 高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	各担当教員が実践してきた豊富な保健活動をもとに、具体例を示し学生がイメージしやすいように工夫する。	

開講科目名 / Course	予防的家庭訪問実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、福田 広美、佐藤 愛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	20	
科目の目的と概要	<p><実習目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に住む高齢者の生活・人生を長期的な視点で捉えることができる。 2. 地域に住む高齢者の健康と生活を維持するための支援について考えることができる。 3. 高齢者の在宅生活を支えるためのシステムや地域のあり方（自治体の取り組み等を含む）を考えることができる。 4. 世代や学年を超えた人とコミュニケーションをとることができる。 <p><3年次実習目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者のこれまでの健康や生活に関するアセスメント結果に基づいて、必要な支援を考え実施できる。 2. チームのサブリーダーとして、その方法を他学年と共有し継続した支援を行うことができる。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者が望む地域での生活について、説明することができる。 2. 協力者が望む地域での生活を実現するために必要なことを述べることができる。 3. 協力者に必要な援助の方法をチームメンバーと話し合うことができる。 4. チームメンバーで相互協力しながら協力者への支援が継続できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性	
授業計画	<p>実習期間：2026年4月～2027年2月</p> <p>実習場所：富士見が丘団地・下横瀬地区、野津原地区の70歳以上の協力者のご家庭等</p> <p>実習方法：学年の到達目標を考慮し、協力者の家庭を訪問する。学生は1～4年生の縦割り編成されたチームのメンバーとともに、年間4回以上訪問する。</p>	
その他の授業の工夫	<p>1～4年生で構成されるチームで複数回の継続的な訪問を行い、学年間の学びの共有と協働的学修を促す。</p> <p>訪問計画の調整が必要な場合には、看護研究交流センターや担当教員に相談しながら進める。</p> <p>2月には訪問活動を振り返り、協力者の状況や活動内容、目標の達成度について共有し、学びを整理する。</p>	
時間外学修	<p>事前学修：カンファレンス、予習（1.5h）</p> <p>事後学修：カンファレンス、記録作成（2.5h）</p>	
評価方法と評価割合	<p>年4回以上訪問を行い、以下の～により総合的に評価する。</p> <p>訪問後のレポート・・・60%</p> <p>実習内容 / 実習態度・・・30%</p> <p>最終レポート・・・10%</p>	
テキスト	必要時、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：病院における看護活動 佐藤愛：病院・地域における看護活動 福田広美：病院における看護活動
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	学生の相談に応じ、健康な在宅生活に必要な条件や健康教育の方法について助言する。	

開講科目名 / Course	臨床看護援助技術演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	石丸 智子	
担当教員名 / Instructor	石丸 智子、徳丸 由布子、篠原 彩、内倉 佑介、堤 恒貴、大矢 七瀬、井上 陽士、外池 桃子、高木 優衣、堀 裕子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	本演習の目的は、学生が看護技術に関する自らの課題に主体的に取り組み、自己研鑽しながら、看護技術の定着と向上を図ることである。特に救命救急処置技術に関連した実技講習や課題事例に取り組む。	
到達目標	1. 救命救急処置技術に関する技術を実施できる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<p>授業は原則2コマ続きで実施する</p> <p>01. オリエンテーション、課題事例について個人ワークを行う</p> <p>02-03. 課題事例の看護展開をグループで検討する</p> <p>04-05. 看護展開場面を録画し、動画を担当教員へ提出する。指導をうけ修正する。</p> <p>06-07. 検討した内容をグループごとに発表し、質疑応答を行う</p> <p>08-09. 一次救命処置（基礎講習）</p> <p>10-11. 止血・包帯法（基礎講習）</p> <p>12-13. 急変時対応で必要とされる診療補助技術（吸引、静脈路確保）の実技練習</p> <p>14-15. 急変時対応で必要とされる診療補助技術（12誘導心電図、気管内挿管の補助）の実技練習</p>	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎講習と課題事例を用いたグループ演習で構成される。 ・基礎講習では、日本赤十字社の一次救命処置、止血・包帯法を学び、病院内だけでなく、普段の生活においても緊急時に必要な救急ケアが提供できるように学習する。 ・事例を用いた演習では、急変時の異常に早期に気づくことと、そこからの対応について、グループで検討・実践・発表・質疑応答を行う。 ・e-ラーニングシステム「Nursing Skills」で救急救命処置に関する9課題について、「テスト」を100%正解になるまで取り組み、救急救命処置技術の基本的な知識を習得する。 	
時間外学修	<p>事前学修：看護技術に関するe-ラーニング（Nursing Skills）及び課題事例について予習する（6h）。</p> <p>事後学修：課題事例*については、グループワークやシミュレータ（SCENARIO）等を用いて、復習する（6h）。</p> <p>*課題事例の実施期間は、基礎・成老年実習室を開放する。但し、土曜・日曜は原則として使用できない。</p>	
評価方法と評価割合	<p>評価は、基礎講習の修了40%、Nursing Skillsのテスト10%、課題事例の提出40%、演習態度 10%で行う。</p> <p>演習態度は基礎講習やグループワーク、発表会での参加度を評価する。また、原則100%出席とし、遅刻、欠席は減点対象とする。20分以内の遅れは遅刻とし、超える場合は欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。期限までに課題提出がない場合には単位認定不可とする。</p>	
テキスト	なし	
参考書	なし	
履修する上で必要な要件	なし	
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	石丸智子：病院の看護師 徳丸由布子：病院の助産師 高木優衣：保健師 その他、看護系教員8名程度が指導担当：全員が看護師経験を有する。
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	日本赤十字社救急法指導員：救急法の指導資格を有する。
実務経験をいかした教育内容	豊かな看護実践力を活かして、看護技術の原理や科学性の理解を促進させる。 対象者の急変時の看護技術の展開を考える示唆を与えながら支援する。	

開講科目名 / Course	教育方法論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	麻生 良太	
担当教員名 / Instructor	品川 佳満、麻生 良太	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	教師による指示や発問、それに対する子どもの考察、話し合い活動、質問行動、説明、新たな課題の発見といった教授過程や理論の実際を概説するとともに、情報化社会に対応した教育内容や方法の実際焦点をあて、各種情報機器の活用について紹介する（情報モラルに関する内容を含む）。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教室で展開される教授過程（教師による発問から子どもによる新たな課題の発見まで）の目的や意味について説明することができる。 2. 情報機器等を活用して教材を作成することができる。 3. 児童生徒が情報機器等を活用する際に身につけるべき、情報社会における正しい判断や望ましい態度について、説明することができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、4.連携協働・リーダーシップ、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 教授学習の理論(1) プログラム学習、完全習得学習、問題解決学習 02. 教授学習の理論(2) 総合的な学習（プロジェクト学習）、協同学習 03. 学ぶ側から教える側へ(1) 模擬授業の計画 04. 学ぶ側から教える側へ(2) 模擬授業の実施 05. 学ぶ側から教える側へ(3) 授業分析の実際 06. 実践的な専門家としての教師の成長 07. 学校教育において利活用されるICT機器及び情報モラルについて 08. 学校において取り扱われるデータの分析について 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドアウトを配布し、最新の教育事情に関する話題提供も行う。 ・受講者が話し合う機会を提供する。 ・指導案を書き、模擬授業を行う。 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画に基づき、授業開始前に資料などに目を通すこと（8h）。 ・授業終了後、講義中に提示された資料を整理し、復習をおこない、生徒指導における基本的な概念について自分なりの理解を構築する（10h）。 ・期末レポートの作成（4h）。 	
評価方法と評価割合	ショートレポート（50%）及び定期試験（50%）。	
テキスト	必要に応じてハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	特になし。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	特別支援教育論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	古賀 精治	
担当教員名 / Instructor	古賀 精治	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室だけでなく、通常の学級にも在籍する様々な障害（発達障害や軽度知的障害など）のある幼児、児童及び生徒に関し、学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対応するために必要な知識や支援方法について学ぶ。	
到達目標	1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を説明できる。 2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する特別の教育課程や支援の方法を説明できる。 3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 特別支援教育に関する制度 02. 発達障害等のある幼児児童生徒の理解 03. 発達障害等のある幼児児童生徒に対する支援方法 04. 病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難の理解と支援 05. 通級による指導と自立活動 06. 個別の指導計画と個別の教育支援計画 07. 個別の指導計画と個別の教育支援計画 08. 貧困等の問題により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解と対応	
その他の授業の工夫	・ハンドアウトを配布し、最新の教育事情に関する話題提供を行う。 ・受講生が話し合う機会を提供する。	
時間外学修	・授業計画に基づき、授業開始前に資料などに目を通すこと（8h）。 ・授業終了後、講義中に提示された資料を整理し、復習をおこない、生徒指導における基本的な概念について自分なりの理解を構築する（14h）。	
評価方法と評価割合	試験（各授業における小レポートまたは小テストを含む）70% 平常点（発言内容等）30%	
テキスト	必要に応じてハンドアウトを配布する。	
参考書	「新訂 障害児・障害者心理学特論」（田中新正・古賀精治著、放送大学教育振興会） 「小学校学習指導要領（平成29年告示）」文部科学省 「中学校学習指導要領（平成29年告示）」文部科学省	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	養護概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	小野 治子	
担当教員名 / Instructor	小野 治子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	養護概論 で学んだ内容をもとに、具体的な養護活動の方法について学ぶ。子どもの健康課題解決に向けた養護教諭の役割や健康相談活動の支援のあり方について理解し、養護教諭が行う支援活動を実践できるスキルを養う。	
到達目標	1. 子どもを取り巻く健康課題の実態と課題について述べるができる。 2. 健康課題解決に向けた養護教諭の役割と養護活動を説明することができる。 3. これからの養護教諭に求められる資質・能力について自分の意見を述べるができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 子どもの健康課題の変遷 02. 現代の子どもの課題の実態 03. 養護活動 : 健康課題の把握(個別) 04. 養護活動 : 健康課題の把握(集団) 05. 養護活動 : 健康相談活動・保健教育活動 06. 養護活動 : 保健組織活動(地域との連携) 07. 養護活動 : 学校における健康危機管理 08. 養護教諭活動の実際	
その他の授業の工夫	学生が主体的に考え、発言できる力を養うため、グループワークや発表、意見交換等のアクティブラーニングを実施する。授業中、適宜ハンドアウトを配布し、文部科学省から出されている最新の情報等を提供する。	
時間外学修	事前学修：事前課題を別途指定する。その課題を事前に学習する(15h)。 事後学修：配布資料やディスカッションを踏まえて復習する(7h)。	
評価方法と評価割合	定期試験：60%、平常点：10%(グループワークにおける貢献度、発表等の積極性)、各種提出物：30%(提出物の内容も評価に含む)	
テキスト	新養護概説<第12版>(少年写真新聞社)	
参考書	新改定 学校保健実務必携<第5次改定版>(第一法規)	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野治子：高等学校、特別支援学校の養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	小学校、中学校、高等学校の養護教諭
実務経験をいかした教育内容	本科目は、小学校、中学校、高等学校および支援学校で養護教諭として実務経験のある教員が講義を行う。	

開講科目名 / Course	道徳、総合的な学習及び特別活動	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	鈴木 篤	
担当教員名 / Instructor	鈴木 篤	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	学校教育の具体的場面を取り上げながら、道徳教育と特別活動についての知識と理解を深めることを目的とする。	
到達目標	1. 道徳教育の特質とその方法について説明することができる。 2. 特別活動の特質とその方法について説明することができる。 3. 総合的な学習の時間の特質とその方法について説明することができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 道徳教育の目標と内容 02. 現代社会と道徳 03. 道徳性の発達 04. 道徳教育の方法と評価 05. 特別活動の目標 06. 特別活動の内容 07. 特別活動の指導方法と評価 08. 総合的な学習の時間の目標	
その他の授業の工夫	・ハンドアウトを配布し、最新の教育事情に関する話題提供を行う。 ・具体的な教育場面をもとに、受講者が話し合う機会を設ける。	
時間外学修	・授業計画に基づき、授業開始前に資料などに目を通すこと（8h）。 ・授業終了後、講義中に提示された資料を整理し、復習をおこない、講義で取り上げた基本的な概念について自分なりの理解を構築する（10h）。 ・期末レポートの作成（4h）。	
評価方法と評価割合	本授業では、講義内容について理解が十分であるかどうかを基準に評価を行う（定期試験100%、定期試験では自らの作成した手書きのノートのみ参照可）。なお、教員の免許状取得のための必修科目であることから、教師としての資質能力育成のため、教職志望者として不適切な受講態度を減点の対象とする。	
テキスト	・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳（平成29年公示）（廣済堂あかつき） ・小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年公示）（東洋館出版社） ・小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）（東洋館出版社）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

3 年次開講科目

2 学期開講

開講科目名 / Course	成人看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	古賀 雄二	
担当教員名 / Instructor	佐藤 栄治、古賀 雄二、水田 恵子、井上 陽士、吉田 嘉子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	40	
科目の目的と概要	急性期および回復期にある成人期の人を対象に、身体的・心理的・社会的状況をアセスメントし、チームの一員として適切な看護が実践できる力を身につけ、自己の看護観を発展させる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期および回復期にある成人の特徴を説明できる。 急性期および回復期にある成人との良好な援助的人間関係の下で、必要な看護を判断・実践できる。 急性期および回復期にある成人に実践した看護援助を評価できる。 急性期および回復期にある成人に必要な社会資源の活用について説明できる。 急性期および回復期看護における看護職の役割と医療チーム内での連携について説明できる。 急性期および回復期の看護実践を通して自己の看護観を述べるができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<p>実習期間 2026年8月31日～11月20日の期間の2週間</p> <p>実習場所 大分県立病院、大分赤十字病院にて実施する。</p> <p>実習方法 急性期および回復期にある対象1～2名を担当し看護過程を展開する。実習期間中は中間および最終カンファレンスを実施し、担当事例の看護実践をプレゼンテーションし、看護の質を高めるための議論をする。</p>	
その他の授業の工夫	臨地実習指導者の下で学生が看護師と連携し、相談・報告を行いながら実習を展開する。実習の中間日および最終日には施設にて指導者とカンファレンスを実施し、学びをプレゼンテーションする場が設けられる。	
時間外学修	担当患者のアセスメントや看護計画などはテキストや図書を使用しながら課題様式にまとめ思考を整理する（8h）。課題様式は、適宜指導教員に提出し指導を受ける。	
評価方法と評価割合	原則100%出席とする。実習目標の到達度（50%）、実習記録（40%：記録の作成過程、提出物）、実習態度（10%：カンファレンス参加態度含む）により評価を行う。	
テキスト	成人看護学援助論 ・ ・ ・ で指定したテキスト	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	古賀雄二：病院の看護師 佐藤栄治：病院の看護師 水田恵子：病院の看護師 井上陽士：病院の看護師 吉田嘉子：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	実習病院の看護師
実務経験をいかした教育内容	病院での看護の実際を実演し、患者の個別性のある看護について指導をする。	

開講科目名 / Course	成人看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	古賀 雄二	
担当教員名 / Instructor	佐藤 栄治、古賀 雄二、水田 恵子、井上 陽士、吉田 嘉子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	40	
科目の目的と概要	慢性期および終末期にある対象の身体的・心理的・社会的状況を総合的に捉え、チームの一員として適切な看護が実践できる力を習得し、自己の看護観を発展させる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期および終末期にある成人の特徴を説明できる。 2. 慢性期および終末期にある成人との良好な援助の人間関係の下で、必要な看護を判断・実施できる。 3. 慢性期および終末期にある成人に実践した看護を評価できる。 4. 慢性期および終末期にある成人に必要な社会資源について述べるができる。 5. 慢性期および終末期の看護の役割および医療チーム内での連携について述べるができる。 6. 慢性期および終末期の看護実践を通して自己の看護観を述べるができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<p>実習期間 2026年8月31日～11月20日の期間の2週間</p> <p>実習場所 大分県立病院、大分赤十字病院にて実施する。</p> <p>実習方法 慢性期及び終末期にある対象1～2名を担当し看護過程を展開する。実習期間中は中間および最終カンファレンスを実施し、担当事例の看護実践をプレゼンテーションし、看護の質を高めるための議論をする。</p>	
その他の授業の工夫	臨地実習指導者の下で学生が看護師と連携し、相談・報告を行いながら実習を展開する。実習中間・最終日には施設にて指導者とカンファレンスを実施し、学びをプレゼンテーションする場が設けられる。	
時間外学修	担当患者についてのアセスメントや看護計画などはテキストや図書を使用し、自分の思考を課題様式にまとめる（8h）。課程様式は、適宜指導教員に提出し指導を受ける。	
評価方法と評価割合	原則100%出席とする。実習目標の到達度（50%）、実習記録（40%：記録の作成過程、提出物）、実習態度（10%：カンファレンス参加態度含む）により評価を行う。	
テキスト	成人看護学援助論 ・ ・ ・ で指定したテキスト	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	古賀雄二：病院の看護師 佐藤栄治：病院の看護師 水田恵子：病院の看護師 井上陽士：病院の看護師 吉田嘉子：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	病院での看護の実際を実演し、患者の個別性のある看護について指導をする。	

開講科目名 / Course	老年看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、堀 裕子、中釜 英里佳	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	20	
科目の目的と概要	介護老人福祉施設および介護老人保健施設に入所している高齢者（要介護者）の生活を理解し、生活の維持・向上をめざした援助や高齢者を支援する多職種連携システムを学ぶ。また多職種と協働した高齢者の援助を体験することで、老年看護の専門性や看護者の役割を学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者施設で生活している高齢者の生活歴や背景を含めた全体像について説明できる。 2. 老年期に生じる多様な健康上の問題と、健康の維持・増進に向けた看護の焦点について説明できる。 3. 高齢者の生活の質を維持・向上するための具体的な援助が説明できる。 4. 高齢者の健康生活を支援する多職種連携体制と看護の役割が説明できる。 5. 高齢者の尊厳を尊重した基本的態度で実習に参加できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 第3段階実習期間（8月31日～11月20日）のうち5日間 2. 実習場所 大分市内の介護老人保健施設および介護老人福祉施設（配置施設にて実習） 3. 実習方法 施設に入所している高齢者を担当しアセスメントを行い看護の方向性を考察する。臨地実習指導者と共に高齢者のより良い生活を目指した看護援助を実践する。また、デイサービス・デイケアを利用する地域高齢者との交流から、生活の維持・向上をめざした援助や高齢者を支援する方法を体験する。実習期間中、デイリーカンファレンスおよび最終カンファレンスを実施する。カンファレンスでは、担当事例への看護実践を発表し、高齢者に対する看護の質向上を目指して議論を行う。 	
その他の授業の工夫	担当した高齢者をアセスメントし、臨地実習指導者の下で援助を実践する。施設にて指導者とカンファレンスを実施し学びをプレゼンテーションし意見交換する場を設ける。	
時間外学修	担当高齢者についてのアセスメントや看護の方向性は、テキストや図書を使用し、課題様式にまとめて学習をすすめる。課題様式を指導教員に提出し指導を受ける（2h）。 デイリーレポート作成、翌日の予習を行う（2h）。	
評価方法と評価割合	出席状況（原則全日出席）、目標に照らした実践内容（70%）、グループ討議の参加度（10%）、レポートの内容（20%）で評価する。	
テキスト	ナーシング・グラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 老年看護学 高齢者看護の実践（メディカ出版） 系統看護学講座 基礎看護学（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件	老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学演習を履修し、単位を取得していること。	
その他	感染症等の疑いがある場合は、高齢者施設での実習ができないため体調管理に留意して臨むこと。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：病院の看護師 堀裕子：病院の看護師 中釜英里佳：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	高齢者施設に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設で暮らす高齢者の個別性のある看護や多職種連携についてディスカッションし、看護の振り返りと思いを支援する。また、高齢者に実施する看護技術の習得を支援する。	

開講科目名 / Course	小児看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	草野 淳子	
担当教員名 / Instructor	草野 淳子、足立 綾、堤 恒貴	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	40	
科目の目的と概要	健康な小児とコミュニケーションをとり成長発達を理解する：保育所実習では13施設に分かれて、各学生が3日間の実習を行う（7月末）。 健康障害のある小児とその家族への看護を实践する：総合病院または医療型障害児入所施設における医療施設で7日間の実習を行う（8月31日～11月20日）。	
到達目標	1. 小児看護学の既習の知識・技術・経験などを基盤として、小児と家族への看護を実施できる。 2. 保育所では小児の発達段階における特徴や個人差を考慮した日常生活への援助を実施できる。 3. 保育の特徴と支援する大人の関わり方を述べることができる。 4. 病院では健康障害のある小児の療養生活における看護過程を展開できる。 5. 小児と家族への看護実践を通して、専門職としての自己の課題を述べるができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	授業計画 実習期間： 1) 保育所実習は、2026年7月21日～7月31日（各自3日間） 2) 病院実習は、2026年8月31日～11月20日（各自7日間） 実習施設： 1) 保育所実習は、市内13施設に分かれての実習 2) 病院は、大分県立病院（小児病棟）と別府発達医療センターの2施設に分かれての実習 実習方法： ・保育所実習では、配置された保育所で、小児の保育を实践する。年齢別の小児の成長発達を理解するため、できるだけ異年齢のクラスに入り保育を实践する。 ・病院実習では、学生は患児1名を受け持ち、看護計画を立案し看護過程を实践する。受け持ち患児以外の小児に行われる検査・処置にも積極的に参加する。 ・実習中の記録は実習時間外の自己学習となる。 *実習オリエンテーションは7月上旬に行い、詳細を説明する。	
その他の授業の工夫	保育所実習では、保育所一カ所につき2～3人で配置される。担当のクラスで主体的に実習し、疑問などはタイムリーに自分から質問することが求められる。各グループで最終日に「手洗い法」の健康指導を行う。 病院実習では、受け持ち患児の看護過程の展開の他、病院の院内学級や処置の見学などを行う。	
時間外学修	事前学修として小児看護や受け持ち患者の病態の学習をしてください。教科書や専門書を用いて事前学習をした上で実習に臨んでください（5h）。 事後学修として、看護過程の展開（情報収集・アセスメント・看護診断・看護計画の立案）、ファイナルレポートについて学習・記載をしてください。また、学習不足の部分は専門書を用いて調べてください（5h）。	
評価方法と評価割合	実習態度20% 事前学修：看護過程の展開（情報収集・アセスメント・看護診断・看護計画の立案・評価・サマリー記載）病態の学習70% 事後学修：小児看護学実習での学び、病態の復習（ファイナルレポートの記載）10%	
テキスト	各自	
参考書	各自	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の實務経験	有・無	有

	内容	草野淳子：産科病棟助産師、保健所保健師 足立綾：病院小児科看護師 堤恒貴：病院小児科看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	産科病棟助産師(新生児看護、母子愛着形成、看護過程の立案)、保健所保健師(乳幼児健診、未熟児訪問)、病院小児科看護師(病気がある子どもの看護過程の立案、小児科で必要な技術)の経験をふまえる。保育所実習では、健康な小児の成長発達を理解し、保育の実践を教授する。病院実習では健康障害がある小児の看護過程の展開と日常生活援助・看護技術を教授する。	

開講科目名 / Course	母性看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	濱 耕子	
担当教員名 / Instructor	徳丸 由布子、永松 いずみ、濱 耕子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	40	
科目の目的と概要	母体に宿った新しい命が健やかに生まれ、そしてこの世に誕生し、成長発達していく過程を健康面より援助することが母性看護の主な役割であり、母性看護学は、親になることの支援を通して、次世代の健全育成を目指す学問である。そのため、母性看護学実習では、ウェルネスの視点から周産期における母子とその家族の全体像を把握し、対象の看護過程の展開を通して必要な援助が提供できる基礎能力を養う。また、母子及びその家族に対して看護専門職者が果たすべき役割について理解するとともに、周産期医療における関連領域専門職者との連携について学ぶ。さらに、生命の尊厳についての認識や自己の看護観を発展させる機会とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児各期の母子とその家族の特徴及び必要とされる看護援助について述べるができる。 2. 母性看護の対象者の個別性やウェルネスの視点を踏まえた看護過程を実践できる。 3. 母子とその家族への援助に関わる多職種や地域社会との連携及び保健医療チームの一員として看護職者の役割について述べるができる。 4. 生命への尊厳の念を抱き倫理的に看護を実践できる専門職としての姿勢について述べるができる。 5. 看護実践上の課題を明確にして自己の看護観を述べるができる。 6. 自らの母性または父性について述べるができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	実習期間：2週間（2026年8月31日～11月20日） 実習施設：大分県立病院、堀永産婦人科医院、いしい産婦人科医院、生野助産院、サロンリラ/ディーなつ助産院 実習方法：妊産褥婦・新生児を受け持ち、母性看護学で学んだ看護を実践し、看護過程を展開する。	
その他の授業の工夫	母性看護援助論、母性看護学演習で学んだ知識や技術を自己学習により整理し、知識を修得してから実習に臨む。	
時間外学修	事前学習ノートの課題を提示するので各自内容を整理し、知識を修得する（8h）。	
評価方法と評価割合	評価表を用いた実習目標の達成度（85%）と実習態度（15%）にて評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]（医学書院） 病気がみえる vol.10 産科（メディックメディア） ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件	母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論、母性看護学演習を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	濱耕子：病院の助産師 永松いずみ：病院の助産師 徳丸由布子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師、助産師
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。	

開講科目名 / Course	精神看護学実習
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	3
主担当教員 / Main Instructor	杉本 圭以子
担当教員名 / Instructor	後藤 成人、杉本 圭以子、外池 桃子
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	実習
授業回数	40
科目の目的と概要	精神科病院、障害福祉サービス事業所での実習を通して、以下のことを学習する。 1)精神疾患を持つ人と援助的対人関係を形成し、その人を全人的に理解して、必要な看護を考えること。 2)精神保健医療福祉の理解を深め、精神疾患を持つ人に地域資源を活用して支援する方法。 3)精神看護実践に必要な自己洞察の態度。
到達目標	病院実習： 1. 精神疾患を持つ人（入院患者）の心身と生活の状態を全人的に記述できる。 2. 必要な看護計画をたてることできる。 事業所実習： 1. 精神疾患を持つ人（在宅生活）の生活状況を全人的に記述できる。 2. 利用している社会資源と必要な支援について説明できる。 病院・事業所実習を通して： 1. 精神保健医療福祉の連携と、看護の役割について説明できる。 2. 人（患者、利用者、実習指導者、教員など）との関わりを通して対人関係における自分の傾向を振り返って述べることできる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力
授業計画	実習期間：令和8年8月31日～11月20日（この期間中の2週間） 実習場所： ・病院 衛藤病院、山本病院、大分下郡病院、仲宗根病院のいずれかの病院にて4～5日間 ・事業所 一般社団法人 SWライフ 就労継続支援B型施設「サマンの木」 一般社団法人 SWライフ 就労継続支援B型施設「サマン春日」 社会福祉法人みのり会 就労継続支援B型施設「毎日食堂」 社会福祉法人龍和会 指定就労継続支援 B型事業所「てんとうむし」のいずれかの事業所に て基本4日間 ・学内カンファレンス 1日 実習方法： ・病院実習では、学生は1人で患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。ただし、看護計画の実施は可能な範囲で行う。 ・事業所実習では、利用者とともに就労活動に参加し、利用者の生活状況と利用している社会資源について学ぶ。 *詳細は、実習オリエンテーションにて説明する。
その他の授業の工夫	精神科では、患者の社会復帰を視野に入れた支援が重要となるため、実習を通して、病院のみでなく、事業所でも実習を行うことにより、地域における当事者の社会復帰支援まで視野に入れた学びができるようにしている。
時間外学修	概論、援助論、演習で学習した内容を復習し、実習の事前学習として資料を整理する（2h）。 日々の実習についてレポートなどで振り返りを行い、学びを深める（8h）。
評価方法と評価割合	出席は原則100%とする。 実習記録（提出状況および内容）・・・60% 実習態度（実習指導者や担当教員への連絡・報告・相談、グループ内の協力状況等）・・・20% カンファレンスへの参加状況（積極性）・・・20%
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護（メヂカルフレンド社）

参考書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] (医学書院) 精神看護学 臨床で活かすケア ころこ・からだ・かかわりのプラクティス (南江堂) 看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 (メヂカルフレンド社)	
履修する上で必要な要件	精神看護学概論、精神看護援助論、精神看護学演習を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	杉本圭以子：精神科病院、精神科クリニックでの看護師としての経験 後藤成人：精神科病院での看護師としての経験 外池桃子：精神科病院での看護師としての経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	実習病院の指導者（看護師）：病院での勤務経験 精神障害者を地域で支援する福祉施設の職員としての経験
実務経験をいかした教育内容	上記の勤務経験を活かし、精神障害を有する人々への具体的な看護ケアの方法、支援の在り方などについて伝える。	

開講科目名 / Course	地域看護学実習（3年次開講）
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	3
主担当教員 / Main Instructor	川南 公代
担当教員名 / Instructor	小野 治子、川南 公代、持田 恵理、首藤 佐織、高木 優衣
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	実習
授業回数	20
科目の目的と概要	第4段階の地域看護学実習は、3年次の第3段階実習終了後に行われる。第3段階の実習との学びを統合し、地域における看護職（保健師・助産師・看護師）としての活動の場の広がりや、人々の生活の営みと健康との関連等を学び、人間理解の深まりと視野の拡大をめざす。看護の広がりを実感する実習として臨む。
到達目標	1. 実習地域（市町村）の概況と生活環境についての情報を基に、地域の特徴と健康との関連を説明できる。 2. 保健所または市町村保健部門の各種保健事業への参加を通して、看護職（保健師・助産師・看護師）が行っている主な活動を説明できる。 3. 看護職（保健師・助産師・看護師）が行う支援の対象が、様々なライフステージや健康レベルの人々であることを説明できる。 4. 実習を通して、地域において求められる看護職（保健師・助産師・看護師）の役割を考察できる。 5. 地域看護の場において看護倫理を基に適切に行動できる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力
授業計画	実習期間：1週間（2026年11月24日～11月27日・11月30日） 実習時間：8:30～17:15（実習時間は原則として各実習施設の勤務時間） 実習場所：大分県内の県保健所、大分市保健所、市町村保健部門のいずれか1施設 実習方法：実習場所における地域看護の対象となる人々への看護活動を見学や体験をする。 カンファレンス：実習期間中は、学生主体で日々のカンファレンスを行い、学びを共有する。実習指導者から助言を受け、学びの内容を深める。 ディスカッション：原則、実習最終日に実施する。実習中に捉えた情報を追加した実習の概要シート（模造紙）をもとに、実習地の説明をする。実習での体験及び学びのレポートをもとに、テーマを決めてディスカッションを行い、学びを深める。 実習終了後は、既習の学び、実習中の学び、学内での学びを統合し、Finalレポートを作成し提出する。 指導体制：担当教員は巡回型で指導を行う。
その他の授業の工夫	・実習の到達目標を達成するために、実習前に、自己の実習課題を作成し提出する（実習前に実習施設へ送付する）。 ・実習中は、地域生活支援論で作成した「実習地の概要シート（模造紙）」に追加情報を記入し、実習施設のディスカッションにて、実習地の説明をする。
時間外学修	事前学修（実習前）：提出した自己の実習課題を再確認し、実習に備える。実習中の体験予定の看護活動については、既習の関連する内容を復習して、実習に臨む（2h）。 事後学修（実習中・実習後）：実習中は日々の体験内容を振り返り、毎日の学びをまとめる。さらに、ディスカッションの準備として、学びのレポートを作成する。実習後は、実習のすべてを振り返り学びを統合し、Finalレポートを作成する（2h）。
評価方法と評価割合	原則、実習オリエンテーション、臨地実習、学内のまとめ等実習に関する内容に、全て出席とする。 実習内容・実習態度（日々のカンファレンス/ディスカッション、学内のまとめの参加度も含む）：40% 実習記録（自己の実習課題・実習地の概要シート・Dailyレポート、学びのレポート）：50% Finalレポート：10%
テキスト	

参考書	地域看護学概論、地域生活支援論で活用したテキスト等を活用する。	
履修する上で必要な要件	地域看護学概論、地域生活支援論の単位を修得していること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	川南公代：行政の保健師 小野治子：高校・支援学校の養護教諭 首藤佐織：行政の保健師 高木優衣：行政の保健師 持田恵理：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	実習指導者：保健所および市町村保健部門で働く保健師
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた保健師活動を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。実習指導者と実習目標の達成のために、密に連携し協働する。	

3 年次開講科目

3 学期開講

開講科目名 / Course	英語
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	3
主担当教員 / Main Instructor	宮内 信治
担当教員名 / Instructor	宮内 信治
必修・選択 / compulsory subject	選択
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	10
科目の目的と概要	A : 語彙を習得、増強する。ギリシャ語・ラテン語などを起源とする英語語彙と分野横断的な知識に触れる。学習範囲に応じて語彙小テストと英文暗唱レビューを実施する。 B : Retold版を通して英語で名著文学を講読する。本文をパラグラフ単位で音読する。学習範囲内の英文暗唱レビューを実施する。
到達目標	A : 1.習得した英語語彙の意味を説明できる。 2.ギリシャ語・ラテン語起源の接頭辞、語根、接尾辞から単語の意味を類推できる。 B : 1.語の強勢を正しく再現できる。 2.文法を意識して節を分けることができる。 3.文意、文脈を解釈できる。 4.英文を暗唱できる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、5.地域性・国際性
授業計画	A-01. 講義概要説明、基本語の確認 B-01. Chapter 1 - 2 A-02. Session 12 (people and the stars, the earth and its life) B-02. Chapter 3 - 4 A-03. Session 13-1 (cutting in and out, more cuts) B-03. Chapter 5 - 6 A-04. Session 13-2 (love and words, more love) B-04. Chapter 7 - 8 A-05. Session 13-3 (words and how they affect people, how people live) B-05. Chapter 9 - 10
その他の授業の工夫	A : Concise Oxford Dictionaryなどを用いて適宜語源を確認し、併せてその周辺に記載されている語を参照することで、知識の幅を広げる。 B : 教材巻末にあるActivitiesを使って物語の流れを通して文脈を把握していく。英和辞典を適宜参照し、未知語彙の発音、品詞、語意を確認する。
時間外学修	事前学修A : 講義予定部分の未知語句を調べ、概要を把握しておく (4h)。 事前学修B : 本文に目を通し、未知語彙の発音、品詞、語意を調べる (3h)。 事後学修A : 音読練習により英文暗唱レビューに備える。語彙小テストに備える (6h)。 事後学修B : 文法とそれによる節の区切りを意識して音読練習し英文暗唱レビューに備える (6h)。
評価方法と評価割合	A : 英文暗唱レビュー (25%)、語彙小テスト (25%) で評価する。 B : 音読確認 (25%)、英文暗唱レビュー (25%) で評価する。 欠席・遅刻 (早退) は減点する。欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席3回にて成績評価レベルを一段階下げる。また欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席4回にて期末筆記試験の受験資格を失う。授業に積極的に参加していない態度、授業に対する敬意を欠く態度、授業進行妨害行為などは、教員の判断により減点対象扱いとする場合がある。授業への出席状況などは学生が自らの責任において把握管理すること。
テキスト	A : Word Power Made Easy B : 講義開始前に指定
参考書	A: Concise Oxford Dictionary (Oxford University Press) B: 批判理論入門「フランケンシュタイン」解剖講義 (中公新書)
履修する上で必要な要件	英語 A、英語 B、英語 A、英語 Bの単位をすべて取得していること。

その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	環境疫学・生物学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名 / Instructor	小嶋 光明、恵谷 玲央	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	健康と環境(生活習慣を含む)との関係は、疫学的な統計によって関係が明らかになってくる知見と分子細胞レベルでの生物学的な仕組みを通して明らかになってくる知見とがある。基礎的事項の演習と事例を通して、健康と環境との関係についての知見が生まれてくる仕組みの基礎を学ぶことを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境保健の基礎である疫学的アプローチと生物学的アプローチを説明できる。 2. がん細胞と正常細胞の生物学的特徴を、数値データに基づいて説明できる。 3. データの確率分布を説明できる。 4. データを統合あるいは分析できる。 5. バイオテクノロジーの原理を説明できる。 6. 遺伝子疾患を説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、4.連携協働・リーダーシップ	
授業計画	01. 演習の進め方 02-03. 画像解析による細胞倍加時間の定量解析 がん細胞と正常細胞の増殖比較 04-05. 画像解析による遺伝子発現レベルの可視化と定量 がん細胞と正常細胞の分子特性比較 06-07. パイオインフォマティクス 08-09. データのパラッキとヒストグラム 実測データを用いた記述統計の基礎とヒストグラムによる可視化 (Excel演習) 10-11. 正規分布とポアソン分布 正規分布・ポアソン分布の概念と、実データへの適用の基礎 12-13. オッズ比と相対リスク 食中毒・喫煙関連事例を用いたリスク指標の算出と有意差検定 14-15. 医療画像処理・解析 医療画像の基礎的処理とCTR算出による定量評価の実践	
その他の授業の工夫	毎回課題を与えレポートにまとめさせる。課題の背景やポイントをあらかじめ解説し、課題レポートを時間内で完成するように指導する。	
時間外学修	事後：よく分からなかった点について調べ、自分で解決できなかった点が残った場合には質問事項として整理し、担当教員等に確認しておく (12h)。	
評価方法と評価割合	課題レポート：100%	
テキスト	授業ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	成人看護援助論 (終末期)	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	古賀 雄二	
担当教員名 / Instructor	佐藤 栄治、古賀 雄二、水田 恵子、井上 陽士、吉田 嘉子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	成人期において死を迎えつつある人や家族への理解を深め、その人らしい生を全うできるような支援を行うための看護について学習する。また、終末期医療における倫理的諸問題を理解し、人間の生死について自己の価値観への理解(自己理解)を深め、他者の価値観(その人らしさ)を尊重する態度(他者理解)と看護のあり方を学ぶことができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の終末期医療に関する概念と保健医療システムや社会資源について説明できる。 2. 終末期ケアの現状について説明できる。 3. 終末期にある成人患者とその家族が体験するトータルペイン(身体的・精神的・社会的・霊的な苦痛)の概念と倫理的諸問題を説明できる。 4. 死に向かう成人と家族の心理過程と悲嘆プロセス、死別後の家族の悲嘆プロセスについて説明できる。 5. 死に向かう成人と家族の意思決定プロセスと意思決定支援について説明できる。 6. 緩和ケア医療におけるチーム医療と看護の役割を述べるができる。 7. 終末期に出現する症状と症状緩和の方法について説明できる。 8. 終末期における医療者ケアについて説明できる。 9. 学習のプロセスを通して、望ましい終末期について自分の考えを説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 成人の終末期医療に関する概念 02. 成人の終末期医療に関する理論 03. 成人の終末期をとりまく保健医療システムや社会資源 04. 終末期を迎える成人患者への看護：症状マネジメント、臨死期のケア 05. 終末期を迎える成人患者と家族への看護：緩和ケアにおける倫理的課題、意思決定支援、ACPとチームアプローチ、遺族ケア 06. 終末期を迎える成人患者を看取る医療者への支援 07. 終末期ケアの実際 08. 終末期ケアの実際 事例検討 	
その他の授業の工夫	外部講師を招聘するなど、臨床事例から看護実践の意味付けや重要性の再認識につながるように工夫している。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について配布資料や教科書を用いて予習する(10h)。 事後学修：配布資料を用いて復習する(12h)。	
評価方法と評価割合	レポート100%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1](最新版)(医学書院) 系統看護学講座 別巻 がん看護学(最新版)(医学書院) 系統看護学講座 別巻 緩和ケア(最新版)(医学書院)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	必要に応じ、ハンドアウトを提示する。	
教員の実務経験	有・無	無

	内容	古賀雄二：病院の看護師 佐藤栄治：病院の看護師 水田恵子：病院の看護師 井上陽士：病院の看護師 吉田嘉子：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	対象者への看護実践の経験を活かし、学生の興味関心が高まるように看護と関連づけた事例紹介を取り入れ講義を行う。	

開講科目名 / Course	看護管理学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 章裕	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、矢野 亜紀子、大矢 七瀬	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	看護管理学概論 では、看護管理学概論 で学んだ知識を踏まえて看護管理のプロセスおよびマネジメントの実際について学習する。 マネジメントや医療・看護の質を高めるための理論や方法などを学び、組織等で看護職としての役割を發揮できる基本的な態度を身に付けるとともに、より良い看護を提供するための政策立案に向けた思考の基盤を作る。	
到達目標	1. 看護サービスの提供のプロセスと仕組みづくりについて説明できる。 2. 看護サービスの質評価と質の保証について、改善策を立案・検討できる。 3. 看護を取り巻く諸制度について説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ	
授業計画	01. 看護現場に関連する制度と法律 02. 看護における人のマネジメント 03. 看護における物やコストのマネジメント 04. 看護組織の活動と倫理 05. 看護と経済・経営 06. 看護サービスのマネジメント 07. 医療・看護の質改善1：看護の実践現場における改善計画 08. 医療・看護の質改善2：発表とディスカッション	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学ぶため、教員からの積極的な発問に加え、グループワークや意見交換等のアクティブラーニングを実施する。	
時間外学修	事前学修：次回の授業で扱う制度や事例について、配布資料や指定動画を用いて予習する（8h）。 事後学修：授業で扱ったケースやノートを整理して内容を振り返り、ミニレポートの作成等をおおして知識と考え方を整理する（14h）。	
評価方法と評価割合	出席時間数の3分の2以上の出席を評価要件とする。 平常点：10%（発言等の積極性）、レポート：90%	
テキスト	テキストは使用せず、毎時間、講義資料を配布する。	
参考書	系統看護学講座 別巻 看護管理（医学書院） 看護の統合と実践 看護管理（メディカ出版）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院に勤務する看護師 荒木章裕：病院に勤務する看護師 矢野亜紀子：病院に勤務する看護師 大矢七瀬：病院に勤務する助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護職としての実務経験を活かして看護管理の在り方と実際について授業を行う。	

開講科目名 / Course	在宅看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、矢野 亜紀子、大矢 七瀬	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	在宅看護援助論では、在宅看護学概論で習得した在宅看護の基本的な考え方、援助方法、ケアマネジメント、社会資源、多職種連携などの知識を基盤に、紙上事例を通じて、在宅療養者とその家族に対する看護展開を学ぶ。授業は講義とグループワーク形式で行う。	
到達目標	1. 事例において、在宅療養者とその家族に対する看護過程を展開できる。 2. 在宅療養者とその家族の意思を尊重した看護計画を立案できる。 3. 在宅看護で用いる看護技術の方法を説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ	
授業計画	01. オリエンテーション 02. 事例による看護展開(1)グループワーク：情報整理、看護の方向性抽出 03. 事例による看護展開(2)グループワーク：アセスメント 04. 事例による看護展開(3)グループワーク：アセスメント 05. 事例による看護展開(4)グループワーク：看護課題の抽出 06. 事例による看護展開(5)グループワーク：看護計画の立案 07. 事例による看護展開(6)グループワーク：まとめ 08. 事例による看護展開(7)発表	
その他の授業の工夫	視聴覚素材を用い、在宅療養および在宅看護についてイメージできるようにする。 学生が主体的に学ぶため、グループワーク、討議、発表など、アクティブラーニングを実施する。 グループワークでは、グループへの積極的な参加・貢献について、自己・他者評価を行う。	
時間外学修	事前学修： 【講義】事前配布される講義資料を用いて予習を行う(4h)。 【グループワーク】担当事例について予習を行う(8h)。 事後学修： 【講義】在宅看護に関する動画を視聴し、レポートを作成する(2h)。 【グループワーク】教員の指導を受け、看護過程を修正する(8h)。	
評価方法と評価割合	平常点：20%(発言等の積極性) レポート・提出物：60% グループワークの他者評価：20% 出席時間数の3分の2以上の出席を評価要件とする。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1](医学書院)	
参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2](医学書院)	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 荒木章裕：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 矢野亜紀子：病院での勤務および訪問看護ステーションでの研修の経験 大矢七瀬：病院勤務および地域の母子への支援経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無

	内容	訪問看護ステーションに勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして、在宅看護の知識や技術について教育する。	

開講科目名 / Course	国際看護比較論
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	3
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子
担当教員名 / Instructor	桑野 紀子、篠原 彩
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
授業回数	8
科目の目的と概要	<p>本講義は、世界の健康課題および各国の保健・医療・福祉システムや保健医療に関する人的資源の現状について比較・分析し、グローバルな視点から看護職の役割について理解を深めることを目的とする。日本との比較を通して、各国の特徴や課題を整理し、日本の保健医療や看護の特徴について考察する。</p> <p>さらに、母子保健、精神保健等の分野別課題について、国際的な取り組みと看護との関連を検討する。</p> <p>あわせて、海外に渡航・在住する日本人の健康支援や、海外の保健医療専門職との協働について学び、看護職として求められる能力や自己の課題を省察することで、将来の実践や学修に活かす視点を形成する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 諸外国と日本の保健・医療・福祉システムについて、共通点および相違点を比較し、特徴を整理できる。 2. 文化社会的背景が多様な人々について、健康リスクや支援上の課題を事例に即して述べるができる。 3. 海外に渡航・在住する日本人の健康課題について、看護の役割を述べるができる。 4. 海外の保健医療専門職との協働に関して、自己の強み・課題を言語化し、今後の学修課題を述べるができる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 疾病負荷（Global Burden of Diseases, GBD）、DALYからみた世界の健康課題 02. 世界の保健医療における人的資源（医療人材の偏在、国際比較） 03. 難民・移民を取り巻く現状、国際的課題と健康問題 04. グローバルメンタルヘルス 05. ウイメンズヘルス、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ 06. 国際協力の現場における看護の実際 07. 外国人労働者の健康課題：在留外国人労働者の健康課題を通して国際看護を考える 08. 多様な文化・社会・言語背景をもつ在留外国人の看護の実際（事例検討、グループワークと発表）
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で得た知識を事例に適用し、適宜小グループでディスカッションする機会がある。 ・海外での看護実践について話を聞き、質疑応答を通して理解を深める講義を含む。 ・世界の保健医療情報は原文（英語）でも伝え、英語での情報収集能力向上を図る。
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：次回の学習内容について、テキストの該当範囲や配布資料を用いて予習する（7h）。 ・事後学修：レポート作成等を通して学修内容について理解を深めるとともに、国際機関のホームページ等から周辺情報を収集して関連情報を収集する力を培う（15h）。
評価方法と評価割合	<p>平常点（発言等の積極性、グループワーク等における貢献度）：30%</p> <p>数回の演習テーマに関する課題レポートまたは小テストの合計：20%</p> <p>定期試験：50%</p>
テキスト	看護の統合と実践 国際看護学（メジカルフレンド社）
参考書	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]（医学書院）</p> <p>系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3]（医学書院）</p> <p>看護テキスト NICE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために（南江堂）</p> <p>Global Applications of Culturally Competent Health Care: Guidelines for Practice（Springer）</p>
履修する上で必要な要件	

その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	桑野紀子：看護師、助産師、保健師 篠原彩：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	看護師、助産師、保健師
実務経験をいかした教育内容	国内外での看護実践や研究活動をふまえ、グローバル社会における看護の実際について事例を通して学生に指導する。	

開講科目名 / Course	災害看護学	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	石田 佳代子	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、福田 広美、石丸 智子、松 久美、内倉 佑介	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	本講義では、災害の基礎的知識として、災害の種類と特徴、災害サイクル各期の特徴と災害医療・看護、保健医療対応の原則、災害と法律・制度、災害発生時の医療体制や支援体制、災害への備えなどについて、幅広い視点から多角的に学ぶ。また災害時特有の疾病・病態や医療対応の要点を学び、災害時に必要とされる迅速かつ確かなアセスメント（トリアージの基本的な方法の習得など）および災害時の看護マネジメントの基礎的能力を身につける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の歴史、定義、種類、災害サイクル、法律・制度、災害発生時の対応やしきみなどを包括的にまとめることにより、看護職者として連携することができる基礎的知識を備えることができる。 2. 災害サイクル各期における特徴と健康問題、災害看護の役割と活動などを述べるができる。 3. 対象者のニーズに合わせて応用するために必要とされる能力について議論することができる。 4. トリアージ（一次トリアージ：START法）についてその手順を述べるができる。 5. トリアージ・シミュレーションにおいてトリアージ区分を分類し、実施できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 災害および災害看護に関する基礎的知識（石田） 02. 災害サイクルと看護活動：超急性期～急性期（石丸） 03. 災害サイクルと看護活動：亜急性期～慢性期（石田） 04. 病院における災害看護（福田） 05. 災害に関する法律・制度、災害への備え（石田） 06. 災害時特有の疾病・病態とアセスメント（内倉） 07. 災害時における医療活動の実際：避難所等における活動（石田） 08. 災害時における医療活動の実際：DMAT活動など（松） 09. 災害時に必要な看護技術：演習（1）トリアージ(START法)、情報伝達訓練（松・石田・石丸・内倉） 10. 災害時に必要な看護技術：演習（2）机上訓練（松・石田・石丸・内倉） 	
その他の授業の工夫	実際の災害現場での活動経験が豊富な講師が演習を進行する。トリアージ・シミュレーション訓練、情報伝達訓練、机上訓練などの体験型学習を中心に行う。	
時間外学修	<p>事前学修：e-learning等を用いた演習前の学習準備（4h）。</p> <p>事後学修：テキストの該当部分や配布資料に基づき、関連事項を整理し、レポートを書くことで、理解を深める（15h）。</p>	
評価方法と評価割合	レポート（各教員が課題を提示する）により評価する（100%）。（参加できなかった場合には、その回の教員に至急、連絡して指示を受けること）	
テキスト	看護学テキストNICE災害看護（改訂第4版）（南江堂）	
参考書	被災地で活動するナースのための災害派遣シミュレーションQ&A（日本看護協会出版会） 災害の襲うとき カタストロフィの精神医学（みすず書房）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>石田佳代子：災害支援ナース、病院の看護師</p> <p>福田広美：病院の看護師</p> <p>松久美：日本DMAT、病院の看護師</p> <p>石丸智子：病院の看護師</p> <p>内倉佑介：病院の看護師</p>

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	国内の災害時にDMATや災害支援ナースとして被災地で医療活動を行った経験を活かした事例場面を取り上げ、その実際について解説する。また、各教員のスキルを活かした実践的な演習指導を行う。	

開講科目名 / Course	看護科学研究	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、永松 いずみ、矢野 亜紀子、秋本 慶子、岡田 悠希、水田 恵子、持田 恵理、三苫 美和	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	卒業研究および将来の臨床における看護研究に必要とされる基本的な考え方、知識、技術を修得することを目的とし、研究のプロセスに対応した、研究テーマの設定から文献収集、研究計画書の作成といった過程のすすめ方、研究デザインの決定やデータ解析技法の知識と実践といった内容をオムニバス形式で講義する。	
到達目標	1. 看護研究の意義を説明できる。 2. 看護研究手法の基本について説明できる。 3. 文献の検索とレビューが行える。 4. 卒業研究の準備を行う。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 看護研究の意義 02. 文献検索と文献研究 03. 調査研究 04. 実験研究 05. 質的研究 06. 統計学・データ解析 07. 論文の書き方、発表の仕方 08. 研究の倫理と安全 卒業研究発表会への参加	
その他の授業の工夫	演習、小レポートなどを組合せ、学びを深める。 卒業研究発表会に出席することで、看護研究の広がりや発表・質疑応答の実際について学習する。	
時間外学修	授業後、各自で復習を行うとともに、学んだ内容を配属される研究室での卒論に備えた準備に反映すること。 事前学修：事前課題やレポートにより講義に関する予習を行う（7h）。 事後学修：事前課題やレポートにより講義に関する復習を行う（15h）。	
評価方法と評価割合	各回の評価（小テストやレポート課題などが課される）80%と卒業研究発表会参加後のレポート20%を合算して100%とする。なお、すべての回に参加することが評価の前提である。理由に依らず、講義や演習に参加できなかった場合は、その回の講師に至急連絡して指示を受けること。	
テキスト	ハンドアウトを配布する。 参考図書等は別途指示する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	学校保健学	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	草野 淳子	
担当教員名 / Instructor	草野 淳子、小野 治子、手嶋 康深、大渡 文子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	15	
科目の目的と概要	児童・生徒の心身の健康維持・増進における学校保健の役割について、保健管理、保健学習、保健指導等を取り上げ、学校保健の内容を理解し、講義内容の要点を説明することができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 根拠となる法律、学習指導要領と教育課程について述べることができる。 2. 学校保健の意義や内容について述べるができる。 3. 年間行事を見通した保健室経営案や学校保健計画が立案できる。 4. 保健管理・健康教育・組織活動について述べるができる。 5. 個人や集団を対象とした保健指導の立案・実施ができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 全体オリエンテーション、養護教諭の職務 02. 学校保健活動の実際 03. 学習指導要領と教育課程及び学校保健の意義・内容 04. 学校保健安全計画の立案方法 05. 学校における健康観察（日常・緊急時の対応） 疾病・感染症の管理と予防（生徒・児童に多い疾患・感染症） 06. 健康診断の実施と事後処理 07. 学校環境衛生（教室内の温度・照度・机や椅子の高さなど） 学校における広報活動の実際（保健だより・掲示物） 08. 保健室経営の立案・演習と評価 09. 学校における保健組織活動（委員会活動） 10. 症状アセスメントと対応の実際・課題の提示 11. 健康相談と心のケア（虐待・いじめ・ストレス） 12. 保健教育：保健指導案の作成方法・課題の提示 13. 保健教育：模擬授業（1） 14. 保健教育：模擬授業（2） 15. 保健教育：模擬授業（3） 	
その他の授業の工夫	学校保健に関して公表されている資料・新聞記事・雑誌・学術論文など適宜ハンドアウトを配布し、最新の情報を提供する。 演習・発表を多く組み込むことで、それぞれの学生が影響を及ぼすグループダイナミクスを期待している。	
時間外学修	<p>事前学修：教科書を使用し予習を行う。シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書、参考書等を用いて予習を行う（6h）。</p> <p>事後学修：教科書と講義資料を用い復習を行う（6h）。</p> <p>課題学習：保健室経営の演習課題（5h）、症状アセスメントの課題（10h）、保健教育の課題（18h）。</p>	
評価方法と評価割合	筆記試験70%、演習課題30%	
テキスト	新養護概説（少年写真新聞社）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	小野治子：高等学校、特別支援学校の養護教諭 草野淳子：保健所保健師 手嶋康深：小学校、中学校の養護教諭 大渡文子：指導主事、小学校、中学校の養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	2名の非常勤講師については、指導主事、小学校、中学校での養護教諭の経験が30年以上あるため、実務経験をいかした教育内容を教授することができる。非常勤講師の講義を含め、児童、生徒の学校保健に関する養護教諭の職務を学生に教授する。具体的には、学校教育・学校保健の関係法令、学校教育の基本事項等である。	

開講科目名 / Course	教育制度論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	今井 航	
担当教員名 / Instructor	今井 航	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	<p>第1に、世界主要国における教育制度改革の動向を取り上げたり、受講学生自らが過ごしてきた学校が制度上どう位置づけられるのかを問うたりすることにより、教育制度への関心を高める。</p> <p>第2に、職務内容や守るべき義務、免許制度、研修制度を取り上げることにより、教職員に関する制度の特徴を捉える。</p> <p>第3に、教育委員会の制度の移り変わり、教員評価の制度、学校支援の制度を取り上げることにより、教員はそうしたことにどう応じればよいのかを考える。</p>	
到達目標	<p>1. 教育に関する制度について、関連法規や答申などを踏まえながら理解したことを、説明する。</p> <p>2. 教育に関する制度を踏まえた上で、学校や学級を運営する計画を立案することができる。</p>	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<p>01. 教育制度の基本と改革動向 日本の教育制度を支える基本原理、世界主要国における教育制度改革動向</p> <p>02. 学校の制度 学校の定義と種類、学校の設置者、学校の起源と学校系統、学校制度改革の論点</p> <p>03. 教職員の制度 教職員の職務内容と守るべき義務</p> <p>04. 教員養成の制度 教員の免許と養成・採用のしくみ</p> <p>05. 教員研修の制度 「学び続ける教員」を支えるしくみ</p> <p>06. 教育行政の制度 教育行政のしくみと今日的な動向</p> <p>07. 教員評価の制度 評価システムを通してみえてくるもの</p> <p>08. 学校関係者による学校支援の制度 「地域とともにある学校」に向けた学校と地域の連携・協働や、学校安全への対応</p>	
その他の授業の工夫	ハンドアウトにより最新教育事情に関する話題提供を行う。受講者が話し合う機会を提供する。	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画に基づき、授業開始前に資料などに目を通すこと（8h）。 ・授業終了後、講義中に提示された資料を整理し、復習を行い、生徒指導における基本的な概念について自分なりの理解を構築する（10h）。 ・期末レポートの作成（4h）。 	
評価方法と評価割合	試験結果（学期末試験100%）。授業で扱った内容に基づき、到達目標及びテーマを踏まえながら作成された各問に、正確に答えられるかどうか。語句による記述式や記号選択式の問題により問う。	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・新・教育制度論 教育制度を考える15の論点（ミネルヴァ書房） ・講義レジュメ・資料 	
参考書	「第3章 現在の学校教育制度」新版 はじめて学ぶ教育の原理（学文社）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	養護実習事前事後指導	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平、秋本 慶子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	<p>事前指導：まず、実習校を事前訪問し打ち合わせを行う。次に、学校ホームページに記載された内容や学校要項を参考に、実習校の概要を調べる。その上で、具体的で評価が可能な、実習における行動目標を立案する。</p> <p>事後指導：実習での体験を学生同士で交流し合う活動を通し、実習での学びを深める。自分が立案した実習行動目標に沿って、自らの実習を評価する。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習校の概要を説明することができる。 2. 具体的で評価可能な実習行動目標を立案する。 3. 実習中に体験した事象を、実習記録として、具体的に記載する。 4. 事前に設定した行動目標に沿って、自分の実習を評価する。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション 02. 個人調書の作成と実習校事前訪問 03. 4年次履修生との交流を通じた養護実習の理解 04. 実習目標の作成（死人テスト、具体性テストによるチェック） 05. 養護実習の振り返り（PCAGIP法を用いた理解の深化） 06. 構成的エンカウンターグループの理解 07. 新大分スタンダードに基づく授業展開の理解 08. 生徒指導の3機能を活かした授業展開の理解 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・履修者同士がペアを組み、相互に批評し合う時間を設ける。 ・異学年の教職課程履修生との交流の機会を提供する（時間割上可能な場合）。 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校のホームページ、事前訪問で収集した要項に基づき、実習校の概要をまとめる（5h）。 ・実習における具体的な行動目標を策定する（5h）。 ・場面指導案を作成し、模擬授業の準備をする（6h）。 ・エンカウンターグループのエクササイズの実施準備をする（6h）。 	
評価方法と評価割合	実習日誌の記載内容（目標設定など、60%）、授業中に提示する課題（20%）、参加状況（発言、グループ活動への参加状況など、20%）で判断する。	
テキスト	なし	
参考書	改訂 養護実習ハンドブック（東山書房）	
履修する上で必要な要件		
その他	みなさんが体験する初めての学校での実習になります。学校という実習の場を体験することは、皆さんがこれまで体験した看護学の実習の学びを、さらに深める良いきっかけにもなるはずです。いろいろなことに、驚き、興味を持ち、疑問を感じてください。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：公認心理師、学校心理士 秋本慶子：臨床心理士、小学校教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	教育現場で課題となる児童虐待、発達障害、保護者への対応などについて、事例を紹介する。	

開講科目名 / Course	養護実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平、秋本 慶子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	20	
科目の目的と概要	児童生徒及び教職員との交流を通して、教師に求められる資質、自らの教師としての適性について省察する。養護実習では、学校への参加を通じて、学校で展開される教育活動、教職員及び児童生徒の学校での生活を、自身の体験を通して理解することを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公教育機関である学校が、どのような理念・体制の下、運営されているのかを説明できる。 2. 学校の教育活動がどのように展開されるのかを、教師としての立場から説明できる。 3. 担当した学年の児童生徒の学校における心身・生活の状況を説明できる。 4. 実習期間中の体験を、記録として整理する。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、6.探究心と創造力	
授業計画	<p>実習を通して、以下の内容についての学びを深める。実際の実習計画については、実習期間の学校の行事予定を勘案し、実習校が中心になって策定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童生徒、校内環境、教職員の職務についての理解 2. 学校運営計画、教育課程、校務分掌、服務規程など学校を支える制度についての理解 3. 校区を対象とした地域特性の理解 <p>実習校：大分県内の小中学校で実施する。 実習期間：2027年2月中旬（実習校と調整して決定する）。</p>	
その他の授業の工夫	実習期間中に、担当教員が実習校を巡回する。必要に応じて遠隔での指導を併用する。	
時間外学修	その日の実習で行われた講話内容、授業参観記録、日誌を記載し、翌朝、実習校の担当教員の確認を受ける（4h）。	
評価方法と評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校による態度・意欲面を中心とした評価（50％） ・実習日誌の記載事項に基づく知識、思考、表現面を中心とした評価（50％） 	
テキスト		
参考書	改訂 養護実習ハンドブック（東山書房）	
履修する上で必要な要件	2年次が終了する時点で、下記～の要件を全て満たしている者に、養護実習の履修を許可する。 修得した全単位の平均GPAが2.50以上である（小数点第二位以下切り捨て）。 進級試験に合格している（再試験での合格も可）。 卒業要件単位の未修得がない。	
その他	はじめの実習です。まずは、子どもたちとの交流をしっかりと愉しんでください。自分自身が子どもの目から見て楽しい大人であること、自分の感情状態を自分で調整することを、今まで以上に真剣に考えてください。学校で体験する様々な出来事を通して、色々なことを考え、感じ、自らの課題を発見し、今後の進路を現実的な課題として、引き受けることを期待しています。 実習校へ通うために必要となる交通費、給食費は自己負担となります。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：公認心理師、学校心理士 秋本慶子：臨床心理士、小学校教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	巡回指導時に、機会があれば教室の環境構成、児童等の作成物の見方などについて説明する。児童生徒との関係性の構築に関し、必要に応じて遠隔で指導する。	

4 年次開講科目

1 学期開講

開講科目名 / Course	看護政策論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、矢野 亜紀子、大矢 七瀬	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	看護制度や政策に関する基礎知識や基本的な考え方について学修する。看護制度が創られてきた過程を学ぶことで、基本的な政策過程を理解する。また、看護制度における課題を理解し、課題を解決していくための看護政策への参画や改革について基礎的な考え方を学修する。	
到達目標	1. 看護制度や政策に関する基礎知識や基本的な考え方を述べることができる。 2. 看護政策過程の基本的なプロセスについて説明できる。 3. 看護制度の課題を解決していくための基本的な考え方を述べるができる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ	
授業計画	01. 看護政策と社会的責務 02. 看護の課題と法制度の改正 03. 看護政策の課題 04. グループワーク発表 05. 看護政策過程と看護職能団体 06. 看護政策と法律改正事例 07. 看護政策課題と対策の要望 08. グループワーク発表	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学ぶため、グループワークや発表、意見交換等のアクティブラーニングを実施する。看護学実習の経験をもとに看護制度や政策について考え、理解を深める。	
時間外学修	事前学修：事前課題やレポートにより講義に関する予習を行う（7h）。 事後学修：事前課題やレポートにより講義に関する復習を行う（15h）。 看護学実習で看護制度や政策に関する知識を活用する。	
評価方法と評価割合	提出物（30%）とレポート（70%）を判断して評価します。 出席を前提としているため欠席の場合は減点の対象とします。	
テキスト	授業ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書	看護職者のための政策過程入門（日本看護協会出版会） 看護制度と政策（法政大学出版局） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]（医学書院） 看護の統合と実践 看護管理（メディカ出版）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院に勤務する看護師 荒木章裕：病院に勤務する看護師 矢野亜紀子：病院に勤務する看護師 大矢七瀬：病院に勤務する助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして看護管理の理論や知識、看護政策について教育する。	

開講科目名 / Course	在宅看護学実習
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First
開講区分 / semester offered	1 学期 / First
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	4
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、矢野 亜紀子、大矢 七瀬
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	実習
授業回数	20
科目の目的と概要	<p>在宅看護学実習では、訪問看護ステーションおよび在宅看護におけるさまざまな生活の場での実習を通して、疾病や障がいもちながら生活する療養者とその家族に、継続的かつ予防を含めた看護を提供する。また、法令・制度について理解を深めながら、その中での看護の機能・役割について探求することをねらいとする。</p> <p>在宅看護学実習の目的は以下の3つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者とその家族を中心とした看護の実際を学び、療養者の個別性に合わせたケアを継続的に提供するための看護者としてのスキルを身に着ける。 2) 訪問看護の意義・役割・運営基盤を、多職種連携を含む実際の活動等を通して理解する。 3) 在宅看護に携わる看護職者としての態度を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養者の病態および治療とその影響についてアセスメントできる。 2. 療養者のセルフケア能力と家族の介護力、療養環境に応じた看護計画が立案できる。 3. 病院と異なる療養環境の特性を説明できる。 4. 在宅ケアチームの一員としてケアに参加できる。 5. 在宅看護に関する制度や療養者を支える社会資源について説明できる。 6. 療養者とその家族をとりまく社会資源の実際と、連携・協働における看護の役割を説明できる。 7. 訪問看護ステーションの運営基盤（人材、物品、経営、関連法規等）を説明できる。 8. 多職種や地域で生活する人々との関わりを通して、看護職としての自分の考えを述べることができる。 9. 在宅で療養する人々の多様な価値観（健康観・人生観）の理解と尊重を通して、看護職としての行動をとることができる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性
授業計画	<p>実習期間 2026年5月11日（月）～6月5日（金）4週間のうちの1週間</p> <p>実習施設 大分県内の訪問看護ステーション</p> <p>実習方法 原則1名の利用者を受け持ち、在宅療養の場における看護を行う。 様々な在宅看護の場で実践および見学を行う。</p>
その他の授業の工夫	訪問看護ステーションの利用者を受け持ち、療養者とその家族への看護を通して、在宅看護への理解を深める。また、訪問看護ステーションが連携する多様な施設や職種についても実際の場を経験しながら学ぶ。
時間外学修	<p>事前学修：在宅看護学概論または在宅看護援助論の講義内容およびテキストを用いて事前レポートを作成する（2h）。</p> <p>事後学修：各種実習記録の作成を行う（2h）。</p>
評価方法と評価割合	出席日数は100%出席することを原則とし、平常点（30%：看護学実習において必要な態度）、実習内容（70%：実習目標に対する達成度評価、記録を含む）により評価を行う。
テキスト	
参考書	<p>系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1,2]（医学書院）</p> <p>強みと弱みからみた在宅看護過程（医学書院）</p> <p>ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開（ふくろう出版）</p>
履修する上で必要な要件	第3段階実習および当該実習を担当する科目群の全ての専門科目、在宅看護学概論および在宅看護援助論の単位を修得済であること。
その他	実習期間中に止むを得ず参加できない場合は、至急担当教員に連絡し、指示に従う。無断欠席をした場合は、それ以降の実習に参加できないことがある。

教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 荒木章裕：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 矢野亜紀子：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 大矢七瀬：病院での助産師としての勤務の経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	訪問看護ステーションに勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして在宅看護学の知識や技術について教育する。	

開講科目名 / Course	地域看護学実習（4年次開講）
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First
開講区分 / semester offered	1 学期 / First
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	4
主担当教員 / Main Instructor	川南 公代
担当教員名 / Instructor	小野 治子、川南 公代、持田 恵理、首藤 佐織、高木 優衣
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	実習
授業回数	20
科目の目的と概要	第4段階の地域看護学実習は、4年次前期に在宅看護学実習と並行して行われる。在宅看護学実習との学びを統合し、地域における看護職（保健師・助産師・看護師）としての活動の場の広がりや、人々の生活の営みと健康との関連等を学び、人間理解の深まりと視野の拡大をめざす。看護の広がりを実感する実習として臨む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習地域（市町村）の概況と生活環境についての情報を基に、地域の特徴と健康との関連を説明できる。 2. 保健所または市町村保健部門の各種保健事業への参加を通して、看護職（保健師・助産師・看護師）が行っている主な活動を説明できる。 3. 看護職（保健師・助産師・看護師）が行う支援の対象が、様々なライフステージや健康レベルの人々であることを説明できる。 4. 実習を通して、地域において求められる看護職（保健師・助産師・看護師）の役割を考察できる。 5. 地域看護の場において看護倫理をもとに適切に行動できる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力
授業計画	<p>実習期間：1週間（2026年5月11日～6月5日）</p> <p>実習時間：8:30～17:15（実習時間は原則として各実習施設の勤務時間）</p> <p>実習場所：大分県内の県保健所、大分市保健所、市町村保健部門のいずれか1施設</p> <p>実習方法：実習場所における地域看護の対象となる人々への看護活動を見学や体験をする。</p> <p>カンファレンス：実習期間中は、学生主体で日々のカンファレンスを行い、学びを共有する。実習指導者から助言を受け、学びの内容を深める。</p> <p>ディスカッション：原則、実習最終日に実施する。実習中に捉えた情報を追加した実習の概要シート（模造紙）をもとに、実習地の説明をする。実習での体験及び学びのレポートをもとに、テーマを決めてディスカッションを行い、学びを深める。</p> <p>実習終了後は、既習の学び、実習中の学び、学内での学びを統合し、Finalレポートを作成し提出する。</p> <p>指導体制：担当教員は巡回型で指導を行う。</p>
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の到達目標を達成するために、実習前に、自己の実習課題を作成し提出する（実習前に実習施設へ送付する）。 ・実習中は、地域生活支援論で作成した「実習地の概要シート（模造紙）」に追加情報を記入し、実習施設のディスカッションにて、実習地の説明をする。
時間外学修	<p>事前学修（実習前）：提出した自己の実習課題を再確認し、実習に備える。実習中の体験予定の看護活動については、既習の関連する内容を復習して、実習に臨む（2h）。</p> <p>事後学修（実習中・実習後）：実習中は日々の体験内容を振り返り、毎日の学びをまとめる。さらに、ディスカッションの準備として、学びのレポートを作成する。実習後は、実習のすべてを振り返り学びを統合し、Finalレポートを作成する（2h）。</p>
評価方法と評価割合	<p>原則、実習オリエンテーション、臨地実習、学内のまとめ等実習に関する内容に、全て出席とする。</p> <p>実習内容・実習態度（日々のカンファレンス/ディスカッション、学内のまとめの参加度も含む）：40%</p> <p>実習記録（自己の実習課題・実習地の概要シート・Dailyレポート、学びのレポート）：50%</p> <p>Finalレポート：10%</p>
テキスト	

参考書	地域看護学概論、地域生活支援論で活用したテキスト等を活用する。	
履修する上で必要な要件	地域看護学概論、地域生活支援論の単位を修得していること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	川南公代：行政の保健師 小野治子：高校・支援学校の養護教諭 首藤佐織：行政の保健師 高木優衣：行政の保健師 持田恵理：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	実習指導者：保健所および市町村保健部門で働く保健師
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた保健師活動を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。実習指導者と実習目標の達成のために、密に連携し協働する。	

開講科目名 / Course	社会保障システム論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	持田 恵理	
担当教員名 / Instructor	持田 恵理	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	本講義では、保健・医療・福祉サービスを提供するための制度の概要を学ぶ。まず看護職と法制度の関係を理解した上で、看護職の業務に関わる法制度の内容を理解する。さらに、看護職と関わる他の職種の法制度の内容を理解するとともに、保健・医療・福祉に関するサービスを提供するうえでの看護職の役割について理解する。	
到達目標	1. 看護職と法制度の関係について説明できる。 2. 看護職の業務に関わる法制度の内容を説明できる。 3. 看護職と関わる他の職種の法制度の内容を説明できる。 4. 看護職の役割について考察することができる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ	
授業計画	01. 看護職と法制度 02. 保健師助産師看護師法 03. 看護師等の人材確保の促進に関する法律、労働基準法、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 04. 医事法 医療法 05. 医事法 医療関係者に関わる法律 06. 保健衛生法 地域保健法、健康増進法、精神保健法、母子保健法、学校保健安全法 07. 保健衛生法 感染症に関する法律 08. 社会保険法・福祉法	
その他の授業の工夫	これまでの講義や実習等での看護職の役割を想起させ、法律との関係を説明する。特に保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律については看護職として業務を遂行する上での基盤となる法律であり、法改正の経緯等も含めて丁寧に説明する。また、他の関係する法律に関しては、看護職の関係についても学べる内容とする。法制度に関して可能な限り最新のデータを提供して、実社会の動きや事象と関連付けられるように解説する。	
時間外学修	事前学修：前日までに講義資料を配布するので、講義までに一読しておくこと（8h）。 事後学修：毎回講義内容が多岐にわたるため、講義回ごとに復習し、「国民衛生の動向」などで関連事項を理解すること（14h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験（80%） 各回講義の後の小テスト（20%）	
テキスト	講義ごとにハンドアウトを配布する。 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3,4]（医学書院）	
参考書	国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 国民の福祉の動向（厚生労働統計協会） 保険と年金の動向（厚生労働統計協会）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	持田恵理：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

実務経験をいかした教育内容	保健福祉行政に関わった経験から、保健・医療・福祉サービスに関わる法制度の仕組みを教授するとともに各政策と看護職の関わりについて学べる内容とする。
---------------	--

開講科目名 / Course	予防的家庭訪問実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、福田 広美、佐藤 愛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	20	
科目の目的と概要	<p>< 実習目的 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に住む高齢者の生活・人生を長期的な視点で捉えることができる。 2. 地域に住む高齢者の健康と生活を維持するための支援について考えることができる。 3. 高齢者の在宅生活を支えるためのシステムや地域のあり方（自治体の取り組み等を含む）を考えることができる。 4. 世代や学年を超えた人とコミュニケーションをとることができる。 <p>< 4年次実習目的 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者の健康や生活に関するアセスメントを行い、今後予測される変化を踏まえて支援の提案ができる。 2. 協力者が生活する地域の特徴や課題を把握し、必要な社会資源を考えることができる。 3. チームのリーダーとしてその方法を他学年と共有し継続した支援を実践することができる。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者が望む地域での生活を実現するために、必要な社会資源の活用について提案できる。 2. 協力者とのかかわりを通して、地域の特徴や課題に気づいて述べることができる。 3. 協力者が住む地域の特徴や課題を踏まえ、必要な社会資源について述べるができる。 4. 高齢者が住み慣れた地域で生活を続けるために必要な社会資源について、説明することができる。 5. チームリーダーとして、協力者への支援が継続できるよう、チーム内での相互協力を促進することができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性	
授業計画	<p>実習期間：2026年4月～12月</p> <p>実習場所：富士見が丘団地・下横瀬地区、野津原地区の70歳以上の協力者のご家庭等</p> <p>実習方法：学生の到達目標を考慮し、協力者の家庭を訪問する。学生は1～4年生の縦割りで構成されたチームのメンバーとともに、年間4回以上訪問する。</p>	
その他の授業の工夫	<p>1～4年生で構成されるチームで複数回の継続的な訪問を行い、学年間の学びの共有と協働的学修を促す。</p> <p>訪問計画の調整が必要な場合には、看護研究交流センターや担当教員に相談しながら進める。</p>	
時間外学修	<p>事前学習：カンファレンス、予習(1.5h)</p> <p>事後学習：カンファレンス、記録作成(2.5h)</p>	
評価方法と評価割合	<p>年4回以上訪問し、以下の ～ により総合的に評価する。</p> <p>訪問のレポート・・・60%</p> <p>実習内容 / 実習態度・・・30%</p> <p>最終レポート・・・10%</p>	
テキスト	必要時、ハンドアウトを配付する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>小野美喜：病院における看護活動</p> <p>佐藤愛：病院・地域における看護活動</p> <p>福田広美：病院における看護活動</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無

	内容	
実務経験をいかした教育内容	学生の相談に応じ、健康な在宅生活に必要な条件や健康教育の方法について助言する。	

開講科目名 / Course	総合看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子	
担当教員名 / Instructor	桑野 紀子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	40	
科目の目的と概要	保健・医療・福祉システムとしてのケア提供体制の現状について理解するとともに、組織やチームの一員として連携・協働する中で、エビデンスに基づいた総合的な実践能力を強化する。また、組織やチームが協働して効果的に看護活動を行うために必要な看護マネジメントについて学ぶ。各自が本実習の全過程を通して主体的に実習を実施し、看護専門職としてのセルフマネジメント力を強化する。さらに、本実習を通して、自分の看護観を深める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉システムの中での看護職の役割と課題を述べるができる。 2. チームの一員として連携・協働した看護実践ができる。 3. 看護活動を効果的に行うための看護マネジメントについて述べるができる。 4. 学生が自ら設定した実習課題について、実習計画の立案、実践、実習の振り返りの意見交換等のすべてをセルフマネジメントすることができる。 5. 自分の看護観を深め、他者に伝えることができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<p>実習期間：2026年6月15日（月）～6月26日（金）</p> <p>実習施設：大分県下の病院、診療所、訪問看護ステーション、小児関連施設、母性関連施設、精神関連施設、地域包括支援センター</p> <p>実習方法：大分県下39の実習施設から、自己の学習動機に基づき実習施設を選択する。実習施設決定後、総合看護学実習目標に基づき、自己の学習課題と施設に応じた到達目標を設定し、担当教員の助言を受けながら実習計画を立案する。臨地実習期間中は看護チームの一員として実習し、臨地実習指導者の指導を受けながら到達目標達成につなげる。</p>	
その他の授業の工夫	実習施設または病棟等に1名の学生を配置することで、現場の実習指導者と報告、連絡、相談しながら実習を主体的に進めることができる。地域密着病院、診療所、地域包括支援センターなど、第1～4段階の実習施設以外の施設で実習することもでき、看護についてより広い視点から学ぶことができる。また、適宜、自己評価を行い、目指すべき学習目標に対して、自己を省察し自己の強みや弱み、成長を確認しながら実習に取り組む。すべての看護系教員が担当教員として指導に関わり、研究室内で協力体制をつくり指導にあたる。	
時間外学修	<p>事前学修：自分が実習する施設の特徴と自己の課題をふまえて既習の知識・看護技術について復習し、実習要項作成に反映させる。実習目的・目標の設定、実習計画立案、実習要項作成等一連の準備は指導教員に指導を受けて進める（6h）。</p> <p>事後学修：実習で実施した看護についての記録やテキスト等を用いて振り返り、達成できたことと今後の課題を整理する（2h）。</p>	
評価方法と評価割合	事前学習30%（要項作成、事前打ち合わせ準備等）、実習内容70%（実習態度、目的・目標の達成度、提出物等）により判断する。	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	基礎、専門、広域看護学講座教員：看護師、助産師、保健師、養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有

	内容	看護師、助産師、保健師
実務経験をいかした教育内容	大分県下39の実習施設において、臨地実習指導者が日常的な業務を行いながら現場で学生を指導する。担当教員は適切な実習目標や実習計画の立案や、カンファレンスでの関わりを通して、看護専門職としての資質向上に向けて指導する。	

開講科目名 / Course	卒業研究	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	4.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	60	
科目の目的と概要	個々の学生指導教員と相談し、研究テーマを考え、既習の知識・技術、倫理的考え方をもとに研究計画を立て、調査や実験を行い、研究テーマにおける課題解決や仮説を検証し、論文作成、研究発表までの体験を通し、将来的な種々の研究活動の基盤を形成することを目的とする。	
到達目標	配属された研究室で教員の指導のもと、 1. 自分が取り組む研究テーマの関連領域の知識を獲得できる。 2. 研究テーマに必要な先行研究のレビューができる。 3. 自己の研究テーマの学術的意義を説明できる。 4. 研究計画書作成、調査・実験、要旨・論文作成、研究発表の一連のプロセスを実施する。 5. 論理的な論文構成で、正確で根拠に基づく卒業論文を完成できる。 6. わかりやすく研究発表ができる。 7. 興味・関心・探求心をもち主体的に卒業研究に取り組むことができる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、6.探究心と創造力	
授業計画	配属研究室の教員が適宜指示する。 卒業論文要旨提出 2026年11月19日（木） 卒業論文提出 2026年11月27日（金） 卒業研究発表会 2026年12月1日（火）	
その他の授業の工夫	・各々の学生が1つのテーマに取り組み、研究の一連のプロセスを踏むことができる。 ・学生は各研究室に配属され、研究室の教員と豊富に研究指導の機会が得られる。	
時間外学修	卒業論文及び要旨を期限内に提出し、卒業研究発表ができるよう計画的に進める。 事前学修：テーマに関する研究を行う（25h）。 事後学修：指導をもとに研究を行う（20h）。	
評価方法と評価割合	・卒業論文、要旨、発表資料の提出状況と発表会を評価する（60%）。 ・知識、技能、思考・判断、表現、主体性の観点からルーブリック評価を行う（40%）。	
テキスト	配属研究室の教員が適宜指示する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	原著講読	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期、2 学期 / First, Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	専門領域の原著論文（英語論文が望ましい）を読み、専門領域の知見を深め、卒業研究論文をまとめるにあたりその知見を活かすことができる。	
到達目標	1. 専門領域の原著論文（英語論文が望ましい）を2本以上読み、その知見を述べるができる。 2. 卒業論文をまとめるにあたり、原著講読で学んだ知見を活かすことができる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、6.探究心と創造力	
授業計画	所属研究室の進め方に従うこと。以下は、一例を示す。 01. オリエンテーション 02. 原著論文検索 03. 原著翻訳・資料作成 04. 原著翻訳・資料作成 05. 原著翻訳・資料作成 06. 原著翻訳・資料作成 07. 抄読会・クリティーク 08. 抄読会・クリティーク 09. 抄読会・クリティーク 10. 抄読会・クリティーク 11. 抄読会・クリティーク 12. 発表 13. 発表 14. 発表 15. 発表	
その他の授業の工夫	配属研究室の指示による。	
時間外学修	卒業研究と並行して計画的に進める。 事前学修：原著に関する予習を行う（6h）。 事後学修：原著に関する復習を行う（6h）。	
評価方法と評価割合	・2本以上の原著講読の遂行とゼミへの参加状況を評価する（60%）。 ・原著講読について知識、技能、思考・判断、表現、主体性の観点からルーブリック評価を行う（40%）。	
テキスト	配属研究室の教員が適宜指示する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

4 年次開講科目

2 学期開講

開講科目名 / Course	応用生体機能病態論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	濱中 良志	
担当教員名 / Instructor	吉田 成一、濱中 良志、霧野 嘉厚	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	これまでに学習した解剖学・生理学・病理学・薬理学を臨床の場で生かせるように学習し、さらに、社会的問題点を意識できるようになる。	
到達目標	1. 患者に対して、医学的・看護学的アセスメントができるようになる。 2. 患者に対して、社会的な支援を説明できるようになる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 臨床薬理・高血圧 02. 臨床薬理・糖尿病 03. 臨床薬理・抗菌薬 04. 薬害・B型肝炎訴訟概要 05. 薬害・B型肝炎体験者による講演 06. 腎移植 07. 不整脈 08. 心不全 09. 虚血性心疾患 10. 脳神経疾患 尚、講義の順番は変更することがある。	
その他の授業の工夫	1) B型肝炎原告団弁護士による訴訟概要の講演と薬害肝炎体験者の体験談と質疑応答 2) 腎移植医師との対話的講義	
時間外学修	YouTube の配信動画 (HAMANA+K+チャンネル; 心電図: 暗記からの卒業シリーズ、国試対策: 暗記からの卒業シリーズ https://www.youtube.com/channel/UCTSwGFAu2uGIfaCVi6zSwcQ) の授業の該当箇所を視聴して事前学修 (9h) 及び授業後の復習 (10h) とする。	
評価方法と評価割合	薬害肝炎患者による講義に対するレポートの評価: 30% 配信動画の事前・事後学習に対する評価: 30% 小テストによる評価: 40%	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の實務経験	有・無	有
	内容	濱中良志: 臨床医 (外来と当直業務) 霧野嘉厚: 弁護士 (B型肝炎九州訴訟大分弁護団)
教員以外で指導に関わる者の實務経験	有・無	有
	内容	B型肝炎九州訴訟大分弁護団および原告 腎移植医
實務経験をいかした教育内容	臨床で経験した症例を使って、対話形式で授業を行う。	

開講科目名 / Course	応用看護援助技術演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	石丸 智子	
担当教員名 / Instructor	石丸 智子、徳丸 由布子、篠原 彩、内倉 佑介、堤 恒貴、大矢 七瀬、井上 陽士、外池 桃子、高木 優衣、堀 裕子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	看護基礎教育の総仕上げとして、学んだ知識、技術を有機的に統合し、根拠に基づくアセスメント能力および適切かつ安全・安楽な看護技術を提供できる実践能力を養う。学生が看護技術に関する自らの課題に主体的に取り組み、自己研鑽しながら看護技術の定着と向上を図ることを目的としている。	
到達目標	1. 臨床現場において遭遇しやすい事例を通して、根拠に基づいたアセスメントができる。 2. 課題事例のニーズや状況に合わせて必要な看護技術を判断できる 3. 課題事例について、適切かつ安全・安楽な看護技術が提供できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	授業は原則2コマ続きで実施する 01. オリエンテーション、個人課題事例の決定、活動計画立案 02-03. 共通課題について事例の看護過程の展開を検討する 04-05. グループワークおよび実技練習を行う 06-07. 看護技術を展開している場面を録画記録する 08-09. 記録した動画を担当教員に提出し指導を受ける 10-11. 個人課題について事例の看護過程の展開を検討する 12-13. 実技練習を行い、看護展開している場面を録画記録する 14-15. 記録した動画を担当教員に提出し指導を受ける * 詳細は別途資料を配布する	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生個人の課題に基づいて、事例課題を選択し、取り組むことができる。 ・ 学生個人で技術展開到達度を設定できる。 ・ 学生個人の計画に合わせて授業時間を活用できる。 ・ 学生の希望に応じて技術展開について教員から指導を受けることができる。 ・ 出席確認はwebを利用する。 ・ 課題事例に関する看護技術展開中の映像を各自録画記録する。これにより、技術展開の向上の程度や課題の発見など自己評価を客観的に行うことができる。 	
時間外学修	<p>事前学修：看護技術に関するe-ラーニング（Nursing Skills）及び課題事例について予習する（6h）。</p> <p>事後学修：課題事例については、シミュレータ（SCENARIO）や各自撮影録画した資料等を用いて、復習する（6h）。</p> <p>* 課題事例の実施期間は、基礎・成老年実習室を開放する。但し、土曜・日曜は原則として使用できない。</p>	
評価方法と評価割合	評価は課題提出（課題提出状況、記載内容の評価）80%、演習態度（ワークノートの提出状況および記載内容、グループワークへの参加度を含む）20%で行う。 遅刻、欠席は減点対象とする。20分以内の遅れは遅刻とし、超える場合は欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。期限までに課題提出がない場合には単位認定不可とする。	
テキスト	指定なし	
参考書	指定なし	
履修する上で必要な要件		
その他	オリエンテーションで資料を配付して詳細な説明を行う。	
教員の實務経験	有・無	有

	内容	石丸智子：病院の看護師 徳丸由布子：病院の助産師 高木優衣：保健師 その他、看護系教員8名程度が指導担当：全員が看護師経験を有する。
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	豊かな看護実践力を活かして、看護技術の原理や科学性の理解を促進させる。対象に対して安全で安楽な技術の展開を考える示唆を与えながら支援する。	

開講科目名 / Course	養護実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	3.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平、秋本 慶子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	60	
科目の目的と概要	児童生徒及び養護教諭をはじめとする教職員との交流を通して、養護教諭に求められる資質、自らの養護教諭としての適性について省察を深め、卒業後の自身の進路を選択する。養護実習では、学校保健や学校安全がどのような理念及び体制の下に管理されているのか、保健室の活動に参加しながら理解を深めることを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校における保健管理について説明できる。 2. 学校における安全管理について説明できる。 3. 学校における環境衛生の管理について説明できる。 4. 学校保健、学校安全に関する組織活動について説明できる。 5. 学校における保健教育について説明できる。 6. 保健指導案を作成し、児童生徒を対象に、保健指導を実施する。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、6.探究心と創造力	
授業計画	<p>実習を通して、以下の内容についての学びを深める。実際の実習計画については、実習期間の学校の行事予定を勘案し、実習校が中心になって策定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健（安全）教育、保健（安全）指導 2. 児童生徒の健康、安全、生活の管理 3. 学校環境の衛生、安全の管理 4. 学校保健組織活動 5. 学校における危機管理 <p>実習先：大分県内の小中学校で実施する。 実習期間：2026年8月下旬～10月中旬の9日間（実習校と打ち合わせの上、確定する）</p>	
その他の授業の工夫	実習期間中に担当教員が実習校を巡回する。zoomを用いて、指導案などの添削を行う。	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の実習で行われた講話、授業参観を記録する。日誌とあわせて担当教員の確認を受ける（3h）。 ・保健指導案を作成し、巡回時（またはオンライン）に担当教員から指導を受ける（3h）。 ・保健指導（学習）に必要な資料、教材を自作する（3h）。 ・掲示物や保健だよりを作成する（3h）。 	
評価方法と評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校による態度・意欲面を中心とした評価（50%） ・実習日誌の記載事項に基づく知識、思考、表現面を中心とした評価（50%） 	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件	3年次までに開講される全ての教職課程の単位を履修済みであること。	
その他	<p>養護実習は、教職課程履修のクライマックスです。職業として養護教諭を選択するのかわからないのか、するとして、すぐ教壇に立つのか、しないとして、数年後には教壇に立つのか、人生の大きな選択をすることになります。色々なことを自分で考え、判断して動く、主体的な関わりを求めます。こういうことをしてみたい、してもいいのだろうか？と感じた際は、失敗を恐れずに、実習校の先生、大学の指導教員に尋ねてください。</p> <p>実習校までの移動に要する旅費、給食費は、自己負担となります。</p>	
教員の実務経験	有・無	有

	内容	吉村匠平：公認心理師、学校心理士 秋本慶子：臨床心理士、小学校教諭一種
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	
実務経験をいかした教育内容	巡回指導の際に、保健学習指導案の指導を行う。	

開講科目名 / Course	教職実践演習（養護教諭）	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second,Third	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平、小野 治子、秋本 慶子、中釜 英里佳	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	養護実習 は、実際の教育現場である学校で行われるため、実習内容は、学校種、学校の規模、教職員の配置、校区の特性などに大きく影響をうけることになる。教職実践演習では、まず、養護実習 を振り返り、その内容を履修生同士で交流することによって、各自が実習で何を学び、何を学んでいないかを明確にする。その上で、多くの履修生にとって不足しているであろうトピックを取り上げて、演習を展開する。施設見学実習に関しては、日程調整が必要なため、授業計画に示した施設を訪問できるかは未定である。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの履修内容、養護実習を振り返り、自身の養護教諭としての適性について説明する。 2. 養護教諭になるための現時点の自己課題を明確にし、説明する。 3. 自己課題に向き合うために、どのような学習が必要か言う事ができる。 4. 卒業後の進路を決定する。 5. 教職課程を履修することが、看護学の学びにどのように影響したか、説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01-04. 養護実習 の振り返り（PCAGIP法を用いて） 05-06. 救急法演習 07-11. 特別支援学校参観 12-13. 人間関係づくりプログラム（構成的エンカウンター）の理解と実践 14-15. 保健指導案の作成～アクティブラーニングを志向した授業展開の構成	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じてゲストスピーカーを招聘する。 ・ 校外への見学実習を企画する場合がある。その際の移動に要する費用は、原則参加者の負担となる。 ・ 学生が、課題に取り組み、作成し、表現する機会を多く設ける。 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間中に完成できなかった課題を持ち帰り、完成させること（15h）。 ・ 見学実習のレポート作成（10h）。 ・ アイスブレイクのファシリテーションができるよう、web上の動画を見て準備をする（5h）。 ・ 履修カルテを完成させる（5h）。 ・ 実習記録を完成させる（5h）。 ・ 保健指導案の作成（5h）。 	
評価方法と評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種プレゼンテーション（50%） ・ 履修カルテ、レポート、制作物（50%） 	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件	全ての履修生が、養護実習 を終えたのちに開講する。	
その他	卒業研究と並行しての履修です。タイムマネジメントの絶好の学習機会と考えてもらえると嬉しいです。 4年間を振り返り、教職課程を履修してよかったと思える点を多く発見しましょう。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：公認心理師、学校心理士 小野治子：高等学校、特別支援学校の養護教諭 秋本慶子：臨床心理士、小学校教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無

	内容	
実務経験をいかした教育内容	学校で頻繁に観察される事象を用いて、課題を構成し、例示を行う。	

